

自分のための決断...

赦し

赦しを通して人生を正しく歩む方法を学ぶ



ジョイス・マイヤー

#1 ニューヨークタイムズのベストセラー作家

自分のための決断...

赦し

ジョイス・マイヤー

— —

Unless otherwise indicated, all scripture quotations
are taken from the:

SHINKAIYAKU BIBLE.

Copyright © 2004 by Inochi No Kotoba Sha
(used by permission);

and from the LIVING BIBLE.

Copyright © 1971 by Inochi No Kotoba Sha
(used by permission).

Copyright © 2015 by Joyce Meyer
All Rights Reserved.

Translated and printed by Lifehouse Media in Japan.
<http://www.mylifehouse.com>

For more copies of this book and other resources
please contact the Joyce Meyer Ministries Japan
team at contact@jmmjapan.jp.

目次

はじめに	vii
1. そんなの、不公平だ	1
2. 怒りという感情	9
3. 怒りの根源	17
4. 嫉妬の根源	27
5. 怒りを隠す	37
6. 誰に怒っているの？	45
7. 助けて：腹が立つ	63
8. 助けて：怒る人との人間関係	71
9. なぜ赦すか？	79
10. 赦したいけど、どうしたらいいのかわからない	91
11. 隠れた赦していない心を探る	107
12. 一致の力と祝福	115
13. 神様、私を憐れんでください	127
14. あなたの重荷を軽くする	139
15. 神様からの報酬	149
新たな人生を体験する	158
ジョイス・マイヤーについて	160
ジョイス・マイヤーへお問い合わせ	162

はじめに

イエスを通して私たちの罪が赦され、私たちが神様との親密な関係を取り戻すことが出来るように、イエスはこの地上に来てくれました。赦しというイエスからの無償の贈り物は、何にも比べる事が出来ない唯一のものです。私たちが神様から無償で受け取ったものを、私たちも同じように無償で他の人に与えるようにと神様は望んでいます。私たちは神様からの赦しを受け取ったので、私たちも、私たちに罪を犯した人や、私たちを傷つけた人を赦すことが出来ます。

もし、私たちが人を赦さないなら、私たちは惨めな気持ちになり、赦さない心が悪性腫瘍のように私たちの魂を蝕んでしまうでしょう。自分を傷つけた人を赦すということは、自分のために良いことをしているのだということを私は学びました。そのことによって、私はもっと素早く、そして完全に赦すことが、より簡単に出来るようになったのです。人生の早い段階でこのことを学んだので、赦さないで苦しむという無駄な時間を過ごさずに済んだ、と言いたいところですが、実際はそうではありませんでした。皆さんにこの本を通して伝えたいこのことは私が長い年月をかけて学んだことなのです。

残念なことですが、私たちは人生を歩む中で、必ず誰かに傷つけられ、悲しい体験や、嫌な体験をします。そして、そのような経験を通して、人生は不公平なことで溢れていることを知るのであります。しかし、そのような辛い体験を手放し、神様が私たちの人生の弁護人で、正義をもたらしてくれる存在であるということに信じることによって、私たちはそのような傷から自由になることが出来ます。

赦さない心に隠れている根はとても危険なものです。その根は水面下で成長し、私たちの中で深く根付いていきます。そして、「私たちは傷つけられたのだから、誰かがその罰を受けるべきだ。その人が罰を受けるまでは、私たちは納得できないし、納得する気もない！」という間違った考え方を知らぬ間に刷り込んでくるのです。私たちはこれまで耐えてきた痛みに対する報いを求めますが、神様だけがその報いを与えることが出来る存在なのです。もし私たちが神様を信頼し、神様の言う通りに敵を赦すならば、神様が私たちに報いてくれます。

この本を読み始める人の中には、怒りを心に秘めている人も多くいると思います。誰かに傷つけられた人、人生に失望している人もいるでしょう。そのような人た

ちの心が神様に対して開かれ、苦み、恨み、そして赦さない心や傷ついた心から自由になる人生を歩むことの大切さを知ることが出来るようにお祈りしています。

傷ついたり、怒ったりするきっかけは、毎週のようにあるでしょう。しかし、神様が教えてくれる適切な知識を持つことで、怒りを乗り越えるための勇気が与えられ、神様が与えてくれた人生を楽しむことが出来るのです。自分を傷つけた人に対し怒りを抱き続けるということは、その相手が死ぬように願いながら実際には自分が毒を飲んでいるようなことなのです。赦さない心は、他の誰でもない、自分を一番傷つけてしまっているのです。神様は、最終的に私たちのためになるようなこと以外、私たちに命じることはありません。だから、私たちは神様を信頼し、快く赦すことを学んでいく必要があります。

この本を読むことによって、怒りに正しく対処する時、また誰かを赦す時に、自分に一番良いことをしているのだということを知ることが出来るように心からお祈りしています。

第1章

そんなの、不公平だ!

スザンナは、テキサスの小さな人里離れた農家で育った48歳の女性です。彼女の両親は貧しかったので、経済的に辛い環境で育ちました。収入が少ないにも関わらず6人の子どもがいました。スザンナは末っ子で、性格は明るく、容姿もよく、並みはずれた知能をもち、その才能は、若いころから役に立っていました。高校を卒業すると彼女は衣服メーカーの小さな会社につとめ、一流の販売員になりました。そして最終的には独立をし、自分のアパレル会社を立ち上げたのです。彼女は仕事を愛していました。仕事は彼女に達成感と価値を与え、彼女は全身全霊を仕事に捧げていました。彼女は理想の男性と出会い、結婚し、2人の子どもにも恵まれました。時がたつにつれ、彼女の仕事は着々と成長し、彼女が40代前半の頃には、夫と共に数百万ドル規模の会社を運営するまでになっていました。

スザンナと夫は手にしたすべての富を楽しんでいました。豪華な家、車、ボートそれに別荘一休暇では世界中を旅行していました。彼らの娘2人は名門校に通い、有名人との交流なども楽しんでいました。彼女たちも成長し、成功したキャリアを満喫し、家族と人生を楽しんでいました。これ以上最高な人生はない、と彼女たちは思っていたのです。夫婦は時々教会に行っていましたが、なんとなく行かなければならないという気持ちで行っていただけで、神様との個人的な関係はなく、何かを決断する時に神様がどう思うかを考えることもありませんでした。次第に家族の関係は深くなっていくよりも、表面的なものになっていってしまったのです。

ある日突然、何の前触れもないまま、スザンナは、自分の夫が不倫をしていることを知ってしまいました。一しかもそれが初めての不倫ではないことを—彼女はショックで深く傷つきました。夫が自分に対して誠実ではなかったことだけではなく、夫は会社を借金へと追いつ込み、会社の利益の多くが行方不明になっていたことを知りました。彼女が始めたビジネスから夫は金を盗み、それを愛人たちに貢ぎ、そして秘密の人生のために使っていたのです。

彼らの結婚はその後すぐに消滅し、スザンナは多額の借金を抱えた会社と共に取り残され、崩壊寸前でした。その後、経済が暴落し、小売業はどんどん落ち込んで

赦し - 自分のための決断

行き、結果、スザンナの会社は経営不振に陥りました。原因のすべてである元夫への怒りと憎しみは、日ごとに増していきばかりでした。

スザンナは娘たちから理解と慰めを得ようとしましたが、何年もの間、仕事で忙しく娘たちと時間をあまり過ごしてこなかったスザンナは、彼女たちから嫌われていました。しかも娘たちは、父親の浮気の原因の一部は、スザンナがこの世の何よりも仕事を愛していたことにあるとも思っていたのです。彼女たちはそれぞれの生活で忙しく過ごしていましたし、彼女たちが母親を必要としたときに相手にしてもらえなかったように、母親の必要に対して相手にしなかったのです。スザンナには助けが必要でしたが、助けてくれる人は誰もいませんでした。

スザンナは自分の姉を頼りましたが、信じられないことに、彼女はまるでスザンナの苦しみを楽しんでいるかのようでした。姉は、スザンナが何年もかけて積み上げてきた成功や、「楽な暮らし」が、スザンナを自己中心で思いやりのない人間へと変えたのだと感じていました。姉との間の亀裂はととても大きく、8年経った今でもお互いに話すこともありません。

娘たちと言えば、礼儀正しい一方で、頻繁に連絡をすることはなく、家に呼んでくれることもありませんでした。スザンナは次第に心がすさみ、自分の不運を他の人のせいにするようになりました。これらの問題の原因が自分にあるとはこれっぽっちも思ったことはなく、赦す必要があるとも、赦してもらう必要があるとも思ったことはありませんでした。

彼女は元夫に対し怒りを持っていました。そして、結婚もビジネスも彼女の目の前で崩壊していったにもかかわらず、それに気付けなかった自分にも腹が立ちました。なにも協力してくれない娘たちにも腹が立ち、人生が失望へと変わってしまったことに対し、神様にも怒りをぶつけていました。

誰だって怒るでしょ？

このような状況に立たされたら、たいていの人は怒るでしょう。しかし、神様の愛を知り、神様がこのような悲惨な状態からの脱出の道を用意してくれる方だと知っていたら、怒る必要はないでしょう。赦さないことによって驚くほど多くの人の人生が台無しになってしまっています。どうしていいのかわからない人たちもいますが、たくさんクリスチャンはどうしたらよいのか分かっているにも関わらず正しい選択をしようとしません。彼らは正しい決断をするために自分の弱さを乗り越えていくよりも、自分たちの感情に左右されながら人生を生きています。彼らは充実

第1章 - そんなの不公平だ

した活気にあふれる人生よりも、ネガティブな感情の中に自分を閉じ込め、もたついた人生を歩んでいるのです。

もちろん、たいていの人は怒るでしょう。しかし、もっと良い歩み方はあります。自分のために一肌脱ぎ、赦すのです。失望を振り落とし、神様にあつてもう一度使命を受けるのです。すると、過去ではなく将来に目を向けることができます。過去の間違いから学び、同じ間違いをしないように努力しはじめます。

スザンナのような悲惨な状況にいる人は多くはないかもしれませんが、腹が立つことは永遠に無くなることはありません。近所の犬がうるさかったり、政治の状況や税金を払わないといけなかったり、予定していた昇給が無くなったり、交通渋滞にはまってしまったり、夫が脱衣所の床に服を脱いだままにしたり、子どものためにあなたがしていることに子どもが全く感謝しなかったり、他にもいろいろあります。失礼なことを言っても謝らない人がいたり、親が愛情表現をしってくれなかったり、お兄ちゃんや妹が自分よりも周りに気に入られていたり、濡れ衣を着せられたり…リストにすれば終わりはありません。怒るかそれとも赦して前に進むかの選択を迫られる場面は次々に起こるのです。

私たちの自然な反応は腹を立てること、傷つくこと、苦みを持つこと、怒ること、そして赦さないことです。

しかし、このようなネガティブな感情を抱えたままにすることによって傷つくのは誰でしょう？私たちを傷つけた人ですか？もし私たちを傷つけた人たちを私たちの人生から切り離してしまうなら、その人たちが傷つくこともあるでしょう。しかし、多くの場合は、私たちが怒っていることなど相手は知らないか、気にもしていないのです！私たちは、腹が立ったらそれがなかなか収まらず、頭の中で傷つけられたことを繰り返し思い起こします。腹が立っている相手になんと言いつけようか考えながらだんだん自分が嫌になってくるといふ、そのような時間をどれほど過ごしていますか。こんなことを続けていると、私たちは怒りを向けている人よりも、自分のことをもっと傷つけてしまっているのです。

医学的研究においても、ただの悪い態度から、胃潰瘍や癌の原因まで、怒りがさまざまなものを引き起こす可能性をもっていることがわかっています。それだけでなく、怒りは大切な時間を無駄にしまいます。怒っている時間のすべてはもう2度とは戻ってこない時間です。スザンナとその家族のケースでは、何年もの時間を無駄にしました。家族の中に怒りがあったために過ごせなかった家族の時間を考えてみてください。人生は予測不可能です。愛する人たちの時間がどれくらい残されているのか、私たちには知る余地もありません。私たちの良い思い出や人間関

赦し - 自分のための決断

係が怒りによって奪われてしまうのはなんて悲しい事でしょう。私自身、幼いころ自分の身に起こった不公平な出来事によって、多くの年月を怒りと苦みで無駄にきました。私の態度が、私を多くのネガティブな道へと導き、その影響は私の家族へも及びました。怒っている人はいつも誰かにその怒りをぶつけます。なぜなら、私たちの中にあるものが出てくるからです。自分の怒りは他の人には気付かれていないだろうと思う人もいるかもしれませんが、最終的にはそれは外に出てきます。

私たちの人生に起こるたいていのことは不公平です。しかし、もし私たちが神様を信頼し従うなら、神様は私たちに報いてくれます。復讐は自然と出てくる願いですが、私たちはそれにとらわれてはいけません。私たちは復讐を願いますが、それは神様がすることです。

私たちはこう言われる方を知っています。「復讐はわたしのすることである。(正義を分け与える権限は私のもとにある。)わたしが報いをする。(私が報いを引き起こす。)」と主は言われる。また、主がその民をさばき、民の問題を対処される。

ヘブル人への手紙10章30節(AMP訳からの直訳)

この聖書箇所や、これに似た箇所によって、私は怒りと苦みを手放すことについて励まされ、神様が神様の方法で私に報いてくれるということ信じることができました。もしあなたが不公平に扱われたように感じた時は、同じく信仰の1歩を踏み出すことを心から励ましたいです。

私たちが赦さなければいけない相手は、たいていの場合その赦しを受ける価値はなく、時には赦しを求めてさえもいません。私たちを傷つけたことにも気付かず、気にもしていないかもしれません。それでも、神様は私たちに彼らを赦すようにと言っています。とてつもなく不公平に思えるかもしれません。しかし、神様は同じことを私たちのためにしてくれたので、他の人にも同じようにするよう私たちに言うのです。神様は私たちを何度も何度も赦し、変わることもない、無償の愛で私たちを愛してくれています。

自分の犯した間違いを思い起こし、神様や人々からの赦しが必要だと認識するとき、私も他の人を赦すことができるのです。私が抱えていた児童虐待のトラウマからの癒しのプロセスを通過していた何年もの間、私の夫はとてつもなく寛大で恵み深く私に接してくれました。私はこの論理を信じています—「傷ついた人は傷つける」—私は家族を傷つけていましたし、健康的な関係を築くことができませんでした。しかし、それを故意にしていたわけではありません。それはただ、私自身の痛み、また無

第1章 - そんなの不公平だ

知による結果でした。私は傷ついていました。そして考えられるのは自分のことばかりでした。私は傷つき、だから人を傷つけました。私に本当に必要だったのは、理解すること、正しい時に問題に向き合うこと、そして多くの赦しでした。神様はデイズを通して働き、それらを私に与えてくれたのです。そして今、私は神様が私を通して、他の人のために同じことをしようとしていると思い起こすようにしています。

あなたは赦しが必要だったことはありますか？それが人からであれ、神様からであれ。きっとあったと思います。思い起こしてみてください。思い起こすことで、あなたが必要な時に赦すことができるようになります。

怒りを持ち込まないこと(ドアの外に怒りを置く)

西部劇で、カウボーイが酒場に入る直前に、入り口で自分の武器を預けるシーンを見たことがありますか？怒りについて考えるにあたり、これはとても良い例です。怒りは私たちの武器で、自分を傷つけそうな人が現れた時に使い、その人を激しく非難します。カウボーイが入り口の所で武器を預けない限り、自分を守るためにはピストルを抜くでしょう。それと同じように、私たちは、当たり前のように自分を守るため怒りという武器を抜いてしまうのです。私たちはどこに入って行くにしても、入り口に入る前に怒りを置いていくことを意識的に習慣としていきましょう。1日が始まる時、怒りを持っていくことを断固として止めましょう。「私は今日怒ることなく1日を過ごす。愛と恵みと赦しを持って、必要なときにはそれらを惜しみなく使う。」このように意識的に自分に言い聞かせてください。

自分にそう言い聞かせることは大きな助けになることを私自身発見しました。自分に何を言い聞かせるかで進む方向は変わってきます。怒るように自分に言い聞かせることもできますし、怒りを乗り越えるよう自分に言い聞かせることもできます。自分に言い聞かせることを学んでください。「怒ったままでは時間の無駄だし、神様を不愉快にさせてしまう。だから、意図的にこの怒りを手放すんだ。」と自分に言ってください。平安を選び怒りを拒むことで自分に良い事をしているのだと、私は自分に思い出させます。

正しいことをする気分になれないこともあります。私たちは神様を喜ばせるか、それとも自分自身を喜ばせるかのどちらかしかできません。もし神様を喜ばせることを選ぶなら、自分の欲に反することをたくさん行うことができます。私たちには感情があります。しかし、私たちは感情以上の存在です。私たちには自由意思があります。一番良い選択肢を選ぶこともできます。

赦し - 自分のための決断

怒りは強力で破壊的

怒りとは、憤慨、復讐心、そして激怒などです。これらは感情から始まりますが、それをそのままにしておく、言葉や行動によって表現されてしまいます。怒りは強い感情の一つで、とても破壊的です。聖書は怒りをコントロールするようにと教えています。なぜなら怒りは決して神様の願う義を生み出さないからです。(ヤコブの手紙1章20節)

私たちは怒ることに遅いようにと、神様に教えられています。怒りが湧いてきていると感じるとき、私たちはそれに蓋をしなければいけません。問題について考えたり、そのことについて話したりするうちに、私たちの感情は高まり、怒りに餌を与えていることと同じで、問題はより悪い方向へと向かいます。しかし、私たちの感情が高まるとき、怒りに対して対処することもできます。怒りという感情に対しては攻撃的でいてください。「怒ることを断固拒否する。侮辱も受けない。神様が自制を与えてくれたから、私はそれを使うんだ。」と言ってください。

ある牧師が自分の教会にゲストを招待したときの話です。—その牧師は教会の最前列に座り、ゲストの話を聞いていました。するとそのゲストは良く考えもせず、その教会の問題に対する牧師の対処方法についてネガティブな発言をし始めたのです。彼は一般的な発言をしていただけで、誰かを傷つけようなどとは思っていませんでしたが、彼の言葉は批判的で痛烈でした。まだゲストが話している時、この牧師は小さな声で、「私は傷つかない。私は傷つかない。」と繰り返しささやいていました。この年輩の牧師には、ゲストよりも知恵があったのです。牧師にはこのゲストの情熱が理解できましたが、同時に彼には知恵が欠けていることも理解できていました。このゲストの言葉によって傷つくことをこの牧師は拒んだのです。

彼の心境がどういう感じだったのか、私には理解できます。なぜなら、私自身がテレビで神様について伝道しているので、それについて他の牧師などから色々な声を聞きます。テレビ伝道をしていない人たちは、私たちのようなメディアにおける伝道に使命を持っている人たちに対し「テレビ伝道師」というあだ名をつけて、ネガティブなコメントをしていたりします。

同じ立場を経験したことがない人が批判することは簡単です。私がそのような人々の冷たい発言を聞く時は、彼らは何も理解しないで話しているのだということを思い起こすようにしています。人々は、「このようなテレビ番組は人々のお金を集めようとしているだけだ」とか、「このようなテレビ番組は教会を立てあげるために

第1章 - そんなの不公平だ

は何の役にも立たない。自分のために出演し、神様の国のためという想いは持っている」などと言います。どんな業界においても間違った動機を持っている人はいるでしょう。しかし全ての人をそのカテゴリーにひとまとめにするのは間違いです。聖書とも一致しません。このようなことを聞く時、または誰かが言っているのを耳にしたとき、私は傷つかないことを選びます。なぜなら、傷ついても何も変わらないし、決して自分にとって良い事をもたらさないからです。

テレビ番組で、私が人々をイエス・キリストへ導く時、驚くべき反響を受けます。それを通し、地元の良い教会へ根付けるよう人々へ冊子や本を送ります。それは批判をする人たちには知られていないことなのかもしれません。私は、神様が私に与えてくれたと信じている使命に熱心に取り組み、批判されたことについて心配はしません。なぜなら、私の人生が終わる時、私の人生の良し悪しを決めるのは彼らではなく、神様だからです。

他人を批判するのは簡単で、そういう人たちは「すべてを理解している」と思いがちです。しかし、すべてを理解している人など、ほとんどいません。神様だけがすべてを知っているのです。みなさんにもそれぞれ同じような経験があるでしょう。そのようなときにとれるベストな行動とは、傷つけるような言葉を発する人のために祈ることです。そのような発言を自分に受け入れないと決断してください。そしてその人たちの最善を願うのです。私たちは、自分の言葉によって人々を傷つけるようなことがないように祈るべきです。

第2章

怒りという感情

神様なしの人生を歩んでいる人たちは、たいていの場合、怒りという感情によって動揺することはありません。怒りが問題を解決する方法であるかのように、または、自分の欲しい物を手に入れる手段であるかのように考えている人もいます。クリスチャンは怒りに動揺し、困惑することさえあります。クリスチャンという神様に仕える者として、クリスチャンは怒りを持っているべきではないと考える人は多くいるのです。そんな時、怒りという感情を持ってしまうと、私たちは罪悪感にかられます。怒りたくないのに、なぜ怒ってしまうのかを考えてしまうのです。

私は35年間もの間、聖書の言葉にまじめに取り組んできましたし、怒りに対する欲はないと断言できます。怒りをどのように乗り越え、どのようにそれをコントロールしたら良いのかを学びながら何年もかけて聖霊とともに忠実に仕えてきました。平安を愛していますし(平和主義です)、すべての人間関係に調和がある事を願っています。衝突は大嫌いです!しかしここ最近、何年もの間感じていなかったような怒りを感じるようになってしまったのです。

感情は、急速に燃え上がってしまうものです。私たちは感情を切り離すことはできません。しかし、その感情に支配権をもたせてはいけません。聖書では、怒りを感じてしまう事が罪であるとは決して言っていません。しかし、私たちが怒りをうまくコントロールできず、怒りにしがみついたりするとき、そこから出てくる行動が罪になってしまうと言っています。使徒パウロは、日が沈んでしまうまで怒ったままでいてはいけないと教えています。(エペソ人への手紙4章26-27節)つまりこれは、人は怒りという感情を感じることはあるが、短い時間でその怒りを手放すべきだという事を示しています。これをするには、私の場合、祈りと自分の感情を超えた決断をすることが必要です。

そんなに前の話ではありませんが、私は電話で叔母と話していました。デイヴと私は、過去何年もの間、彼女を金銭的にサポートしていました。彼女には身寄りがなく、自分の収入だけではちゃんとした生活を送ることができなかったのです。私には彼女の法定代理権が与えられており、彼女に何らかの医療の必要性が発生した場合、近所の医療施設から緊急医療の手配をするよう私に連絡がきます。私が留

赦し - 自分のための決断

守の時にも、叔母のために適切な手続きを踏めるよう、決定権を持つ人のリストに娘を追加しようと思いました。娘を叔母の家に行かせ、書類に署名するようお願いしたところ、叔母はとて身構えてしまい、署名する事を拒みました。娘からこの事情の連絡がきたとき、私は何の考慮もせず、怒りが爆発してしまいそうなくらいとても腹が立ちました。私の事を信用せず、お願いしている事をやってくれないのだと思い、彼女に電話をかけました。私たちが彼女の為にあげた事すべてを思い返して、「あなたの自己中心的な行動は受け入れられない」、と彼女に伝えました。私たちはお互いに怒りが増し、言うべきではない事もたくさん言ってしまったのです。

正直なところ、私は怒りの中で自分を正当化しようとしていました。それが間違いだったのです。自分を正当化してしまった事で、叔母からの謝罪の連絡が3日後にでもくるのではないかと期待して、怒りにしがみついていた。しかし、彼女が連絡してくる事はありませんでした。さらに、彼女からの連絡を待ち続けている間、私は何人かの家族や友人にこの出来事について話し、叔母がどんなに自己中心的であるかを事細かに話していたのです。もちろんこれも間違いで、聖書は、他人の評判を傷つける事や、うわさ話をする事、告げ口するような事は決してしてはいけなさと教えています。むしろ、その出来事の話をするたびに私の怒りは、燃料が加えられたかのように以前よりもますます燃え上がっていたのです。正直、これほど怒った事は長い間ありませんでした。

何が起こってしまったのでしょうか？まず第一に、この出来事が起こった時、私はとても疲れていました。今になって思えば、私は急いで用件を片付けようとしていたのかもしれない。疲れていたのも、時間をとって叔母に私の意見を説明する事もしませんでした。それが混乱を招いてしまったのです。それだけではなく、叔母のため、また母のためにも急ぎの用件に対応してあげていました。期限もありプレッシャーを感じている中で、私はより簡単に事を進められる方法を探していたのです。

その出来事が起こってから4日目の朝に、私がしがみついている怒りが神様との親密な関係を妨げ、聖書を学ぶ妨げになっている事に気が付きました。この出来事ばかりを考え、頭から離れませんでした。問題に直面し、それが解決しない限り、私はその事ばかりを考えてしまうのです。私が叔母に謝ることを神様は望んでいると感じ始めていましたが、とても従いたくありませんでした。

しかし、神様に心をオープンにすればするほど、叔母側の状況についてもっと明確に理解する事が出来ました。彼女は84歳で、もうすぐ自分だけの力では生きられなくなってしまうのがわかりはじめていて、それは彼女にとっては当然受け入れがたい事です。彼女からしてみれば、突然の出来事だったのでしょう。突然何の説

第2章 - 怒りという感情

明もなしに、私の留守中も娘が代わりに、叔母の医療面での決定権を持つことができるように、書類に署名をするよう要求されたのですから。数時間の間、彼女に電話をかけるのを躊躇していましたが、最終的には電話をし、怒ってしまった事を彼女に謝りました。すると、嬉しい驚きでしたが、彼女もまた私に謝ってきたのです。彼女は混乱してしまい、悪い態度を取ってしまったのだと言ってくれました。2分も経たないうちに状況は解決され、私にも彼女にも平安が戻ってきました。

この出来事が起こってから、もっと知恵をもって状況に対応できたはずだったことや、もっと彼女の気持ちを考えるべきだったことに気付きました。神様に心から悔い改め、3日間怒りにしがみついていた事だけではなく、他の人にあの出来事について言いふらしてしまった事も神様に謝りました。

この話をここで皆さんに伝えたのは、怒りは急にやって来るという事をただ単に教えたかったからです。私たちがクリスチャンであるかどうかに関わらず、怒りの誘惑を超える事は出来ません。3日間も怒りを手放さなかった事は反省していますが、その怒りが自分の魂に毒を注ぎ続けることを食い止めた事は良かったと思っています。

神様は怒るに遅い神様で、私たちも同じようにあるべきです。神様は憤りを我慢します。それが自制です。神様は何度も怒りを押さえ、憤りをかき立てるようなことはしませんでした。(詩篇78篇38節)「怒りを押さええ」という事は、それをコントロールしたという事です。覚えておいてください。自制は聖霊の実です。神様の性質の1つで、私たちにも分け与えられているものです。聖書の中にも人間が神様を怒らせ、神様はその怒りを我慢した例をたくさん見ることができます。私の叔母との状況では、私は怒りを押さえるのに4日かかりました。これはとても我慢できる事ではありません。

私たちの行動がますます神様ようになっていくことが私たちの願いであるべきです。ここにいくつかの例があります。

先祖はエジプトで、あれほどの、目をみはるばかりの奇蹟を目撃しながら、感動することもなく、たちまち数々の恵みを忘れてしまったのです。それどころか、紅海のほとりで、神様に逆らったりもしたのです。しかし、そんな人々をも、神様はお救いになりました。それは、ご自身の名誉を守り、お力を全世界に知らせるためでした。

詩篇106篇7-8節(リビング訳)

イスラエルの人々は反抗的で、罰を受けてもおかしくありませんでしたが、それ

赦し - 自分のための決断

でも神様は彼らを赦し、愛のある優しさで彼らを受け入れました。言い換えれば、神様は愛そのもので、それはスイッチのようについたり消えたりするものではないということです。神様は常に同じで、私たちの行動などによって変わる神様ではありません。逆に、私は、叔母の行動によってすぐに変わってしまいましたが、反応する前に考える時間を取っていたならば、状況は違っていたかもしれません。私は神様の言葉に基づいて対応するのではなく、神様の例にそって行動するのではなく、ただ自分の感情に反応してしまいました。何年もの間、このようなやり方をしてきました。神様に自分を変えてもらおうと思えるまで、怒りは日常茶飯事でした。

次の章では、デイヴがどのように私の悪い態度に向き合い、しかも私をいつも大切にしてくれていたかについて話していきます。彼の揺るがない、いつも私に愛を表現してくれる性質が、悪い性格を変えたいと私自身に思わせた大きな理由の一つです。デイヴがただ単に怒ったり、怒鳴ったり、非難したり、離婚を持ち出して私を脅すような人であったならば、私は決して変わることはなかったでしょう。私は、愛情表現を切望している時期にいました。それを表してくれたのがデイヴでした。

時に言葉は不十分です。愛の言葉を語るのは私たちの社会では当たり前のことです。私を性的に虐待していた私の父は、私のことを愛していると言いました。私を見捨てた母も私のことを愛していると言いました。私に嘘をつく友達も私のことを愛していると言いました。なので、私にとって言葉は意味のないものになってしまったのです。デイヴは私のことを愛していると言うだけではなく、愛の優しさを私に示してくれました。神様は私たちを通してその愛を他の人にも与えたいと思っています。神様の愛をです！

抑えられない怒り

抑えられない怒りはすぐに激怒へと変わります。激怒は危険です。このような状況で、人々は、自分の人生の道筋を変えてしまいかねない様々な事を言ったりしたりします。「腹が立ちすぎて、物事をちゃんと見ることが出来なかった」なんて言っているのを聞いたことはありますか？私が叔母に対して怒ってしまったときもこのような感じでした。私が感じた怒りは、目の前で起こっている状況以上に過剰になっていたことを今は理解できます。本当は解決しなければならない恨みを私の中で成長させてしまい、叔母とのあの出来事がいわば、我慢の限界の末に起こった最後の決定的な一撃だったように思います。

第2章 - 怒りという感情

誰かの怒りが自分に向けられている時、たいていの場合彼らの怒りはその状況以上のものに膨れ上がります。交通渋滞の中を運転しているとしましょう。方向指示を出し忘れたあなたに、ある人は激怒します。その怒りは交通違反の割にはあわないほどの怒りです。私たちのちょっとした間違いに、人々の怒りは私たちに危害を加えるほどになってしまうことがあります。しかし、その怒りが私たちに直接向けられたからといって、私たちのせいではないことがあります。何年もの間、彼らの人生で解決されずに蓄積された問題が原因かもしれません。最近では、銃を持った人が建物に入り、乱射をし、人々を殺したり重傷を負わせたりする事件をよく耳にします。怒りのまま、その人は知りもしない人々に向かって乱射してしまいます。なぜでしょう？彼の怒りは蓄積され、抑えられない暴力へとなっていったのです。

怒りを抑えられず、誰かを殺してしまった事により刑務所行きになった人たちがどれほどいるでしょう？怒りを抑えられず、傷つけるようなひどいことをやってしまったことで人間関係を壊したり、深くダメージを与えたりしてしまう人はどれほどいるでしょう？怒りという感情を正しくコントロールする方法を教えられていたならば、どれほど多くの人々がより良い人生を送る事ができたことか、考えてみてください。

怒りによる行動で最も驚くべき事件は、人々を救うために地上に来て、何も悪いことをしなかったイエスを、ユダヤ人達が十字架の刑にしようとする時に起こりました。この不正な行動は歴史上最悪な出来事でしたが、それでも神様は赦し、私たちを完全に取り戻し回復させるための計画をたててくれたのです。なんて愛でしょう！

怒ってしまった時は、怒りが鎮まるまで数を100でも1,000でも数えてみてください。落ち着くことで、激怒せずに済む方法です。何かを発言する前、行動する前にそれをしてください。私はいつも、「感情を落ち着かせてから決断しなさい。」と言います。

怒りのために感情のエネルギーを無駄にしないでください。怒ることにはかなりのエネルギーを使います。怒りが爆発したあとに、とても疲れた経験はありませんか？私はあります。この歳になって、人生を無駄に過ごす時間の余裕なんてないことに、ようやく気付きました。正しい怒りでない限り、怒りは無駄なもので、誰にとっても何の役にも立ちません。別の章でこの事についても話します。一度怒ってしまうと、自分を落ち着かせるのにかなりの時間を割いてしまうことに気付きました。そして、最初にまず怒らないようエネルギーを使う方が、怒って、またそれを落ち着かせるためにエネルギー

赦し - 自分のための決断

を使うより良いということに気付いたのです。良いアドバイスがあります。誰かと意見が合わない時は、その人を神様の手にゆだねることです。誰が正しくて、誰が間違っているのかを、神様に示してもらいましょう。そして、間違っているのがあなたである場合、それにきちんと向き合ってください。

何年もの間、私は何の変化も生み出さないような些細なことについてデイクとぶつかり、エネルギーを費やしてきました。ただ自分が正しいと主張したかったのです。しかし愛は自分を正当化する権利を捨てます。(1コリント13章5節)正しいとされることは、思うほど良いものでもありません。自分を正しいと証明するために使う無駄なエネルギーは、たいていの場合間違ったエネルギーの使い方です。「きみが正しいよ。」とデイクに言わせるために時間をかけて彼と言い争ったとしても、私はまだ勝った気になりません。自分の行動によって神様を悲しませ、周りの人に良い模範になれていないからです。

平安は私たちに力をくれますが、怒りは私たちを弱くします。神様と、自分自身と、また人との平安を選び、求めていきましょう。

幸福で正しい生涯を送りたいなら(それが明らかに良いかどうか見えなくても)、舌を制し、くちびるからうそ(裏切り、偽り)が出ないようにしなさい。悪から遠ざかって、(回避し)、善を行ないなさい。平和な(一致のある、不安や、情熱をかき乱すもの、そして精神的な葛藤に邪魔されることのない)、生涯を送りたいと願うなら、熱心に追い求めて、手に入れなさい。(単に神様や、仲間や、自分自身との穏やかな関係を望むだけではなく、それを求め、追い求めなさい!)

ペテロの第一の手紙3章10-11節(リビング訳に一部補足)

上の箇所をじっくり時間をかけて読んでくれましたでしょうか。この箇所が、平安を祈るだけではなく、探すべきで、求めるべきで、心からそれを追い求めるべきなのだと私に気付かせてくれました。平安を得るためには、自分自身を調整し、他の人々と自分をあわせていくことに前向きになる必要がありました。私が叔母に電話をして、謝ったあの日のように、本当に平安が欲しいなら謙遜になることに前向きになる必要がありました。

あなたにとって平安はどのような価値がありますか?もし本当に価値のあるものと思えなければ、平安を得るためにすべきことなど、あなたは決してすることはないでしょう。怒りをコントロールし、広い心を持ち、そしてすぐに赦すことは、平安を維持するために必要な要素です。そして、自分の欲、特に正しくありたいという欲を犠牲にするこ

第2章 - 怒りという感情

とも、神様がイエス キリストを通して与えてくれる平安を楽しむためにすべきことなのです。私は自分の無実を自分自身で証明するよりも、神様の方がもっと簡単に私が無実だと証明してくれることを発見しました。あなたの人生において、神様を神様としてください。そうすれば、もっと平安を楽しむことができますでしょう。

怒りという感情に私たちを支配させる必要はありません。怒りは私たちの周りにあって、問題を引き起こそうと、その機会を探しまわっています。しかし、聖霊の導き、祈り、そして自制により、私たちがそのような機会を与えなくていいのです。聖書は、私たちが敵の中にいるときにも支配をする力を与えてくれると言っています。私が思うに、怒りは決して服従したくない相手であり、私たちの人生における敵なのです…悪いことは言いません…自分のための選択です…怒りを手放して、乗り越えて、そして神様の平安を楽しみましょう。

第3章

怒りの根源

私たちは色々なことについて怒ります。しかし、中には特に怒る理由もないのに、ただいつも怒りっぽい人たちがいます。時に私たちも、怒りがどこからきているのか説明できないことがあります。「私はすぐカッとなってしまっただけで、理由もあまり分からないの。私の何が問題なのかしら?」と私に言う人も少なくはありません。どこかに彼らの怒りの根源があるはずで、祈って、少し心を探ってみて、真実とたくさん向き合うと、たいていの場合、その根源は明らかになります。また、神様に聞けば何が私の本当の問題なのかを教えてくれると知りました。神様が教えてくれることの中には、あまり聞きたくないこともあります。特に、私自身が問題そのものだと神様に言われるときなどです。しかし、私たちが、自分の内側と向き合い、そこから自由になることを神様は望んでいるのです。

私は中年になるまで、怒りの問題を抱えたままでした。自分の思い通りにならない時はすぐカッとなっていました。それは私の父も同じような行動をしていたのを見てきたからです。怒りっぽい人は、多くの場合怒りっぽい家族からきています。それは経験からくる行動で、その問題にきちんと取り組まなければ、その怒りの問題行動は続くでしょう。例えば、自分の妻に暴力をふるってしまう男性の多くは、自分の父親が母親に暴力をふるっているのを目撃しているということが、ある統計で分かっています。母親に対する父親の暴力について良く思っていなかったにも関わらず、自分も同じように行動してしまうのです。

私の父は、特に酔っ払っている時によく母に暴力をふるっていました。彼はいつも怒っていて、彼の怒りの根源を突き止めることはできませんでしたが、彼の父親もまたいつも怒っている人だったということは知っていました。気難しい性格で、家庭を支配するための道具として怒りを使っていたほどでした。聖書は、人々が神様を愛し、神様の教えを人生に適應していかない限り、彼らの罪や行動の連鎖は、世代から世代へと受け継がれていくと教えています。(申命記5章8-10節)

私は、自分の家族にあった怒りと暴力の連鎖が私の世代から断ち切られたのを見ました。そして、怒りの問題を抱えているすべての人に、神様は同じことをしたい

赦し - 自分のための決断

と願っています。あなたが育った家庭について、時間をとって考えてみてください。どのような雰囲気でしたか？大人はけんかなどをどのように対処していましたか？家庭には見せかけや言い訳があふれていましたか、それとも誠実に正直に関わりあっていましたか？もし、あなたが神様の教えにあふれた雰囲気の家庭に育った数少ないうちの一人ならば、神様に感謝してください。なぜならば、その時点ですでに人生において先を行っているからです。しかし、私のように、そのような良い模範の家庭で育っていない人たちも、神様の愛と神様の言葉の真実によって回復することができるのです。

神様の教えにそった向き合い方

私の父は暴力的な人でしたが、母親は母親で、父親と全く向き合わない人でした。彼女は臆病で、彼の虐待的な権力に委縮していました。彼女は自分自身を守ることも、私を守ることもませんでした。私は、彼女の中にある弱さを軽蔑し、「決して彼女のように弱くなりたくないし、誰にも自分をあんな風に扱わせないと心に決めていました。自分を守る努力をする中で、私はだんだん支配的になっていきました。全てを自分の手の中に治め、全ての人を支配下に置くことで、自分が傷つくことはないと思っていたのです。しかし、当然のことですが、うまくいきませんでした。なぜなら神様の教えとは違っていたからです。私の夫は、私たちの関係のために最終的に神様の教えに沿って向き合ってくれました。時間はかかりましたが、それを通して私は変わることができたのです。

私たちは平和のために呼ばれ、平和を捜し求めるべきですが、自分たちを不当に扱う人たちと向き合うことを恐れているのは、正しい問題解決にはつながりません。私たちが家庭の中で学んだことは、オープンになることと真実を話すことはどんな時でも最高の手段であるということです。デイヴと私の間には成人した4人の子どもがいますが、私たちはよく一緒に時間を過ごします。お互いに怒ったり、言い争ったりすることもあります。長時間怒ったままにいる人は誰もいないので、とても幸せなことだと思います。私たちは問題に向き合い、たとえ同意できなかったとしても、そういうこともあるのだということを理解しようとし、衝突の恐ろしさを理解し、家族の中から衝突をなくそうと努力します。私は怒りに満ちた家庭で育ち、当初はその怒りを自分の家庭にも持ち込んでしまいましたが、そのような罪のパターンも神様のあわれみと恵みによって、そして神様の言葉に従順になることによって壊されたのだということを、私の経験を通してみなさんに知ってもらいたいのです。

第3章 - 怒りの根源

神様の教えに沿った向き合い方は、神様が問題に向き合うよう導いてくれるところから、また神様がそう導いてくれるよう待つところから始まります。タイミングを早まってしまうと、怒っている人をさらに怒らせてしまうリスクもあります。冷静に優しく問題を提起し、明確でシンプルな会話の中でそれができるように心がけます。怒りに怒りで向き合うと決してうまくいきません。なので、向き合う時に冷静さを保つことはとても重要です。

穏やかに答えれば相手も気を静め、激しくやり返すとけんかになります。

箴言15章1節(リビング訳)

(癒やす力を持った)やさしいことばは人を元気づけ、不平は人の気をくじきます。

箴言15章4節(リビング訳に一部補足)

忍耐強く説けば、首領も納得する。柔らかな舌は骨のように堅い反対も砕く。

箴言25章15節(新改訳)

向き合おうとしている相手に、その相手の行動が自分をどんな気分にしてしまうのかを伝え、それらは受け入れがたい事であると彼らに知ってもらうのです。声のトーンを優しく、同時に力強く保ちます。相手を楽しんでいること、良い関係を築きたいと思っていることを相手にしっかりと伝え、お互いを思いやれない言動や、虐待的な不当な扱いは許されないことを伝えてください。言っていることを相手が受け入れなかったとしても、驚かないでください。そのような意見が彼らの考えに浸透していくには時間が必要です。相手が怒り始め、あなたを非難したとしても驚かないでください。自分の決断にしっかり立って、たくさん祈り、神様に働いてもらうようゆだねるのです。多くの場合、相手はあなたの所に戻って来て、あなたが正しい事に気付いたと言って、謝るでしょう。

デイヴが私と向き合ってくれた時、彼は私のことを愛していると言ってくれました。しかし、神様の教えに沿わない行動や問題に向き合おうとせず、神様に自分を変えてもらおうとしないならば、私のことを尊敬することはできないと言いました。私の態度や行動が彼をどんな気持ちにさせてしまっているのかを彼は教えてくれました。そして、私に対する彼の感情はたくさんのダメージを受けていて、癒やされるのに時間がかかることも教えてくれたのです。彼は決して私を不当には扱いません

赦し - 自分のための決断

んでした。何も伝えずに黙ってしまうことで、彼の人生から私を締め出すこともしませんでした。ただただ、彼は強く決心していました。真っ先に、私は反抗しました。とても傷つき、彼の悪い所はどんなものかを彼に伝えようと思いました。しかし最終的には、自分の責任を受け入れ、より良い関係のため聖霊と歩み始めました。その過程でも、デイヴはいつも変わらず穏やかで、揺らぐことはありませんでした。問題に向き合う必要のあるすべての人にとってこのような姿勢は重要です。

正しく扱われることと間違っって扱われること

虐待は間違っって扱われることで、不適切な方法で扱われるという意味です。父親が子どもを性的に虐待することは、間違っった方法で子どもを扱うということです。母親が愛にあふれた優しい言葉を子どもにかけてあげないことは適切ではないため、虐待的です。夫が妻に手を上げる時、また暴力をふるう時、彼は虐待者です。誰であれ、他の人を支配しようとするならば、それは虐待です。神様は、愛や自由を必要とするように、また人から受け入れられることを必要とするように私たちを創り、これらの必要は私たちのDNAの一部であり、これらなしには私たちは決して機能しないのです。

今日の私たちの社会で起こっている虐待について考えるとき、圧倒させられます。いつ怒りが爆発してもおかしくない、怒っている人の多い世の中に私たちは生きています。人はさらに自分のことばかりを考え自己中心的になり、それと共に、彼らの抱えている怒りも大きくなっていくのです。私の考えとしては、今日私たちが直面している問題解決への答えは神様のみであるということです。世の中で起こっていることは私たちにはコントロールできません。しかし、この世のやり方には従わないという決断はできます。私たちは神様と神様の方法を選んで決断するべきであり、私たちがそれを実行するときに、私たちの人生は他の人々のための輝き、彼らの模範となる光になっていくのです。「あなたがたの仕える者を、きょう、選びなさい。ただし、わたしとわたしの家族とは共に主に仕えます。」(ヨシュア記24章15節口語訳) 私たちも同じように宣言していきましょう。

どのような虐待であれ、それは人々に怒りを残します。あなたは、自分を虐待した人に対し、怒っていますか？おそらく彼らを赦すことが自分自身の癒しと方向転換のための最初の一步です。ヨハネによる福音書20章23節では、イエスが弟子たちに、罪を手放さなければそれらは残ったままで、しかし、彼らが赦すならば、それらは赦されると教えています。自分を傷つけた人を赦さなければ、私たちがその罪を自分たちの

第3章 - 怒りの根源

中に留めてしまい、同じことを自分でもやってしまうのです。虐待を受けた多くの人たちは、彼ら自身も虐待をしてしまうことがあります。自分たちを傷つけた人を彼らが完全に赦さない限り、彼らは怒ったまま変わることはないでしょう。悪魔は、私たちが傷つき、怒りの人生を歩むようにと計画を進めていくのです。しかし、覚えていてください—「短気を起こしてはいけません。短気はばか者の特徴です。」(伝道の書7章9節リビング訳)—傷つけられたときの怒りをそのままにしておくのは、とても愚かな事です。自分のために良い選択をし、赦すのです。

1985年にビル・ペルケさんという方の祖母、ルツさんが4人の10代の少女たちによって殺されました。彼女は素敵なクリスチャン女性で、家では聖書の学び会を行っている人でした。ある夜、彼女はあるグループを家に招き、神様の言葉を教えようとしていました。しかし、その少女たちが彼女の家に入り込み、残忍なやり方で彼女を殺してしまったのです。

1986年11月のある夜、ビルさんは祖母のことを考えている自分に気付きました—

* * *

1986年の11月2日、私はおばあちゃんの人生について考えていました。そして彼女の信仰についても考え始めました。彼女は信仰の強いクリスチャンで、私自身もクリスチャンの家庭で育ちました。天の父からの赦しが必要ならば、私たちもまた、私たちに罪を犯した人を赦さなければならぬとイエスが教えていることを私は思い出しました。イエスが、赦しは習慣であるべきで、生き方であるべきだ、と言いたかったのはわかっています。赦す、赦す、赦す、そして赦し続ける。当時15歳で主犯格だった、ポーラ・クーパーさんが私のおばあちゃんにしたことを、私は赦すべきなのだろう、と考えていました。それは正しい事だとわかっていたので、いずれ赦すのだろう、と思っていたのです。

おばあちゃんのことを考えれば考えるほど、ポーラさんに課せられた死刑判決におばあちゃんは愕然としたのではないか、と思うようになりました。そして、おばあちゃんが持っていたあの愛と思いやりを、私たち家族のうちの誰かが示すようにと彼女が願っているような気がしました。そして、それが自分の肩ののしかかったように感じたのです。赦すことが正しい事だとは分かっていたのですが、愛と思いやりはとんでもないと思いました。おばあちゃんは残虐なやり方で殺されたのです。しかし、それがおばあちゃんの望んでいることだとますます確信させられ、どうやってそれを実行したらよいのか分からなかったため、ポーラ・クーパーさんとその家族に対

赦し-自分のための決断

する愛と思いやりが与えられるよう、おばあちゃんの代わりにそれを示せるよう神様に祈り求めました。

短い祈りの後、私はすぐにポーラさんにどのように手紙を書くかを考え始め、おばあちゃんがどんな人だったのか、そもそもどうしておばあちゃんは彼女たちを家に入れたのかを書きはじめました。おばあちゃんの信仰について彼女に伝えたかったのです。

愛と思いやりを求めた祈りが答えられたのに気付きました。なぜなら、ポーラさんを助けたいと思えるようになり、そして突然、彼女を非難することは間違っていることなのだ理解したからです。その夜、私は人生におけるもっとも力強いレッスンを学びました。赦すことによる癒しの力についてです。思いやる気持ちが私の心に芽生えた時、赦しが起こりました。そして、赦しが起こったとき、とてつもない癒しが起こったのです。おばあちゃんの死から一年半が過ぎていました。おばあちゃんのことを考えるときはいつも、彼女がどのように死んでいったのかを考えていました。彼女が苦しんだすさまじい死について考えるのは、とても恐ろしいことでした。しかし、私の心に思いやりが芽生え、赦しが起こったその時から、おばあちゃんのことを考える時、彼女の死に方について考えなくなり、彼女がどのような人生を歩んだのか、彼女が何に堅く立っていたのか、彼女が何を信じていたのか、彼女がどんなに美しく、素晴らしい人であったかを考えるようになっていました。

赦しとは、クーパーさんがやったことを容認するというものではありません。彼女の行動がもたらす結果をなくすということでもありません。赦して、忘れるということでも決してありません。おばあちゃんに起こったことを決して忘れることはないでしょう。しかし、ポーラさんに抱いてしまうあらゆる感情を手放すことはできます。彼女に良い事が起こるよう願うこともできるのです。

* * *

このような実話にはとても刺激を与られます。彼らは、起こった出来事に目を留めるのではなく、その出来事に関わったすべての人にとって何が最善なのかということに目を留める時、どんなことについても、誰であろうと本当に赦すことができるということを教えてくれています。自分を傷つけた人が何をしたのかだけに目を留めるのではなく、それ以上に、そのことによって彼らが彼ら自身にどういうことをしてしまったのかに強く目を留めて、彼らを赦して、彼らのために祈るようにと神様は私に教えてくれました。

第3章 - 怒りの根源

完璧主義に根づいた怒り

もし私たちが、自分自身に対し、また周りの人々に対し、非現実的な期待を持っていたとしたら、それは私たちの人生において怒りの根源となってしまいます。完璧主義者とは、物事が完璧でない限り満たされることのない人たちのことです。良いものも十分ではなく、素晴らしいものも十分ではありません。完璧でなければいけないのです。そのような人の人生には神様からバランスを与えてもらわない限り、完璧主義でいることは多くの場合、ストレスや惨めさの元となっていきます。

人生は完璧ではないですし、そこに生きている人間も完璧ではありません。それでも神様は、私たちが願えば、どのような物事が起きても、それに良い態度で向き合うための力を与えてくれるのです。

* * *

リサの母親は、リサにとっても厳しい人でした。彼女のやることすべてにおいて完璧を求める人でした。たとえ、リサに音楽の才能がなかったとしても、彼女にピアノを習わせようとし、強制的に何時間も練習させていました。リサをほめることもほとんどなく、まれにほめた時でも、他にまだ努力しなければいけないことを彼女に思い起こさせるのです。その結果、リサは自分のことを、何をしても失敗してしまう存在としてみてしまい、自分に対して深い怒りの根を持っていました。彼女自身もとても規律主義になり、気難しく、夫や2人の子どもとの関係においても喜びのない人でした。30歳になったリサは、日常的に抱えていたストレスにより潰瘍と過敏性腸症候群を患ってしまいました。

現在リサは、クリスチャンのカウンセリングを受けており、少しずつ回復していますが、これは日々の戦いです。人生は毎日起こるもの。そして、多くの場合、1日のどこかには完璧ではない何かが存在します。リサはそれに対して腹を立てないという決断を継続的にしなければなりません。彼女は完璧主義の支配から自由になりたいと望んでいましたが、彼女の考え方が新しく変わるのには時間が必要でした。彼女はこれからも神様が言っていることを信じて行動し、そして彼女の母親が押し付けていた“期待”というプレッシャーを彼女が思い出した時、感情的に反応しないことを学んでいく必要があるのです。

イエスだけが律法を完璧に満たす唯一の方で、私たちが自由になるため、私た

第3章 - 怒りの根源

ちの代わりにそれをしてくれました。たとえ私たちが神様に対して完璧な心の態度をもって完璧さを願ったとしても、私たちの人間的な性質とこの体に生きる限り、また周りのすべてから影響を受けてしまう魂を持っている限り、不完全さが明らかにされます。神様の言葉を学び、神様と時間を過ごすことを通して、私たちは完璧さに向かって成長します。そして、その道のりにおいても、私たちは喜ぶことを学ぶ必要があります。

人生は旅です。目的地ではありません。私たちの弱さの中に、神様の強さが完全に働きます。神様の中にあるのみ、私たちは強くなれるのです。自分自身に腹を立てたからといって良いことは一つもありません。私たちが常に完璧であることは不可能だからです。私は自分の最善を尽くし、残りは神様に任せるということを選びました。

満たされないニーズ

私たちすべての人にニーズがあります。そしてそのようなニーズが人間関係の中で満たされていくことを期待することは悪い事ではありません。しかしながら、私たちはまず神様を見て、神様が人々を通して働くということを確認する必要があります。たいていの人は、自分と正反対の人に惹かれていきます。私たちがお互いを必要とするように、神様は私たちが他の人と異なるように計画されたのです。全てを持っている人はいません。しかし私たち一人ひとりが、人生における健康的なバランスを保つために必要とされる役割を担っています。私はとても積極的ですが、夫はもっとゆったりしています。何年もの間、この違いが言い争いの元となっていました。今は私が彼を行動に駆り立て、彼は私が衝動的に行動しないように落ち着かせてくれるということがわかります。一緒にいることで良いバランスが保たれているのです。あなたも同じような状況にいるかもしれません。しかし、正しい見方をしなければ、あなたの必要としているものを誰かから得ようとして人生の時間を無駄に使ってしまうかもしれません。お互いが違った存在なので、相手はあなたが必要としているものを必要だと感じていないだけかもしれません。神様が私たちの必要をすべて満たしてくれると信じていますが、神様は、神様が選んだ人を通してそれを行います。デイヴが私を理解してくれない時や、問題について話す時間を取りたがらない時、私はよく怒っていました。彼のやり方はもっとシンプルでした。問題を認識し、自分たちにできることをやり、自分たちの悩みを神様にゆだねる（ペテロの第一の手紙5章7節）ということでした。一方で私は、私たちがすべきことは何な

赦し - 自分のための決断

のかを見つけ出したがっていたのです。もちろんデイヴが正しかったのですが、私は彼とは性格が違うというだけでなく、神様に信頼するというエリアでまだまだ未熟でした。

最終的に怒りに転じてしまうような、満たされていないニーズを頭の中でリストアップすることをやめ、抱えていたニーズすべてについて神様に信頼することを、私は何年もかけて学びました。デイヴが私のことを愛し、私のニーズを満たしたいと思ってくれていることは知っていましたが、私のニーズを満たすために神様が彼を私の人生においてくれたのではありませんでした。実際、彼はすべてのニーズに気付かないし、何をしたらいいのかもわからないのです。私は、デイヴがしてくれないことにこだわるのではなく、彼がしてくれる素晴らしいことに目を向けることを学びました。

あるものに対し感謝するという気持ちは、怒りや恨みを避けるために最も有効なものです。感謝をし、それを言葉でも表してください。そして積極的に怒りを避けるのです。それをしなければ、他の人を傷つける以上に自分のことを傷つけることになってしまいます。

指摘の必要性

まだ結婚をして間もない頃、デイヴに私の間違ったところを指摘してもらう必要がありました。初めは、私はそれが嫌でしたが、彼は私を愛していたし、私たちの関係が健康的であることを願っていたので、指摘をしてくれていたのです。聖書では、本当の友達が必要であれば指摘の一撃で私たちを傷つけることもあると教えています。私たちはたいてい指摘をする時に結果として起こってしまうゴタゴタを対処したくないので、人の間違った態度を放置したほうが簡単だと思ってしまいます。しかし、真の指摘は、そういう状況を放っておかないでしょう。

子どもには愛や優しさが必要なだけでなく、指摘も必要です。何の指摘も受けない子どもは、反抗的で、失礼な人間になってしまいます。牢獄に入れられている多くの割合の男性および女性が、親から正しくしつけられたことがないと証言しています。私たちの娘、サンドラとその夫のスティーヴは双子の女の子を授かり、現在8歳です。スティーヴとサンドラはたくさんの愛を示す素晴らしい親ですが、同時にしつけにおいてもしっかりしています。ここで、愛としつけの良いバランスに子どもたちはどう反応するのかを知ってもらうために、孫のエンジェルが嘘をついたために叱られたときの話をします。彼女は夜一人で自分の部屋にいた時に母親に宛

第3章 - 怒りの根源

ててメモを書いていた。一

「お母さんへ。お母さんのこと大好きだよ。お母さんのことを大事に想っているよ。お母さんのこと、大、大、大、大好きだってこと忘れないでね。」

エンジェルは叱られたことは彼女にとって正しい事だと理解していましたし、それは親からの愛情であることだと理解していました。彼女は父親に対しても似たようなメモを書いています。

聖書では、神様は愛する者を厳しく叱ると教えています。(ヘブル人への手紙12章6節) 私たちが子どもをどうしつければよいのか模範を示してくれています。子どもにはたくさんの愛と、たくさんの赦しを注ぎ、正しいタイミングで向き合い、叱ってあげることです。怒りの根源の多くが私たちの人生を大きく左右します。あなたの中にもまだ向き合っていない怒りの根源があるかもしれません。なぜ怒ってしまうのか、神様に示してもらおうよう求めてください。怒ってしまう時、その怒りのきっかけだけではなく、似たような感情を過去に抱いた事がないかどうかも考えてみてください。そこにパターンが現れてこないでしょうか？

問題の根源を理解するだけでは問題解決とはなりません、問題の真相の理解につながり、癒しに向かう最初の大きなステップになるでしょう。

人生には多くのニーズがあります。それらが満たされないと、怒りの問題へとつながっていき可能性があります。しかし真実は私たちを自由にします。私たちの怒りがどこから来ているのかに気付くことは、癒しのプロセスを始めるために重要な真実となるのです。

第4章

嫉妬の根源

憤りは残忍で、怒りはあふれ出る。しかし、ねたみの前にはだれが立ちをはだかることができよう。

箴言27章4節(新改訳)

嫉妬は恐ろしいものです。嫉妬はよく「緑色の目をした怪物(シェイクスピアの悲劇「オセロ」の中で使われた表現)」と表現されます。なぜなら、嫉妬は、人の心に入ってくると、怪物のようにその人の人生を食い尽くしてしまうからです。箴言27章4節を読むと、嫉妬は憤りや怒りよりもさらに悪いものだと言うことがわかります。嫉妬はとても大きな問題で、嫉妬だけで1章分書けてしまうほどです。

* * *

ジェニファーは姉妹であるジャッキーといつも自分を比較していました。彼女たちは二卵性の双子でした。ジャッキーは先に生まれ、元気で活発な子でした。一方でジェニファーはとても恥ずかしがり屋でおとなしい子でした。ジェニファーは、自分の能力や才能を発見しそれらを上達させることよりも、ジャッキーができることを見て妬むという怠けた性質を発達させてきました。嫉妬は怠惰です。なぜなら、嫉妬には何の努力も必要なく、自分が欲しいものを他の人が持っているのを見て腹を立て、座ったまま何もせず自分のことを哀れに思うだけだからです。ジャッキーは様々な分野で才能を持っていました。しかし、実のところ、ジェニファー自身も同じように様々な才能を持っていたのです。ですが、姉に対する妬みが、自分の才能に気付くことを妨げていたのです。仲の良い素敵な姉妹関係を築くどころか、ジェニファーにとってジャッキーとの関係は競い合う関係となっていったのです。ジェニファーの心にあった嫉妬は、彼女の十代に暗い影を落としていました。ジャッキーはとても幸せに充実した人生を過ごしていたため、ジェニファーが自分に対し妬みを抱いていることさえ気付かず、それはジェニファーをさらに激怒させていました。

赦し-自分のための決断

ジェニファーは自分がどれだけ惨めなのかをジャッキーに気付いてほしかったのです。さらにはジャッキーにも惨めであってほしいと願っていたのです。

彼女たちが大人になり、それぞれ自分の家庭を築き、子どもを持つようになった頃、ジャッキーは、どれだけジェニファーと仲良くなる努力をしてもうまくいかないという問題に気付きました。表面的な付き合いはありましたが、その関係には常に溝があったのです。この目に見えない怒りにはみんなが気付いていました。そして、ジェニファーが抱えていた不安と妬みは家族全体を苦しめていたのです。

このようなサイクルは、どのようにして人々の人生に起こってしまうのでしょうか？悪魔は、特に家族間など、人間関係の中に衝突を引き起こそうと、その機会を探し回り、常に待ち伏せしています。おそらく、ジェニファーの両親は、ジャッキーをほめた同じ日に、ジェニファーの良くない行動を指摘したのかもしれませんが。悪魔はそれを利用し、自信喪失や嫉妬の種を植え付けたのです。そのほかにも色々な状況があったかもしれませんが、結果は同じです。根底に嫉妬がある争いの中で私たちが生きてしまえば、平安も、喜びも、神様が私たちのために準備してくれている最高な人生をも私たちは失ってしまうのです。

神様が人々のためにモーセに送った十番目の戒めは、「人の家をうらやんではならない。人の妻に欲情を燃やしたり、使用人、牛、ろば、そのほか何でも、人の持ち物を欲しがったり、持ち主をねたんだりしてはならない。」(出エジプト記20章17節 リビング訳)です。この戒めの意味は、他の人が持っているものを羨ましがったり、妬んだりしてはいけないということです。妬みは心の罪です。それは、争いや怒りに火を付け、分裂を生みます。神様は、私たちが他の人の祝福と一緒に喜ぶことを願っています。そして多くの場合、それができるまで、自分たちの願っているものを手に入れることはできません。もしそれらを手に入れることができたとしても、自分よりももっと持っている人を見てしまい、幸せを感じることも満たされることもないのです。

パウロは人の金銀や、ぜいたくな衣服などをむやみに欲しがったことはありませんでした。(使徒行伝20章33節)彼は、神様から与えられた使命を生き、神様が創った彼自身を生きていました。満足感に浸れることはとても祝福な事で、その満足感を見つけ、そこにとどまり続けられる人は多くはいません。パウロはその秘訣を知っていました。彼は自分が神様の御心の中のことを知っていて、彼が必要としているものはすべて、神様が正しい時に与えてくれることも知っていました。彼は、何の欲望もないような受け身の人だったわけではありません。彼は、神様がしてくれる良い事や、神様の知恵に完全な信頼を置いた、信仰にあふれる人だったの

第4章 - 嫉妬の根源

です。

バプテスマのヨハネも、妬みを持たなかったと言われる信仰を持った人の一人です。ヨハネによる福音書3章25-27節には、きよめの教えについて、ヨハネの弟子と、イエスの弟子の間で議論が持ち上がったシーンが書いてあります。それまでは、ヨハネが人々にバプテスマ(洗礼)を授けていましたが、今となっては、イエスの弟子がきて、彼らもバプテスマを授け、人々がイエスのほうに集まっていたのです。この状況で、妬みの根源が怒りと論争を引き起こしているのをここで見ることができます。ところが、ヨハネがこの状況について知らされた時…彼は、「人は、天から与えられるのでなければ、何も受けることはできません。(人は何も要求することはできません。人は何も持ち出すことはできません。人は、天から与えられ、受け取ることができる贈り物に満足しなければなりません。天以外にそれを与えてくれるところはありませぬ)」と言いました。

私自身も、自分の持っていないものを他の人が持っている時、妬んだり、怒ったりして苦労していました。そんな時にこの聖書箇所は私を助けてくれました。もし神様を信頼するのなら、神様が私に与えてくれているものも正しいものだと信頼するべきで、神様が他の人に与えたものに対して嫉妬することは間違ったことなのだ、と気づき始めたのです。

私たちよりも神様のほうが私たちのことを良く知っています。神様は正しい方で、正しい時に、私たちに良いものを絶対に与えてくれる神様であると信じる時、私たちは満足し、人生を楽しむことができます。

使徒ヤコブは、対立(不一致や確執)や争い(口論や喧嘩)は、仲間内に起こる敵対心から来ていると、私たちに教えてくれます。私たちは、他の人が持っているものを羨ましく思い、それを欲しがりますが、なかなかすぐに手に入れることはできません。そうすると、それを持っている人を嫌い始めるのです。それは心の中で殺人を犯しているということなのです。ヤコブは、嫉妬や怒りに燃える人は、求めている満足感や、充実感、幸福感を手に入れることはできないと言っています。次にあるヤコブが言った言葉は、私の人生においてとても重要な箇所になりました。

あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです。

ヤコブの手紙4章2b節(新改訳)

自分が持っていない物を他の人が持っているのを見て、それを妬んでイライラしていた私を、この短い箇所が解放してくれました。もし私が何かを願っているの

赦し - 自分のための決断

ならば、神様にそれを願うべきで、それが私に必要なものなら、神様が正しいタイミングで与えてくれるということを感じるべきなのだ、はっきり理解することができました。神様の所には、すべてのものが十分にあります。他の人が持っているものを私たちにも与えてくれるというわけではないかもしれませんが、私たちが神様と神様のタイミングを信頼するとき、神様は私たちに豊かに与えてくれます。

さらに学んだことは、願ったものを神様が与えてくれない時は、神様がそれを隠しているということではなく、より良いものを与えようとしているということで、私はそれが与えられる時を喜びながら待つべきなのだということです。「あなたがたのものにならないのは、あなたがたが願わないからです。」これを理解する以前は、自分の欲によって動き、自分の考えや計画を実行しようと必死だったため、私の心は衝突であふれていました。自分の欲しいものが定まると、まるで、神様にはそれを与える義務があるかのようにふるまっていました。私はとても子どもっぽく、自己中心的な態度をとっていました。嫉妬は本当に恐ろしいものです。

暴力へと変化した嫌悪

サウル王はダビデを何度も殺そうとしたほど怒っていました。彼の怒りは、ダビデに王座を取られてしまうという恐れからくる妬みの結果でした。(サムエル記上18章6-12節) サウルは、彼の息子、ヨナタンがダビデと親友だったために激怒し、息子に向かって剣を抜いた事さえあります。(サムエル記上20章30-34節) 彼の怒りや嫉妬が激怒へと変わり、それが暴力的な人へと彼を変えてしまったことを見ることができます。

このような例が聖書にはたくさんありますが、私たちがただ彼らの人生について読むだけで、自分の人生における問題を無視するというわけにはいきません。あなたは誰かに妬みを抱いていますか？スポーツでも、仕事でも、他のどんな分野でも、他の人が自分よりも優れていると、怒りが湧いてきますか？スポーツ競技においては、怒りが醜い姿で現れるのを良く見かけます。みんな勝ちたいと思っていますが、その願いが強いほど、自分よりも優れている人に対し怒りを燃やしてしまうのです。それは間違っています。教会のバレーボールリーグで試合をしたとき、勝利を願うクリスチャンたちがクリスチャンらしくない行動をとるのを見てしまったことを覚えています。嫉妬という、緑色の目をした怪物はすべての人を獲物として狙っています。私たちも気を付けなければいけません。

何が理由であれ、誰かを妬んでしまう時、自分のために良い選択をし、乗り越

第4章 - 嫉妬の根源

える必要があります。妬みは惨めな思いをもたらすだけです。神様はユニークで特別な計画を私たち1人ひとりに用意してくれています。私たちはみんな違うのです。しかし、同等に価値のあるものです。それを知ること、ありのままの自分を受け入れ、満足することができます。

違うのであって劣っているのではない

私たちの社会の中にある比較や競争は、とても悲惨なもので、怒りや分裂を引き起こす根源となっています。お互いに違いがあるからといって、誰かが劣っているとか、優れているというわけではありません。それぞれの分野で、全てが価値を持った存在なのです。私の手は足とは異なりますが嫉妬し合ったりはしません。神様がそれぞれに与えられた役割を持って、素晴らしく機能し合っています。神様は、私たちがそれぞれの美しさと価値に気付くことを願っており、他人と違うことに劣等感を抱くことなど願っていないのです。ある牧師がこのように表現していたのを聞いたことがあります。「私たちは、自分の体を心地よく感じることを学ばなければならない。」

怒りは劣等感を反映しています。私たちは、優越感や劣等感を持つことなく、平等に人々と接する必要があります。イエスは偉大な平等主義者です！イエスを通して、私たちはすべて平等です。イエスは、もはや男も女もなく、ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、イエスにあってすべてが一つであると言っています。(ガラテヤ人への手紙3章28節)私たちの価値は私たちに何ができるかによって決まるのではなく、私たちが誰であって、誰に属しているのかによって決まります。私たちは神様に属しており、また見た目、才能、神様からくるその他の能力に属しています。背の低い人が、自分より背の高い人を妬んだり、背が低いのを心配したりしたからといって、自分の背を高くすることはできません。その人にできることは、自分になれる最高の自分になるよう努力し、他の人と自分を比較しないということです。

ザアカイは背の低い男性でした。イエスが町を通ることを聞いた彼は、イエスを一目見たいと思いましたが、背が低かったので、人だかりの中では見ることはできないとわかっていました。ザアカイは自身の背の低さに失望することもできたでしょう。背の低さを障害と思うことさえできたかもしれません。自己憐憫に陥り、消極的になることもできたはずですが。しかしザアカイはそうではありませんでした。彼は群衆の先に回り、イエスをはっきり見るために木に登ったのです。イエスが通った

赦し - 自分のための決断

時、イエスは木の上にいるザアカイを見つけ、彼の家で夕食を食べるので、降りてくるようにと言いました。(ルカによる福音書19章1-6節)ここは聖書の話の中でも私のお気に入りの話で、ザアカイの良い態度がイエスを喜ばせたということを知ることができます。イエスは彼の態度をととも気に入り、彼と特別に時間を過ごしたのです。背が低いことに怒りを燃やしていたら、ザアカイはこの出来事を逃していたでしょう。

もしあなたが自分自身のことについて何か腹を立てているなら、ザアカイから教訓を学ぶことを強く勧めます。あなたが持っているものをフル活用して、できる限りのことをやってください。神様はいつも変化を起こし、あなたを前進させてくれるでしょう。母親の胎にいるときに、神様の手によってきめ細やかにあなたが創られたということに気付いてください。神様は間違ふことはありません。神様が創るものはすべて良いものです。あなたもそれに含まれているのです。

時間をとって、自分の身体的なことや才能について、嫌いな部分をリストアップしてみることをお勧めします。リストができたなら、神様がそれを自分のために選んでくれたのに好きになることができずにいることを赦してもらおうのです。そしてリストを破り捨てて、ありのままの自分でいられるよう神様に助けを求めて祈ってください。

私自身これを学ぶまでは、自分の声をもっと優しく、自分の足をもっと細ければ、自分の髪の毛をもっと太ければ、とっていました。それらをすべて持ち合わせている女性を見ると、その女性たちを自分の人生から除外したいような気分になっていました。他の人の何かを羨むとき、その人たちとの関係を楽しむことは難しくなります。自分が求めているものを持っている女性を見ると腹が立ち、劣等感を感じていました。しかし、彼女たちもまた、自分自身のことでも気に入らない部分があるということが現実です。彼女たちにはないもので、私が持っているものを彼女たちは羨むことさえあるかもしれません。

嫉妬は、悪魔が人々の間に分裂をもたらす時に使う道具の一つです。嫉妬は時間の無駄で、何も良いものは生み出さず、嫉妬したからといって欲しいと望むものを手に入れることもできません。

この本を書いている理由の一つは、何の良いものも生み出さないことのために時間を無駄にすることがないように、良い決断をするための手助けをしたいからです。他の人に嫉妬することをやめ、神様の私たちに対する愛に信頼するということは、自分自身のために本当に良いことをしているのです。

第4章 - 嫉妬の根源

* * *

聖書のヨセフの話は素晴らしい勝利の話の一つです。ヨセフは小さい男の子で、父親のお気に入りの子どもでした。もちろん他の息子たちよりもヨセフを愛していたということではなかったのですが、彼には違った方法で愛情表現をしていました。ヨセフは末っ子で、通常末っ子は家族の中でも一番注目を浴びます。彼の兄弟たちは嫉妬し、その嫉妬は怒りへと変わり、ヨセフを奴隷商人に売り、父親には、ヨセフが野生の動物に殺されてしまったと嘘をついたほどでした。彼は犯してもいない罪のために13年間牢獄に入れられたことも含め、何年もの間、不運な状況に置かされていました。しかし、彼は良い態度を保ち続けたので、どんなことを任されようと、いつも昇進していったのです。もし私たちが神様を信頼し、恐れや劣等感、怒りや嫉妬などの感情に左右されることがなければ、神様はいつも私たちを引き上げてくれます。ヨセフは、兄弟たちの怒りに対し、自分自身の怒りで向かっていくこともできたでしょう。怒りにまかせ、苦みをもち、人生を台無しにすることもできたはずですが、彼は兄弟たちの間違っただけの決断によって自分の人生を左右させることはしませんでした。

他の人がした間違っただけの決断が、あなたを怒らせてはいませんか？もしそうなら、他の選択肢があるにもかかわらず、あなたはもったいない事をしています。他の人が何をしたかに関わらず、私たちは自分のために良い選択をすることができます。私たちに他の人の行動を変えることはできませんが、彼らの行動によって私たちの態度をコントロールされてはいけません。神様は私たち一人ひとりに自由意思を与えてくれています。全ての状況において、生きることもしくは死ぬことを選ぶことができます。自由意思ということは、私たち自身に責任があるということで、もし不幸に感じているのであれば、それは自分の責任です。なぜなら、不幸にならないという選択肢も与えられているからです。

聖書で、ヨセフの人生のすべてを読むときに、彼の家族がヨセフの元を訪れ、彼に対してしてしまったことをとても悔む、というシーンがあります。結果、ヨセフは、飢饉の中でその家族を快く助けたということを知ることができます。ヨセフは怒ることを手放しただけではなく、自分に対してとても悲惨な事をした兄弟たちのことをすぐに赦しました。人を赦せる人は、嫉妬や怒りを持っている人より、どんな時でもはるかに素晴らしい人です。心の狭い人たちだけが、嫉妬や怒りに自分の運命を決めさせてしまいます。

赦し - 自分のための決断

イエスは癒し主

イエスは癒すために来たのだと聖書から知ることができますが、癒しが必ずしも奇跡的に起こるとは限りません。癒しは多くの場合、癒してくれる方の処方箋に従うことによってもたらされるものでもあります。言い換えると、イエスが私たちに行うよう教えてくれたことに私たちが従うのであれば、喜びが増すだけでなく、より健康的になっていくということなのです。

落ち着いた平穏な思いと心はからだの命と健康。妬み、嫉妬、怒りはむしろまされた骨のようだ。

箴言14章30節(AMP訳からの直訳)

これは、私が「衝撃的な聖書箇所」と呼んでいるものです。平安は癒しを促進し、不安、妬み、嫉妬、怒りは健康を損ないます。医師たちが言うには、全ての身体的症状の80%はストレスによって引き起こされ、過度のストレスを減少または取り除かない限り、健康になるのは不可能なのだそうです。怒ることで私は大きなストレスを感じましたが、おそらくあなたにとっても怒りによって同じことが起こるでしょう。自分にないものを他の人が持っているという事実に対し怒りを燃やすのが妬みです。そしてその妬みは私たちの健康に悪影響を及ぼすのです。

どのような分野に根づいている怒りなのかに関わらず、怒りはストレスを生み、ストレスは病気を生みます。先に話した、叔母との出来事が起こった時、怒ったまま過ごした数日後、完全に疲れ切ってしまったことを覚えています。色んな部分に痛みを感じ、頭痛があり、とても疲れていました。怒りは神様の思いとは正反対です。そして私たちの体も怒りとはうまくやっっていけないのです。

家族から受けた不当な扱いを赦せるまで、何年間もとてもひどい関節炎を患っていたという女性と一緒に教会に行きました。彼女が家族を赦したとき、数日かけて痛みが徐々に引いて行き、その痛みは決して戻ってくることはなかったそうです。関節炎を患っている人に、何か赦さなければいけないことがある、と言いたいものではありません。頭痛を患っているなら、それは妬みが原因だ、と言っているのでもありません。言いたいのは、心を探り、ネガティブな感情が少しでもあるならば、神様に癒しを求める前に、それらの感情を手放してほしいのです。ネガティブな感情は多くの病を引き起こす根源だと確信しており、それらを手放すことで、癒しが促進され、人生にエネルギーが湧いてくるのだと信じています。

第4章 - 嫉妬の根源

イエスは、「私が道である」と言われました。イエスの道について行くときに、私たちは最高の人生を歩むことができます。

満足感

私は毎朝日記を書いています。過去何年間かの内容を見返す中で、「私は満たされている」と書いている箇所を何か所か見つけました。このような発言ができていたということは、私にとってとても大きな意味を持ちます。なぜなら、満たされないうまま、多くの年月を無駄にしてきたからです。満たされるためには、何かを得なければいけないような思いが常にありました。使徒パウロは、どんな状況にあっても「満ち足りること(満たされていて何も気にしないこと)」を学んだと言っています。(ピリピ4章11節)満足感とは私たちが学ぶべきものなのだと確信しています。なぜなら、私たちすべての人間は不満を持って生まれてきたからです。その不満は私たちの性質の中にあり、制御しない限り、黙っていることはないのです。

あなたは満たされていますか？そうでなければ、満足を求めてください。なぜなら、満足しているということは、とてもいい状態だからです。満足しているとは、もう何も欲しくなくなる、というわけではありません。しかし、満足するということは、神様が何か他に与えてくれるまで、今持っているもので満足するということです。子どもに何を与えても満足しないなら、それは親にとってはとても悲しい事です。親は、子どものためにできることに目を留めますが、子どもたちは、自分にはないもので、他の子どもたちがもっているものに目を留めます。最新のものを欲しがり、最新のスマートフォン、最新のパソコン、ブランドもののテニスシューズ、などなど。親としては、彼らがすでに持っているものに感謝をしてほしいと願います。物をねだられるのは構いませんが、決して満たされることのない悪い態度によってプレッシャーを感じたくはありません。もし、子どもに対してそのように感じているのであれば、神様も私たちの不満をどう見ておられるでしょうか？欲しいものが与えられず不満を言っているようでは、神様はそれを与えてはくれないでしょう。というよりも、私たちが人生で何が一番大事なのかを理解するまで、与えるのを待とうと思うでしょう。

私たちの考えは私たちの感情に影響を与えます。もし不満を感じるのであれば、それを乗り越えるためには考え方を変えることです。まだ持っていないものについて考えるのではなく、すでに与えられているものについて考えてください。神様の知恵と素晴らしさについて考え、神様はあなたの祈りを聞いていて、神様の完璧なタイミングであなたにとっての最善を行ってくれるのだと、自分に思い起こさせる

赦し - 自分のための決断

のです。誰かが祝福されているのを見たならば、特に、自分が願っているのにまだ与えられていないものを、誰かに与えられているのを見たならば、彼らが祝福されていることを神様に感謝してください。神様への従順としてそれをしてください。すると喜びがあなたの心を満たします。

嫉妬深い友達

神様が私に与えてくれたものに対して、妬みを抱いている友達がありました。そして、その関係は私をとて居心地悪くさせました。例えば、ある人が贈り物として、私に素敵な指輪をくれました。その時の彼女のコメントは、「誰か私にも指輪くれないかしら。」でした。良い友達でいるということは、お互いの喜びを心から分かち合うことです。彼女の態度のせいで、何か祝福された出来事があったとしても、彼女にはそれを伝えないほうが良いと思うようになりました。彼女の嫉妬や不安を引き起こすようなことを言わないよう、発言には気を付けていました。彼女といることをだんだん負担に感じ始め、悲しい事に、彼女を避けるようになってしまったのです。

心にあることが口から出てきます。人の口から妬みが出てくるのを私たちは聞きますが、よく耳を傾けると、私たち自身の口からも妬みは出てきます。私は、自分のために良い選択をし、人を妬まないと決断しました。あなたも、私と一緒にこの聖なる決断に加わってくれることを望んでいます。貪欲さ、妬み、嫉妬、これらすべては怒りを生み、そしてその怒りは、神様が望んでいる正しさを前進させてはくれません。

第5章

怒りを仮面で隠す

一般的に怒りは受け入れがたい態度として認識されているので、私たちはその怒りを周りの人はもちろん、時には自分にさえも、気付かれぬように仮面で隠そうとします。私たちは怒りを見せないように違った態度で怒りを隠そうとします。何か見られたくないものがある時に人は仮面をつけ、周りにそれを見られないように仮面の下に自分を隠すのです。仮装パーティーでも、正体を見破られないよう変装したり、また自分ではないキャラクターになりきったりと、人々を驚かせるために仮面をかぶります。今こそ私たちは仮面を外し、隠されている怒りと向き合い、神様の御心にそって対処していく必要があります。

まず、怒りを覚えるときに私たちがつけてしまう仮面をいくつか見てみましょう。

冷たい態度の仮面 - は怒りにかぶせる仮面の中でもっとも一般的なものです。怒るべきではない相手と関わる時、怒っていないように振る舞いますが、冷たい(優しさや感情のない)態度になります。私は、これを「表向きの赦しの祈り」と呼んでいます。このような祈りをたくさんしてきたことを思い出します。その赦しの祈りをしても、その赦したはずの相手とは距離をとったまま、冷たい態度をとりつづけていました。クリスチャンとして、怒りにとどまってはいけないことはわかっていました。その危険性についてはちゃんとした理由もあるので、この本でも後ほど話していきます。正しい事をしたいと願う中で、「神様、〇〇さんを赦します。傷ついた私の心が癒されるよう助けてください。」と祈っていました。本気でそう思って祈っていますが、その従順な祈りに見合う従順な行動も同時に必要であることに気付いていませんでした。神様は、次のステップとして私にその人に何事もなかったかのように優しく接することを願っていましたが、私はそうしたくはありませんでした。

聖書のペテロの第一の手紙4章8節に、私たちの愛は熱心(猛烈)なものではないと書かれています。冷たい愛は決して神様に受け入れてもらえません。それは神様が願っている本物の愛とは違う見せかけの愛だからです。本当の愛は「本物」であるべきで、強く、温かくあるべきで、冷たく、距離のあるものではありません。聖書では、この地上にある多くの悪と犯罪のため、クリスチャンの愛も冷めて

赦し - 自分のための決断

いってしまう、と書かれています。(マタイによる福音書24章12節)イエス・キリストが再び地上に降りてくる時が近づくのを待つにあたって、私たちは他の人々への愛が冷めてしまわないよう、必死に抵抗するべきです。

私は責任感が強い性格なので、たとえ怒りを抱いている相手に対しても、自分のやるべきことをきちんと行います。自分の役割は果たしますが、たいていの場合、冷たく、何の優しさも思いやりも見せないまま終わらせます。ある日のこと私は、家族に失望させられ、家族全員に対して怒っていたことがありました。それでも夕食の準備をし、食卓を整えていた時のことです。私は自分の役割は果たしましたが、すべてにおいて機械的で、感情の無いものでした。そして「どうかしたの?」と聞かれても、「大丈夫。」と答えるのです。似たような体験をした人がいると思います。これこそ何の問題もないと装う、冷たい態度の仮面で、誰も疑問を抱かないだろうと願いながら、仮面の下にそれを隠しているのです。

もし誰かが、私のために本心からではなく、義務感から何かをしようとしている時、いつも私はそれに気付くのです。そしてとても嫌な気分させられます。そんな気分になってしまうなら、むしろ何もしてもらわないほうがまだましです。もちろん自分が同じようなことをしている時も、周りの人は気付くはずです。だから私は、偽物よりも「本物」になると決意しました。怒りで煮えくり返っているのに、何も問題がないかのように見せかけるより、怒りがおさまるまで時間が欲しいと正直になったほうが良いと思うのです。

人生から人々を締め出す

避ける仮面 - 人々を人生から締め出す方法はいくつもあります。無言で接することもその一つです。私たちが怒る時、爆発する時もあれば、無口になることもあります。自分自身や周りの人に、自分は「怒ってない」と言いながら、相手とまったく話をしなかったりするので。会話する必要があるれば、できるだけ短く、最低限のことのみで終わらせようとするのです。普段のように話せないで、ぶつぶつ話したり、うなずいたりするだけです。私も、怒って口を固く閉じ、何も話さなかった経験があります。子どもっぽい行動はやめて、きちんとその相手と話をする必要があるとわかっている、口を開いて話をすることに、意を決するほどでした。

相手の身体に触れないよう、相手を避けることによって人々を人生から締め出すこともできてしまいます。デイヴに対して怒っていた時、彼に触れないよう、文字通りベッドの端に寄って寝ようとしたことがあります。マットレスの端の縫い目の上

第5章 - 怒りを隠す

に寝ているかのようにでした。端に寝ていたのでブランケットがきちんとかからない状態でしたが、それを彼に伝えるのも嫌だったので、その晩は凍えながら過ごしました。デイヴは心地よい眠りについている中、愚かなことに私は一晩中惨めな思いをしていました!内側で自分がどれほど苦しんでいたかを思い出します。そして、神様がそのような行動を乗り越えさせてくれたことを心から感謝しています。

怒って、その相手と同じ部屋にいたくないと思い、避けてしまったことはありませんか?あなたがいる部屋にその相手が入ってきたら、理由をつけてその部屋を出るでしょう。その相手がテレビを見たいなら、あなたは寝室へ行こうとしますが、その相手が寝室へ行きたいなら、あなたは起きてテレビを見ようとします。相手が空腹でも、あなたは空腹ではなく、相手が散歩やドライブに行きたくても、あなたは頭が痛くて行きたくはありません。これらすべては、私たちの行動が真実を露呈しているのに、問題がないかのようにふるまうために私たちがつけてしまう仮面です。

「デイヴを赦しました。」と神様に祈っている間中ずっと、朝コーヒーを出すことも、彼の好物を料理することも、普段話するようなことを話すこともしませんでした。こういう態度は私たちを束縛してしまいます。ですが一方、神様の言葉への従順は私たちを自由にします。

ある牧師などは、教会の会衆や特定のメンバーの問題について怒っていることを、メッセージや説教を使って示そうとします。彼らは、神様から与えられたメッセージであるかのように、その中に怒りを隠し入れます。夫の浮気が原因で離婚してしまった牧師夫婦が知り合いにいます。女性のほうは、メッセージを続けていましたが、その約2年間の彼女のメッセージはすべて、人をコントロールし操る人々についてのメッセージでした。人に利用されない方法や、安全な人間関係、そのほかそれらに関係することについて語っていました。彼女が教会で語る内容はすべて彼女の状況に関連しているかのようにでした。聖霊から直接導かれるメッセージではなく、彼女の中にある痛みからくるメッセージを語っていたのです。彼女は夫のことを赦し、前向きに進んでいると何度も言いましたが、その夫が彼女に何をしたのかについて彼女が話すことはなく、私もそのことについて彼女とほとんど話したことがありませんでした。自分の傷について話を続ける限り、問題を乗り越えたとは言えません。乗り越えたようにふるまいますが、実際は乗り越えていないのです。

聖書は、心は何よりもごまかすことがうまく、他の人の心を知ることはとても難しいと言っています。(エレミヤ書17章9節)自分をだますことも、真実から逃げる方法です。自分自身に、もう怒っていないし、「赦したのだ。」と言い聞かせることはできますが、その相手に冷たい態度をとり続け、会話をしようとせず、無視をして、そ

赦し - 自分のための決断

の相手がどう自分を傷つけたのかを話し続けるなら、まだその相手を赦せていないし、他の誰よりも自分を傷つけているのです。

御言葉の間違った使い方

御言葉の仮面 - 人々に怒りをぶつけるために御言葉さえ使うことができます。エペソ人への手紙4章15節に良い例があり、「愛をもって真実を語る」ようにと書かれています。しかし、相手が何をしてしまったのかという真実を伝えるのですが、実際には相手への失望や怒りを伝えるために、この箇所が使われてしまうことがよくあります。彼らの益のために真実を伝えようとしていますか？それとも自分の益のためですか？本当に彼らのことを考えているから、愛をもって真実を伝えているのでしょうか？それとも人々に文句を言うために、神様から承認された、都合の良い新しい方法を見つけたかのようでしょうか？

「愛をもって真実を語る」そのような人の犠牲となった経験が何度かあります。彼らに言われた言葉に傷つきましたし、その問題を対処しなければいけません。ある女性が、「ジョイス、あることについて、あなたに本当のことを伝えなければならぬの。」と言ってきたのを覚えています。彼女の声のトーンから、彼女が言おうとしていることは良い内容ではないだろうとわかりました。彼女は、私のあるメッセージ(説教)によってとても傷ついたのだと言い、しかし、私のことをすでに赦したのだということも断言していました。これはとても馬鹿げていて、彼女は自分自身をごまかしていました。なぜなら、本当に私を赦したのであれば、この話を持ち出してくる必要はなかったからです。怒りをぶつけるため、彼女はこの御言葉を使ったに過ぎなかったのです。

前にも言った通り、人々の態度についてその人たちと向き合わなければならない時があります。しかし、自分のためだけにではなく、その相手のためであるということを確認しなければいけません。私たちが人々と問題について向き合う時は、自分の意志によってではなく、神様からの導きによるものであることを特に気を付けなければいけません。ある人たちは、問題に向き合うことを嫌がりますが、それはそこまでの問題ではありません。実際のところ、神様がそうしてほしいと願うまでは、人に問題を突きつけることはしてはいけないのだと学ばなければいけません。時に神様は、私たち自身が問題に向き合い、解決し、誰にも何も言わず、自分だけにとどめておくことを願う時があります。誰かに感情を傷つけられたからと言って、それをその人に伝えるべきだとは限りません。時には、彼らから受けた傷を覆

第5章 - 怒りを隠す

い、手放す決断をする方が良く、神様に喜ばれることなのかもしれません。

私たちの怒りは大げさなドラマのようになってしまうこともあります。色々な方法で怒りを表現をしているのにもかかわらず、悲しい事に、自分たちはすぐ怒ってしまうような人間ではないと自分自身をだますのです。自分の怒りを色々な仮面で隠していないかどうか、神様に示してもらおうよう祈ってください。そしてもし、仮面をつけているようなら、その仮面を取り、あなたの人生に神様が癒しを運んできてくれるよう祈ってください。もう一度言いますが、「真実はあなたを自由にします」。

怒りのせいで人生がめちゃくちゃ

釘が入ったバッグ

昔、とても短気な少年がいました。父親は彼に釘の入ったバッグを渡し、怒ったときには外壁に釘を打つよう言いました。初日には、その少年は37本もの釘を外壁に打ちました。しかし、日ごとに釘を打つ回数が減ってきました。外壁に釘を打つよりも怒りを我慢したほうが簡単だということに気付いたのです。ついに、少年が腹を立てなかった日が訪れました。彼は誇らしげに父親にそのことを伝え、父親は、今度は怒りを我慢できた日には1本の釘をその壁から抜くようにと言いました。何日か過ぎた後、ついにその少年は、全ての釘が壁から抜けたことを父親に伝えました。父親は少年の手を取り、壁の所へ行きました。「よくやったね。でも壁に開いた穴を見てごらん。この壁は元には戻らないんだよ。怒って何かを言うってしまう時、その言葉は、この壁の傷のように人の心に傷を残してしまうんだ。何回ごめんなさい、と言ったとしても、ナイフで人を刺し、それを抜くと、そこには傷が残るんだ。」

ずっと怒ったままでいることの結果は何でしょう？私たちの人生のすべての分野でダメージを負うということです。体も、魂も、そして霊も悪影響を受けます。私たちの健康も人間関係もダメージを受けます。将来の成功の可能性をも妨げてしまいます。なぜなら、怒りは私たちの性格を変え、すぐ怒る人はたいていの場合、長期間仕事に就くことが困難だからです。怒ったままでは、神様が願っている自分になることは決してできません。社会全体が私たちの怒りによって影響を受けていると感じます。しかし、誰よりも私たち自身こそ自分の怒りに大きな影響を受けているのも事実だと思います。だから繰り返して言っているのです。自分のために良い決断をし、赦す。覚えておいてください。たとえ、自分の怒りが正当なものだったとしても、怒りにとどまることは自分自身も、状況も良い方向には導くことはできません。

ある人の墓石にこう書いてありました。

赦し - 自分のための決断

ここにダンが眠る
彼はすぐに怒る人で、
いつも気難しく、いつも腹を立てる
若くして亡くなったが、われらには何よりだ

すぐ腹を立てる人が周りからいなくなると、みんな嬉しいと思うはずですが。なぜならその場所はみんなにとってストレスを感じている場所だからです。私の父親は人生のほとんどを通して怒っている人でした。そして彼の怒りは、一緒に住む人たちにとってもストレスを感じさせる雰囲気を作りだしていたのです。母親が何度か、彼の死後、平和で静かな時間を自分の部屋でどれだけ思う存分楽しんでいいのか、話していました。母は結婚に忠実に従ったので、父と別れませんでした。彼女が受けたストレスは彼女の健康を害し、父の怒りは彼自身の健康を害していました。

ストレス、特に長期にわたるストレスは、体のすべての臓器を破壊します。血圧、心臓、そして胃腸も影響を受けます。すぐに怒る人は、平穩な人よりも早く年を取ります。重度の頭痛、結腸疾患、不安神経症、免疫障害など、リストには終わりがありません。すぐに怒る人は、すぐに赦す人よりも早く死に至るのも事実です。

怒りについての真実に向き合い、きちんと対処する時だと信じています。あなた自身、すぐに怒る人であるなら、その根源を見つける決断をし、自由に向かって聖霊と動き出してください。仮面で覆ったり、無視したりしないでください。正面から向き合い、それが何であるのかを認識してください。「私は怒っている。」と言うことは魅力的な響きではありませんが、まず、自分の怒りを認めることは、それを乗り越えていくために重要な1歩です。自分のためにそれをしてください。あなたが怒らない人になるということは周りの人にも益となりますが、自分にとっての益はそれ以上です。

わたしが自分の過去に直面し、心を開くようになったのは、32歳の時でした。私は父親による性的虐待を受けていました。記憶がある頃から、セックスができるような年齢になるまで、ずっと性的にみだらなことをされていました。実家で過ごした最後の5年間では、約200回も彼にレイプされました。衝撃的な響きだと思いますが、実際にそうだったのです。しかし、それを乗り越えるためには、正面からそれに向き合うことが必要でした。

18歳で家を出た後、ついにこの問題から離れられると思い込んでいました。も

第5章 - 怒りを隠す

ちろん父親に苦みをもち、猛烈に彼を嫌っていましたが、それがどれだけ自分を傷つけていたのかは知りもしませんでした。真実に向き合い、赦すという過程を始めた時、これが長期に渡り私を助けるものだとはその時点では理解していませんでした。当初は、ただ単に神様に従いたく、赦したかったのです。怒る人は、正しく愛することができません。なぜなら私たちの中にあるものがいつも何らかの形で外側に出てきてしまうからです。私の怒りと恨みのせいで、全ての人間関係に苦労しました。しかし自分では気付いていなかったのです。私の怒りは私の魂の奥底に根づいていました。その怒りは私の考えにも、感情にも、言葉にも、そしてすべての行動にも、私に属するすべての分野に根づいていたのです。あまりにも長い間、怒りと共にいたため、それが何であるか気付くことさえできていませんでした。

神様の言葉を学ぶ中で、聖霊が私にある問題を示し始めました。それ以前は、私が考えられることは、人が私にしてきたことばかりでした。彼らの行動に対する自分の反応について見直す必要があるとは気付きもしませんでした。私を傷つけた父親だけでなく、私を助けられたのに助けてくれなかった人々への嫌悪感や恨みは当然のものだと思っていたのです。口にもできないような侮辱を受けた私のような人たちに、どうして神様は赦せと言うのでしょうか。神様はそれが私たちにとって最善であるとわかっているのです、私たちにそうするよう言うのです。神様は私たちが完全に回復するための計画を用意しており、神様が私たちを愛していて、私たちの最善を考えてくれるからこそ、私たちにすべきことを教えてくれるのです。私たちが神様の指示に従う決断をするならば、不可能に思えるような赦しについても、神様が恵みを与えてくれます。

怒りを乗り越えることや、赦しをライフスタイルにしていくことについて私が話す時は、自分の経験から話しているのです。それがどんなに難しい事なのかを理解しているだけではなく、それをやるのがあなたにとってどれだけの価値を生み出すかも理解しています。したがって、読破リストに加えるためだけにこの本を読むのではなく、心を開いてこれを読み、読んだことを自分の人生に適応するよう、強くお勧めします。

神様はすべての人に最高の人生を計画し、用意してくれています。私たちが、神様に言われたことを行い、神様に従って歩むなら、その最高の人生を楽しむことができます。私たちが神様に従わないのであれば、その最高の人生を逃してしまいます。神様はそれでも私たちを愛してくれますが、私たちは、神様の素晴らしい計画にある喜びを体験できないのです。自分のために良い決断を選び、神様があなたのために計画した良い人生を逃さないでください。

第6章

誰に怒っているの？

これまでも話してきたように、傷つけたり、攻撃したりしてくる人に対して、私たちは怒りを燃やします。かなり昔に自分を傷つけた人にも、日々の生活の中で傷つける人にも、怒りを燃やすかもしれません。不正に対しても怒りを燃やし、私たちの魂は、不公平だ!と叫びます。周りの人が必ずしも私たちの怒りの対象ではないかもしれません。聖書は、神様と、自分自身と、そして周りの人たちと平和を保つようと教えています。(ペテロの第一の手紙3章10-11節)

自分に腹が立つ

自分に腹を立てていますか？多くの人はそうです。おそらく、自分自身と平穏でいられる人より、自分自身との関係に亀裂が生じている人の方が多いと言えます。なぜでしょう？前にも話したように、私たちは、非現実的な期待を持っており、他の人と自分を比較し、自分はまだまだ足りないと感じるからです。過去に自分がしてしまったこと、または自分の身に起こってしまったことに対する恥が深く根づいているかもしれません。自分を醜く感じてしまい、自分に腹が立つのです。しかし、それよりも多く起こってしまうことは、自分でも良くないと思うことをしてしまい、どうすれば良くない行動に打ち勝つ力と神様の赦しを受けられるのかが分からず、自分に腹が立ってしまうということです。

とにかく、自分との平和を取り戻すための最初のステップは、自分の罪と正面から向き合い、それが何であるかを認識することです。自分のした悪い行動を無視して、それに対する言い訳をするようでは、決して自由への道をたどることはできません。罪を犯している限り、自分との本当の平和は決して持つことができません。たとえば私たちが自分たちの罪に気付かず、責任から逃れたとしても、それでもその罪があなたを悩ますことになるでしょう。

神様からの赦しを受け取る

赦し - 自分のための決断

自分は罪を犯してしまう存在なのだと認めたら、その罪を悔い改める必要があります。悔い改めは、罪を犯したことに心から謝るだけでなく、その罪に背を向け、離れる決意をするということです。罪の中に生きる人生は低空飛行の人生ですが、悔い改める人生は、神様が私たちのために用意してくれている、最高の人生へ導いてくれます。ペントハウスとは建物の一番高い部分にあり、最上階の部屋のことを言います。私たちが悔い改めれば、神様が用意している、平安と、喜びと、そして義にあふれた最上階まで戻ってこれるのです。

罪を認め、責任を取ることは、初めは難しいことかもしれません。たいていの場合、私たちは他の人を責めたり、言い訳をしたりするので、「悪いのは私です。私が間違っていました。」と言うことはとても難しい事です。私たちはみな罪を犯し、神様の栄光とは程遠い存在なのですが、自分が罪を犯したと認めることが自分の罪をさらに重くすることにはなりません。ただ認めただけになります。

もし、自分には罪がないと言いはるなら(自分が罪人であると認めることを拒むなら)、それは、自分をだましているのであって、(福音が伝えている)真理を受け入れようとしないう証拠です(私たちの心にも存在しません)。しかし、もし自らの罪を神様に告白するなら、(神様の性質および約束に忠実な)神様はまちがいがなくそれを赦し(私たちの違法を免除し)、すべての悪から清め(続け)てくださいます。[なぜなら、キリスト様は、私たちの罪を帳消しにするために、死んでくださったからです。]

ヨハネの第一の手紙1章8-9節(リビング訳に一部強調)

この聖書箇所は私を慰めてくれる大好きな箇所、素晴らしい約束があります。特に私たちをすべての罪から清め「続けて」くれるという箇所が好きです。私たちが神様と歩み続け、そして、自分たちの罪をすぐに認め、悔い改める限り、神様はいつも私たちを清めてくれます。聖書は、イエスが神様の右の座に座り、いつも私たちのために祈っている、と言っています。私たちにイエス様の祈りがいつも必要だからなのだと思います。これは私に安心を与えてくれます。

神様はすべての間違っただけのものから私たちを清めてくれます。私たちが信仰によって神様の赦しを信じ、受け入れるなら、自分自身に対して怒らなくてよくなります。神様に赦せない罪などありません。神様がそうと言うのなら、そうなのです!

私たちすべての人が神様に対し罪を犯し、神様の栄光から程遠い存在であったように、イエス・キリストの贖い(あがない)によって、すべての人が義とされイエス・キ

第6章 - 誰に怒っているの？

リストと関係を築くことができるのです。(ローマ人への手紙3章23-24節)その「すべての人」にはあなたも私も含まれているのです！

神様の赦しは無償の贈り物です。無償の贈り物なので、受け取って、感謝すること以外に私たちにできることはありません。しかし私たちは、赦しを願い祈りますが、その無償の贈り物を受け入れないことがあります。自分のやってしまった間違いを神様に赦してもらうために祈ったのであれば、その赦しを受け取ったことを神様に伝え、その贈り物がどんなに素晴らしいものなのかを意識に刻みながら、神様の存在の中にいてください。

罪を恐れなくて

私たちが何かを恐れているならば、それは私たちに対して力を持っています。なので、罪を恐れることがないようにと、願っています。キリストが死んだときに私たちも死に、キリストがよみがえったときに私たちもよみがえり、キリストのために生きる新しい命が与えられると私たちが信じるなら、罪はこれ以上私たちに対して力を持ってはいないと、使徒パウロは書いています。(ローマ6章5-8節)イエスは、罪からくる問題を完全に取り除いてくれました。私たちを完全に赦し、これからも赦し続けてくれるだけでなく、日々の生活の中で起こりうる罪を教えるため、またその罪に対して立ち向かえるよう私たちを強めるために聖霊を送ってくれました。

私たちが、自分は罪人で助けが必要なのだと気づき、イエス・キリストだけがその必要を満たせる存在であると受け入れるなら、私たちは新しい人生、新しいライフスタイルへと歩み出すことができます。罪を犯し、そのことを気にもしていなかった私たちが、今や神様の霊を心に迎え入れ、罪に対して敏感になり、罪を避ける人生を送るようになるのです。神様への礼拝として喜んでその人生を生き、聖霊が私たちを助けてくれると心から信じています。試練は必ずやってきますが、神様は決して私たちが耐えられないような、誰も経験したことのない試練は与えることはいないと確信を持つことができます。(コリント人への第一の手紙10章13節)つまり、私たちが受ける試練は他の人が受けている試練と同じで、我慢できないようなものではないと信じるができるということです。神様は決して私たちが耐えられないような試練は与えず、全ての試練に脱出の道を備えてくれます。とても良いニュースですね！試練を恐れる必要はありません。私たちが神様を信頼し、助けを求めるなら、神様が私たちの中に住み、耐え抜く力を与えてくれるからです。

自分の力で耐えようとするとき、また自分には耐えられないと間違っ

赦し-自分のための決断

しまうとき、人々は試練に押しつぶされてしまいます。人々はこんな馬鹿げた発言をします。「チョコチップクッキーを1枚食べてしまうと、止められずに1袋全部食べちゃうのよね。」「糖分が体に悪い事はわかっているけど、毎日チョコレートを食べずにはいられないわ。」これらの発言は嘘の上に成り立っていて、とても馬鹿げています。私たちは弱くて、小さな試練にも耐えられない、と悪魔は私たちに言ってきます。しかし神様は、私たちは神様にあって強く、私たちに耐えられないものは何もないと言ってくれています。私たちが罪に陥ってしまうのか、もしくは罪に打ち勝つのか、それらは、私たちが何を信じようとしているのかに大きく関わってきます。神様の言葉に相反することを信じてしまっていないか、時間をとって考えてみてください。自制を実践することで、聖霊の力を通して試練に打ち勝つことができると信じていますか？それとも乗り越えられない試練は存在すると思っていますか？私たちの信じていることが私たちの現実となります。したがって、私たちの信じていることは、悪魔からの惑わしではなく、神様から来る真実であることが必要不可欠です。

使徒パウロは、イエス・キリストによって確かとされた力を教会が知り、信じるようにと祈りました。イエス・キリストを信じているのであれば、あなたには力が与えられ、試練を乗り越えることができます！

完全に新しくされることはないこの体と魂に生きている限り、私たちすべての人は罪を犯し、赦しが必要です。しかし、罪を恐れる必要はありません。この聖書箇所をじっくり読んでください。

私の幼い子どもたちよ。私がこう言うのも、あなたがたに、いつも罪から離れていてほしいからです。しかし、もし罪を犯したとしても、父なる神の前で弁護してください。その方は、イエス・キリストです。キリスト様は、すべての点で正しく、完全に神様のお心になられた方です。そして、私たちの罪に対する神様の怒りを一身に引き受け、私たちを、神様と交際できる者としてくださいました。私たちの罪が赦されるために、自らを神様に差し出されたのです。それは、私たちのためばかりでなく、全世界のためでもあります。

ヨハネの第一の手紙2章1-2節(リビング訳)

この箇所は信じられないほど最高の箇所です。この箇所に気付いた時の私は、神様に怒られないように、自分のことをもっと良く思えるように、全てのことに正しくあろうとして必死でした。もちろんこの考え方は間違っていますが、当時はそれが私の日々の現実でした。毎日起きて、自分のやれることを一生懸命やって、

第6章 - 誰に怒っているの？

私がやってしまう間違いは神様がちゃんと面倒見てくれると信じるだけでいいのだと気付いた時、私の肩から重い荷物が取り除かれたように感じました。

この箇所は、イエスが私たちの罪のための贖いだと言っています。どういう意味なのでしょう？イエスは、罪に対する神様の怒りをなだめるものだったということです。

神様は罪を嫌います。しかし、罪を犯す人を嫌うわけではありません。夫が妻を尊敬しないので妻が怒っているとします。そして夫は謝罪のため36本の赤いバラを妻に送ります。バラの花束は、妻の怒りをなだめるものとなるのです。彼女は夫を赦し、全てが回復します。神様が私たちの罪に対して怒りを覚えたとき、イエスが私たちのためにそのバラとなってくれました。イエスが神様の怒りをなだめ、イエス・キリストにより、神様は私たちを赦してくれるのです。私たちは自分の罪に対する神様の怒りをなだめられるものは何も持っていません。何をすることもできません。しかし、イエスが完璧な犠牲となり、私たちの代わりとなってくれたのです。イエスが私たちの代わりに神様に弁護し、イエスへの信仰によって私たちの罪は赦されるのです。

これらの真実を信じることが、罪から自由になること、罪深い自分への怒りから自由になることへの最初の1歩です。罪を犯してしまうと自分に失望し、次はうまく対処できるようにと祈りますが、もう自分に腹を立てることはなくなりました。なぜなら、神様は私たちが自分に腹を立てることを望んでおらず、人生の目的のためにも何の役にも立たないと気付いたからです。

罪には厳しく対処する

罪を犯したときに素早くそして完全に神様の赦しを受け取ることを学ぶことに加え、罪を積極的に避け、厳しく対処するということが必要です。神様が私たちを赦したいと思っているという真実は、決して自由に罪を犯しても良い、罪を犯すことは問題ではない、ということではありません。神様は私たちの心を知っています。罪を嫌い、罪を避けるためにできる限りのことをやらなければ、心の正しい人などひとりもいません。

神様の恵み(素晴らしさと赦し)があふれ続けるために、罪を犯し続けるべきなのか、とローマの人々はパウロに尋ねました。パウロは「罪に死んだ私たちがどうして罪に生き続けることができますか？」と答えました。(ローマ人への手紙6章1-2節)キリストを受け入れたということは、罪とかかわる人生を避ける決断をしたこと

赦し - 自分のための決断

なのだ、とパウロは彼らに思い起こさせたのです。罪は決して死にません。罪は常に生きており、地上に存在しています。しかし、私たちは罪に対して死にました。神様は新しい心と神様の霊を私たちに与えてくれました。それは、私たちが新しい欲を得たということです。単純に、罪を犯したくないから罪を避ける人生を選ぶということです。そのような態度でいてください。私たちが何か間違いを犯したとしても、神様はいつも私たちのために赦しを準備していてくれます。

あなたが本当のクリスチャンなら、朝目覚めた時に、今日どんな罪を犯してやろうか、などとは考えないはずです。神様を喜ばせる人生を送るためにできる限りを尽くすはずです。

罪に対して、勇気のある、攻撃的な態度を保たなければ、私たちの心は私たちを責め、結局自分たちに腹を立ててしまうのです。聖書は罪に対して厳しく、時には手荒く、対処すべきだと教えています。マタイ18章8-9節には、私たちの目が罪を犯すなら、それをえぐり取り、手が罪を犯すなら、それを切り取るべきだと教えています。

もちろんこれは文字通りに受け入れるものではないと思いますが、私たちは罪に対しては攻撃的な態度を持つべきだと、神様が教えていることを理解するべきです。私たちの人生において罪を見つけたならば、それを取り除いていくということです。もしあなたの家のポストに、露出の激しい女性の写真が載った雑誌が届き（よく起こることですが）、あなたの目がそれを見て喜んでしまうようなら、直ちにその雑誌を裂き、ごみ箱に捨ててください。直ちに対処するのです。罪をもてあそんではいけません。他にもたくさん例を挙げることができますが、ここでは後2つの例を挙げます。あなたは結婚している女性だとしましょう。職場の男性の同僚があなたに親しくしてきました。仕事の打ち合わせのためにカフェで会おうと彼に誘われます。心の中では、行くことは賢い選択ではないと薄々気付いています。もしそうなら、実際に問題が起ってしまう前に、そういう状況から離れてください。あなたは家族となった夫と誓いを立てたのです。そして神様はあなたが平和を作る人となるよう励ましているのです。訳のわからないことをしてしまう前に、素早く行動してください。そうすれば罪を犯さずに済みます。聖書はローマ人への手紙13章14節で、肉の欲のために食料を供給してはいけないと教えており、それは、罪を犯すための理由付けをしないということ、また罪に機会を与えないということです。神様から「それは間違っているよ」と忠告を受け取ったにも関わらず、男性の同僚とカフェで会うことを選んでしまうなら、その女性は、罪に機会を与えてしまっているのです。

ある女の子の話ですが、とても寒い日に、彼女は山道を一人で歩いていました。1匹の蛇が彼女の横を這いあがり、彼女のコートの中に入れてくれるよう懇願し

第6章 - 誰に怒っているの？

ました。しばらく彼女は拒否していましたが、結局蛇のお願いに降参しました。しばらくするとその蛇は彼女に噛みつき、彼女は泣き叫びました。「あなたに親切にしてあげたのに、どうして噛みついたの？」蛇はこう答えました。「最初から僕がどんな存在なのかわかっていましたよ。」この短い話に誰もが共感できると思います。してはいけないと心の奥底ではわかっているのに、誘惑に負けてそれをしてしまい、最悪な結果になってしまったという経験は誰にでもあると思います。誰でも間違いは犯します。でも間違いを犯し続ける必要はありません。間違いから学ぶことは、とても賢い学び方の一つです。

神様は、私たちが悩ます罪や重荷をすべて投げ捨てるようにと教えています。(ヘブル人への手紙12章1節) 罪に対して厳しく、直ちに対処すべきであると感じさせてくれます。そしてそれを実践するならば、正しく生きることによる報酬を私たちは勝ち取ることができるのです。そして、正しい事をしたことを実感し心に平安を得ることができます。

罪からの赦しには本当に感謝していますが、赦しをいつも必要としている人にはなりたくありません。神様を喜ばせているのだと信じる喜びを持つことができるように、正しい決断ができるよう自分を訓練することが私の願いです。

隠れた罪

私たちが罪に対して言い訳をしたり、罪を隠したりしては、罪を厳しく効果的に対処することはできません。自分の心をチェックし、自分の人生に潜んでいるあらゆる罪について、勇気を出して自分に正直になる必要があります。使徒パウロは、神様も人をも傷つけることのない良心を保つために努力をしていると言っています。(使徒行伝24章16節) 彼は罪を見抜き、それを彼の人生から取り除く努力をしていたのです。神様の前で清い良心を持っていることの力を彼は知っていました。私たちも、罪を犯さないためにあらゆる努力をする必要がありますが、罪を犯してしまったときは、言い訳をしたり、隠したりするべきではありません。罪を隠したままでは、私たちは惨めになっていきますが、真実は私たちを自由にします。

信仰から出ていないことは、みな罪です。(ローマ人への手紙14章23節) 自分のできることを信仰をもってできていないのであれば、それをするべきではないです。それが罪なのであれば、罪だと認めてください。それをあなたの問題だ、とは言わないでください。あなたの悩みだ、とは言わないでください。それに依存しているのだ、とは言わないでください。罪は醜いものです。罪を聞こえのましなものに置

赦し - 自分のための決断

き換えてしまうと、それをなかなか手放せません。

御言葉の光の中で私たちの人生をチェックし、御言葉に反するものの実態を確認し、神様から与えられる力をもってそれを取り去るのです。神様に祈れば、必ず助けてくれます。神様と協力するのです。私たちがどんなことを対処しなければいけないなくても、神様は必ず助けてくれます。もう一度言います。罪を隠さないでください。それを表に出して、それが何なのかを認めるのです。言い訳をしたり、自分の選択を他の人のせいにしたりしてはいけません。過去の罪に対する神様の完全な赦しを受け取り、将来くるであろうすべての試練に立ち向かえるよう聖霊と歩むのです。

今自分のために良い決断をし、自分自身を完全に赦してください。自分に対するすべての怒りを手放し、あなたが生きるために神様が前もって用意された良い人生を生き始めてください。(エペソ人への手紙2章10節)

神様に怒ってる？

神様についての話を聞いたことがあるならば、神様は良い神様で、私たちのことを愛していると聞くでしょう。それなのにどうしてこの世には多くの痛みや悲劇があるのかと、自然と疑問に思うかもしれません。神様にはすべての力があって、すべてが可能であるなら、なぜ神様は苦しみを取り除いてはくれないのでしょうか？このような、またこれらに似た質問は、ずっと人間を悩ませてきました。

子どもが虐待され、常に戦争や破壊のニュースが流れ、世界的飢饉が何百万人も命を奪っています。良い人が若く死に、一方でずる賢い、人の役にあまり立たないような人々が長生きしています。地球上にあらゆる病気が蔓延し、良い人も悪い人もその影響を受けます。「こんなの不公平だ!」と私たちの魂は叫びます。正義はどこにあるのか？神様はどこにいるのか？

神様を信じる理由などないと思っている人たちは、この答えのない質問を乗り越える必要があります。「本当に神様がいるなら、苦しみを取り除いてくれてもいいじゃないか。だから神様の存在は信じない」と彼らは言うのです。しかし同時に、この悩ましい質問へ答えが与えられていなくても、神様を信じている素晴らしい人々が何百万人もいます。

これらの答えを期待しているなら、申し訳ないですが、私にはその答えはありません。私には十分に説明することはできませんし、それをできる人がいるとも思えません。私はただ単に神様を信じることを選んだのです。正直にいうと、神様なしでは私は生きたいとも思いません。神様は私の人生そのものです。神様のことをすべ

第6章 - 誰に怒っているの？

て理解できなくても、神様なしの人生より、神様との人生を選びます。

神様は苦しみのない人生を約束したのではありません。しかし神様は、私たちに慰め、前進するための力を与えると約束してくれました。そして、私たちが神様を愛し、自分の人生に神様の御心を願いつけるなら、神様は私たちに起こるすべてのことを益としてくれると約束してくれました。(ローマ人への手紙8章28節)人生に苦しみをもたらす問題があるときは落ち込みますが、そんな時も私を助けてくれる神様がいることをとても感謝しています。希望がなく苦しんでいる人、痛みを超えた先を見ることができずに、思いや心が苦みであふれている人をかわいそうに思います。

神様が良い神様だとわかっていますが、この世に悪魔が存在しているのも事実です。神様は私たちの前に、良い事と悪い事、祝福と呪いを置き、私たちにどちらを選ぶかの責任を与えました。(申命記30章19節)多くの人が罪と悪を選ぶので、私たちはその影響をこの世で受けています。良い人でさえ、罪深いこの世の圧力の下で生きています。悪のパレッシャーを感じ、それは当分の間続きます。聖書は、神様の創造物でさえも、滅びの束縛の下でうめき、人間と同じように自由を待ち望んでいると言っています。(ローマ人への手紙8章18-23節)

私たちは目に見えない不思議な神様に仕えています！神様を知ることはできませんが、神様はいつも私たちの理解をはるかに超えています。

ああ、なんとすばらしい神様を、私たちは信じていることでしょうか。神様の知恵と知識と富は、なんと偉大なことでしょうか。神様の取り決め(決定)と方法(道)とを理解することなど、とうていできません。(神秘的で、摩訶不思議で、見出すことができない)

ローマ人への手紙11章33節(リビング訳に一部強調)

神様の性質を知り、神様がいつも私たちに忠実でいてくれることを信頼することができます。しかし神様がすること、しないことをすべて理解することはできません。信仰は目に見えないことを信じることで、たいていの場合それは理解できないことです。明かされていない不思議を待っている間も、私たちは信仰を持つのです。しかし、正直に話しますと、そのうちのいくつかの答えは、私たちが地上で生きている間には得られないかもしれないことにはあなたも気付いているでしょう。神様は私たちが神様を信頼するようになっており、その信頼には、すべての疑問が答えられたかどうかは関係ありません。「すべては理解していない。」ということに安心している

赦し - 自分のための決断

必要があります。

苦しみによって深まる親密さ

最も謎に満ちた、いつ読んでも試される聖書箇所の一つに、ヘブル人への手紙5章8-9節があります。「イエス様は神の子であられたのに、神様に従うことには多くの苦しみが伴うことを、身をもって学びました。この体験を通して、ご自分の完全さを実証し、その上で、ご自分に従うすべての人に永遠の救いを与える者となられたのです。」(ヘブル人への手紙5章8-9節 リビング訳)イエスが受けた苦しみは、完全な(成熟した)存在へなっていく方法だったということで、それは弟子達にとっても同様だったのでしょうか。

信仰は試されることで成長します。神様は信仰という贈り物を私たちに与えてくれました。しかし、信仰は私たちが使う時に初めて成長し、大きくなるのです。

イエスの最初の12人の弟子たちは、イエスとの歩みの中で理解できない出来事をたくさん経験しました。しかしイエスはこう言ったのです。「なぜこんなことをするのか、今はわからないでしょう。だが、あとでわかるようになります。」(ヨハネによる福音書13章7節)私たちは説明のつかない出来事がたくさん起こる世界に生きています。そのような世界でも、神様は信頼してほしいと願っています。

ジェイ・オスワルド・サンダーズさんは『神様との関係を楽しく過ごす (Enjoying Intimacy with God)』という本の中でこう言いました。「この乱れた世の中で安らぎを得るためには、神様の主権にしっかりとしがみつき、神様がしようとしていることが理解できなくても神様を信頼することです。」

他のどこを探しても学べないことを、困難の中で多く学ぶことができます。イザヤ書45章3節では、神様はこう言いました。「こうして、暗やみに隠された財宝や、だれも知らない富を与える。」暗やみの中でしか見つけることのできない宝があるのです。そのうちの 하나가、神様との親密な関係です。

論理的思考

人間の性質として、全てを理解したいという願望があります。驚かされることを好まず、全てを把握したいと思っています。思い通りのタイミングにすべての計画が実行されたら最高ですが、そのようなことは起こりません。神様を信じているな

第6章 - 誰に怒っているの？

ら、私たちの欲しいものを神様にお願ひしますが、いつもそれが与えられるとは限りません。祈りが答えられないまま放置されていると感じ、心の中に葛藤が起こります。

決して得ることができない答えを探し続けることは、とてもイライラが募る厄介なものです。私自身、10年以上も父親から性的虐待を受け、精神的にも感情的にも何年もの間苦しみ、なぜ良い人に悪い事が起こってしまうのか、答えを探していました。そんな中、神様と歩む人生において決断を迫られる岐路に立たされました。私の疑問に対する答えがすべて得られないとしても、神様を信頼することを選ぶ必要があるのだと、それとなくはわかっていました。それを選ばなければ、平安は決して得ることはできなかつたでしょう。これは、全ての人がそれぞれ決断しなければいけないことだと思います。誰かに神様のことについて説明してもらおうと待っていたって、一生待たなければいけません。神様は私たちの考えをはるかに超えた方で、美しく、素晴らしく、そして私たちの人生に正義をもたらしてくれます。説明のつかないような出来事でも神様は私たちを信頼し、委ねてくれます。

悪い事は良い人にも起こりますが、それは、神様を信頼する絶好のチャンスなのです。

あなたがたのうち、だれが主を恐れ、そのしもべの声に聞き従うのか。暗やみの中を歩き、光を持たない者は、主の御名に信頼し、自分の神に抛り頼め。

イザヤ書50章10節(新改訳)

人生で私たちが直面する問題は、しっかりした方法で対応すれば早く解決するかもしれません。そして、今まで以上に神様のことを深く理解するということがわかるはずで、物事が簡単に進んでいる時よりも、困難な状況にいる時の方が、靈的に成長することができる、多くの人が言うのです。

困難な状況にいると感じる時は、よく詩篇の37篇を読みます。その最初の11節まででは、悪事を働く人に対して腹を立ててはいけないと教えています。なぜならそういう人たちは打ちのめされるからです。私たちは神様を信頼し、善い行いをし、神様によって養われるのです。私たちが人生で必要とするものはすべて神様が与えてくれると信じています。私たちが欲しいものすべてというわけではないと思いますが、私たちに必要なものは確かに備えてくださるのです。

詩篇37篇8節では、怒ることをやめ、憤りを捨てるようにと教えています。なぜならそれらは悪の道へとつながっているからです。もし私たちが腹を立てて悪魔の思

赦し - 自分のための決断

い通りになってしまったら、私たち自身が悪事を働いてしまうかもしれません。しかしこのような素晴らしい約束もあります。「一方、神様の前に謙そんになる人は、ありとあらゆる祝福を受け、こちよい平安にひたるのです。」(詩篇37篇11節リビング訳)謙そんな人とは、どんなことが人生で起こってしようと、従順で神様を信頼する人のことです。

使徒パウロは、キリストとその十字架の他には知る必要はないと決心したと書いています。(コリント人への第一の手紙2章2節)パウロはすべてのことについて答えを見つけ出すのに疲れ、ただ単純にキリストを知ろうと決断したのかもしれませんが。

思いと心のすべてをもって神様を信頼し、自分の理解に頼ってはいけません。(箴言3章5節)この箴言には、自分を知恵のある者だと思ってはいけなく、とも書いてあります。(箴言3章7節)私にとってこの箇所は、自分の力で人生を歩めるほど自分を賢いと思ったり、神様の目的や計画の趣旨を理解できると思ったりすることは、一瞬たりともあってはならないという意味をもっています。もし私が神様のことを理解できるのであれば、神様は神様でなくなってしまいます。全ての点において神様は私たちより優れているはずで、そうでなければ神様ではありません。神様には始まりも終わりもありません。神様の始まりを知る由もない私たちにどうしてすべてを理解することができるのでしょうか？

神様が私たちに示してくれることもいくつかあり、多くのことにも答えてくれます。しかしすべてに答えをくれるわけではありません。御言葉によって部分的に理解できていることもあるでしょう。しかし、私たちが知られているのと同様に、私たちが知るときもやってきます。

同様に、今の私たちの神様に対する知識や理解は、そまつな鏡にぼんやり映る姿のようなものです。しかし、やがていつかは、面と向かって、神様の完全な姿を見るのです。いま私が知っていることはみな、おぼろげで、ぼんやりしています。しかしその時には、いま神様が私の心を見通しておられるのと同様、すべてが、はっきりわかるでしょう。

コリント人への第一の手紙13章12節(リビング訳)

なぜ神様は介入しないのか？

神様は、簡単に私たちの困難な状況に介入することができるにも関わらず、そ

第6章 - 誰に怒っているの？

れをしないことがあるので理解に苦しみます。ヤコブが牢屋に入れられたとき、彼は首をはねられました。しかしペテロが牢屋に入れられたとき、彼は天使によって助けられ、祈りをささげていた仲間の元へ戻って行くことができたのです。なぜでしょう？答えはこれです。「なぜこんなことをするのか、今はわからないでしょう。だが、あとでわかるようになります。」

おそらく、この理由を知ったとしても私たちの手には負えないのでしょう。神様の憐れみによって真実は隠されているのかもしれませんが。私にとって何の役にも立たないようなことを神様はしないし、強制もしないということを信じています。このことを信じる決断をしたときに、私は大きな平安を得ました。

この本の前の部分でも、もし平安が欲しければ、それを一生懸命探し求める必要があると言いました。私自身も平安を求めらる中で、平安と喜びは信じることからくるということを発見しました。(ローマ人への手紙15章13節)そしてそれを実行すると私は決めたのです。完璧にはできませんが、神様が助けてくれるので、何か理解できないことがあっても、「神様、混乱しています。何が起きているのか理解できるようにしてください。」と言うのではなく、「神様、あなたを信頼します。」と言うことができるのです。同じような場面に遭遇するとき、私たちは疑うのではなく、信仰の態度をもつ決断をすることができます。その決断をまだしていなければ、聖霊が今そうするようにとあなたを駆り立てるはずです。

いわゆる、「信じる」ということについて話しているわけではありません。あなたの人生のすべての状況の中で、またすべての状況を通して、神様を信じ、「信頼していく」ということについて話しているのです。何かのために神様を信じることは簡単かもしれませんが、何かの中で、また何かを通しての中で私たちが神様を信頼することを、神様は望んでいるのです。

ヨブ

説明のつかない苦しみについての章を書くなら、ヨブのことについて話さないわけにはいきません。ヨブは、聞いたこともないような苦難がどんなにあっても耐え抜く、正しい人でした。彼は長い間、信仰に堅くしがみついていたのですが、ついには神様に答えを要求し始めました。神様のヨブに対する答えは4章にもわたり書かれていて、「ヨブ、お前がそんなに賢いのなら、少しの間でも神になってみたらどうだ。世界を動かす、どのようになるのか見てみたらよい。」とヨブに言ったのです。もちろん最後にヨブは神様の前に謙そんになり、愚かな発言をしていた自分に気が付き

赦し - 自分のための決断

ました。そしてヨブは、ひどい苦しみを耐え抜いた後だからこそ言えるような、素晴らしい事を言い残しました。

神様のことはずっと前から聞いていました(聞いているだけでした)が、今はこの(霊的な)目ではっきり見たのです。

ヨブ記42章5節(リビング訳に一部強調)

ヨブは困難の中で、今までに体験したことのないような方法で神様を知りました。この困難の前までは、神様のことを聞いて、知ってはいましたが、今彼は神様がわかったのです! 癌で亡くなった、ある若い男性の話ですが、彼の困難はとて大変なものでした。その彼がこう言ったのです。「この困難は何にも代えがたい経験だ。この経験の中で神様と深い関係を築くことができたのだから。」神様は、私たちに自分のことを知ってもらうために、意図的に私たちをこのような苦しみに遭わせるのでしょうか? そんなことはありません。ただ、私たちの霊的な益となるために、神様はこのような状況をも使われるのです。

イエス

不正な苦しみについて話すのであれば、イエスのことについては絶対話さないわけにはいきません。恐ろしい十字架での苦しみに自分の息子であるイエスを投げ出し、罪のないイエスが私たち人間の罪を背負い苦しむ他に、神様は人間を救う方法を思いつかなかったのでしょうか? おそらく、良い父親ならだれもが言うように、「自分も体験したことがないようなことを、お前にも強制したりはしない。」と言うでしょう。前にも言ったように、私には、このような質問に対する答えはわかりません。しかし、これらの答えがないと神様のことを信じられないのでしょうか? そうではないはずです! 信仰は理解を超え、実際には信仰は理解に取って代わるものです。

この章を書き始める時、人生にある痛みや失望のせいで神様に腹を立てている人たちに神様はどのような答えを与えたいのだろうということを考え、心を探っていました。数分間考えている中で、私が答えを与えることを神様は望んでいないと気付きました。なぜなら、私たちに答えはわからないからです。神様のことを説明しようとしている本はたくさんありますし、中には良い本もたくさんありますが、私はそういう本は書きません。私がシンプルに伝えたいのは、あなたには怒らない決

第6章 - 誰に怒っているの？

断をするという選択肢があり、その決断はあなた自身にとって良い決断だということです。なぜなら神様に腹を立てることはとてつもなく愚かな事だからです。神様だけが私たちを助けることのできる方なのに、その助けをどうしてわざわざ遠ざげようとするのですか？

もしあなたに深く傷ついた経験があるとしたら、「ジョイス、言いたいことはわかるけど、そんなの無理だよ!」と叫んでいるかもしれません。気持ちはよくわかります。しかし、あなたが惨めな自分に疲れ果て、ヨブのように、「神が私を殺しても、私は神を待ち望む。」(ヨブ記13章15節)と言えるよう祈ることしか私にはできません。

神様に対して怒りを抱えている？

ジェニンという友達が、長い間神様に怒っていたということを教えてくれました。子どものころからクリスチャンで、将来は素敵なクリスチャン男性に出会い、恋に落ち、結婚し、家庭を築く、そんな日をいつも夢見ていました。大学を卒業後、彼女は教師としてのキャリアを積むためにニューヨークに引っ越しました。ジェニンはそこで良い教会も見つけ、すぐにメンバーとして馴染んでいき、仲間の人生にも関わるようになっていきました。良い友達もでき、大きな独身グループの仲間に入っていました。数年後、教会の友達の多くは結婚をし、それぞれ家庭を築き始めていました。

20代だったジェニンも30代へ突入し、その間もずっと神様に素敵な旦那さんを与えてくれるよう、そして自分の家庭を築いていけるよう祈り続けていました。神様は彼女の仕事を祝福し、まもなく彼女は教えていた高校で教頭となりました。まるで神様は、彼女が一番求めている分野以外を祝福してくれているようでした。彼女の友達は子どもを授かり、ニューヨークから子育てに向いている町へと引っ越していきました。

ジェニンは一生懸命働き、教会でも仕え続けていました。しかし、なぜ神様は、たった一つの、結婚と家庭という彼女の願いに答えてくれないのか、彼女には理解できませんでした。次第に彼女は神様に怒り始めたのです。「なんで神様は何もしてくれないの？」ジェニンが求めていたものは良いもので、自然な願いでした。創世記で神様も人がひとりであるのは良くないと言ったのです。彼女は平安を求め始め、もし神様が結婚を求めている彼女の祈りに答えないのであれば、神様がすでに祝福してくれているもので満足できるように助けてくれるよう祈り始めたのです。

赦し - 自分のための決断

しかし年月は過ぎていき、ジェニンはいまだ独身でした。人生で多くの楽しみもありましたが、一人でいることの寂しさはますます彼女の悩みの種となっていきました。人を愛するという素晴らしい、自然な欲望を神様はなぜ叶えてくれないのでしょうか？こんなにシンプルな祈りに神様が答えてくれない理由が彼女には理解できませんでした。彼女が祈り求めた平安も与えられずにいたのです。なぜ神様は何もしてくれなかったのでしょうか？

ある日ジェニンは啓示を受けました。彼女は祈りながら、感情的にも何か決心が与えられるよう神様に求めました。すると、彼女はゲッセマネの庭にいるイエスの幻を見ました。イエスは、十字架につけられるのを目前に、その死の杯を取ってくれるよう神様に祈っていました。そして祈りの最後に、「私の願ではなく、あなたの願いが起きますように」と言ったのです。神様はその日、イエスの祈りを叶えませんでした。イエスには、人間を救うために十字架の拷問を耐える必要があったのです。

ジェニンはその時、一人息子であるイエスの願いでさえ神様はノーといい、イエスがそのノーという答えを受け入れることができたのであれば、ジェニンもノーという答えを受け入れることができるのだと気付いたのです。状況は何も変わりませんでした。ジェニンの中ですべてが変えられました。長い期間をかけて初めて、ジェニンはすべての答えをすぐに知る必要はないのだと気付きました。神様はどんなときも神様で、彼女が一生独身で過ごし、たとえその理由がわからなかったとしても、それでよいのだと気付いたのです。

数年後、ジェニンが43歳のとき、彼女は素晴らしいクリスチャン男性と出会い、2年後その彼と結婚しました。ジェニンは、もし同じ経験をもう一度するならば、神様に抗議したり、感情を無駄に費やしたりはしないともしました。なぜなら、神様は無言を決めたかのように思えたからです。それよりも、神様から来る祝福を満喫し、神様の決定を受け入れるために最善の努力をするだろうと言いました。

時々、神様は良い願いに対しても、「違う。」と言うときがあります。「まだだ。」と言うこともあるでしょう。自分の人生に起こっていることに対する「なぜ？」を理解できない間も、私たちは、神様から与えられた時間を最大限に使って楽しむことができます。また混乱の中で、もがきながら惨めに過ごすこともできます。どちらが時間を有効に使っているのでしょうか？私は生産的に時間を使いたいです。 - たとえすべてが理解できなかったとしても。

祈り苦しむ子ども

第6章 - 誰に怒っているの？

性的にも、精神的にも、感情的にも、そして言葉によっても父親から虐待を受けた子どもとして、神様にいつもこの状況から救い出してくれるよう祈っていましたが、それは叶えられませんでした。母親が父親と別れ、自分を守ってくれるよう祈りましたが、母親は父と別れませんでした。知恵のない幼さの中で、父親が死ぬようにとも祈りましたが、彼は生き続け、虐待を続けていました。

「なぜ？」何年もの間、この疑問は私の中で大きくそびえ立っていました。助けを叫び求めた少女の祈りに、なぜ神様は答えてくれなかったのでしょうか？成長し、ミニストリーに関わり始めてからも、私の中に「なぜ？」がありました。「なぜ？」と疑問を持っていない人がいるのでしょうか？悪人の歩みの中で、罪のない良い人が苦しい目にあっているという事実を神様は私に見せてくれました。私の父は、保護者としての権威を持ち、それを悪い事のために使い、私の人生に大きな影響を与えました。そのような状況の中でさえ、神様がその状況に終止符を打つことができたはずだと言うことは分かっていました。しかし神様は別の計画を選ばれたのです。神様は私にあの状況を体験し、また乗り越えるための勇気と力を与えてくれました。神様は私に、自分の通ってきた痛みを使って他の人を助けるよう語り、実際にそれを行動した時、同じような経験をした多くの人々にとって、また私自身にとって、良い結果につながりました。「虐待さえ受けていなければ、私の人生はより良いものだったに違いない」と何年も言うてきました。でも今は違います。あの経験のおかげで、私の人生はより力強く、より実りの多い人生になりました。ごく普通の人々が、最悪の悲劇を乗り越えて、良い態度を持つことができるようになり、さらにその経験を活かして彼ら自身が他の人を助けることができるように、神様が彼らを助けること、これこそが神様が素晴らしい力を示す方法の一つです。自分もそのような人の一人なのだと言えることに感謝しています。「自分の願っていた答えではなく、神様の最高の答えを私に与えてくれて、感謝します。」と言う他ありません。

神様への怒りについて書いてきましたが、それが読者のみなさんの役に立つものであるようにと祈っています。まだ答えの見つからない疑問に対する答えを提供しようとは思っていませんが、正直に私の心を話しました。あなたや、あなたの知り合いに、どんなことが起こってしようと神様を信頼してください。この世の中でどんなことが起こってしようと、神様は良い神様で、あなたのことを愛しています！「神様、なんで？」という疑問に悩まされているのならば、神様にすべてをゆだねて、「何が起ころうと、神様、あなたを信頼します！」と告白する決断ができるよう、心から励ましたいです。

第7章

助けて：腹が立つ

もしあなたが怒りっぽい人でこの本を読んでいるのなら、あなたが助けを必要としている分野について学ぼうとしているあなたの姿勢を褒めたいと思います。あなたは不安定な、罪深い怒りを克服できると、克服していくのだと、私は確信しています。罪深い怒りもあれば、そうでない怒りもあります。その両方について見ていき、明確な理解を得ていきましょう。

罪ではない怒り

神様は私たちに怒りという感情を与え、自分や周りの人たちが受ける不正な扱いに気付くようにしました。このタイプの怒りは「正しい怒り」として見なされ、間違ったことに対して、正しく対応するための動機を私たちに与えることを目的としています。

娘の一人が7歳くらいの頃、新しく通い始めた学校で新しい友達を作るのに苦戦していました。私たちは学校から近い場所に住んでいました。ある日、用事を済ませるために外出し、たまたま私が学校のそばを車で通りかかった時のことです。娘が校庭に一人で座っているのが目に入りました。他の子どもたちは楽しそうに遊んでいるのに、娘はとても寂しそうに座っていたのです。いじめに遭っているのだと思うと、とても腹が立ちました。その時に感じた怒りは罪ではありません。娘のために祈り、彼女に友達を与えてくれるようにと神様に願うことで、私はその怒りに対応しました。もし私がそこで、学校に乗り込んでいき、他の子どもたちに怒鳴り散らすことで怒りに対応していたら、その怒りは間違ったものになります。

怒りを覚える時、それは罪を犯しているという意味ではないということを理解することがとても重要だと思います。怒りの感情を掻き立てるものはたくさん存在しますが、その感情をどう扱うかが最も重要な事なのです。

「正しい怒り」というものは存在し、詩篇78篇では、偶像を礼拝する人々に対する神様の正しい怒りを見ることができます。全てを創られた生きた神様を礼拝でき

赦し - 自分のための決断

るにも関わらず、石でできた像を礼拝するなんて馬鹿げています。このような不義を行う人々が悔い改め、神様のもとへ戻ってくるという希望を持って、神様は公正に彼らを懲らしめました。この懲らしめには、人々を助けたいという意図があり、傷つけようという意図はありません。正しい怒りは、助けるという意図に基づいた行動をとります。

危険な行動を子どもがするときに、親が抱いてしまう怒りもこれと同じタイプの怒りです。子どもたちを助けるために、怒りを表現し、しつけをします。

カンボジアを訪れた時、ごみの山に住み、食べ物や、お金になりそうなガラスやプラスチックをごみの中からあさっている子どもたちを見て、心に深い悲しみを感じ、このような不当な現実に対し正しい怒りを感じました。怒ったままでいたのではなく、この不当な現実のために何か行動を起こそうと決心しました。私たちのミニストリーを通してバスを購入し、そのバスに教室とレストランを備え、毎日子どもたちに食事と教育を提供しました。そのバスにシャワーも備え付け、必要な子どもたちには、シャワーに入ってもらい、新しい服をあげたりもしました。これは感じた怒りに対してよい対応をした例です。御言葉は、悪に打ち勝つ唯一の方法は善を持つことだと教えています。(ローマ人への手紙12章21節)

このタイプの怒りは罪ではありません。実はいいもので、私たちを行動へと駆り立てるものです。

多くの人たちが不公平な世の中に怒りを覚えています。怒りにとどまったままでは、その怒りは増していくばかりです。ネガティブな発言や態度によって、他の人を同じ怒りに巻き込もうとします。何かを正しくしようというポジティブな行動をとろうとはしません。まるで希望を失っているかのようにふるまい、何をしても何のいい事も起こらないと決めつけ、何の努力もしないのです。このタイプの怒りは、簡単に罪へとつながっていきます。

ある13歳の女の子が飲酒運転の事故に巻き込まれ、命を落としたにも関わらず、容疑者にはとても軽い刑が言い渡されました。その子の母親はとても怒りましたが、その怒りをポジティブなものへ向けようと彼女は決心し、M A D D (飲酒運転に抗議する人々の会)という団体を立ち上げました。この団体は、飲酒運転に対してもっと厳しい処罰を検討していくための、立法改革に貢献をしました。それは今もなお続いています。彼女は怒りと苦みの中で人生を過ごすこともできたでしょう。しかし、彼女は善をもって悪に打ち勝つことを選んだのです。

私は、父親から受けた虐待のために父親に怒りを抱いていました。私は父を憎み、何年もの間、怒りで煮えくり返っていました。しかし、自分に起こった悪い事を乗

第7章 - 助けて:腹が立つ

り越えていく唯一の方法は、他の人を助けるために良い事をする事なのだ、やっと気付いたのです。これが、神様の言葉を教え、傷ついた人々を助けるために35年の時間を費やしてきた理由の一つです。

ウィリアム・ウィルバーフォースという男性は、イギリスにある奴隷制度に対し怒りを抱き、人生の大半をかけてそのために奮闘し、奴隷制度を違法とするよう働きかけました。歴史上には、不公平な現状に怒りを抱き、ポジティブな変化を生み出そうと奮闘した人々であふれています。悲しい事に、もう一方では、怒りを抱き、憤慨し、苦みと憎しみであふれていた人々も歴史上にたくさんいます。彼らはたいいてい、多くの人々に危害を生むような行動をとってしまっています。

いつの時代にも不公平なことは起こっており、私たちの生きているこの時代も同じです。しかし、憎しみに変わってしまうような怒りは、何の答えにもなりません。憎しみはとて強い感情です。少しだけ憎むことなどできません。それはとて激しい感情です。憎んでいる相手に苦しんでほしいと思ってしまうのです。憎しみは怒りとして始まります。そして生きるためのエネルギーをすべて奪っていきます。悪化していく病のように、あなたを蝕み、憎しみがあなたの思いと会話を覆ってしまいます。苦みを持ち、憎しみにあふれ、ひねくれた、意地の悪い人のようにあなたを変えてしまいます。神様があなたを用いることができない状態にしてしまうのです。

もしあなたが、過去に不当な扱いを受け、傷ついているのなら、恨むことによつてこの悪循環を続けたりしないでください。

怒りに対する唯一の答えは赦しです。たいいていの場合、赦しに向き合うということは過程です。神様に従うという決断だけではなく、自分のために良い選択をし、赦すという決断をするということから始まります。しかし、記憶や感情からの癒しには時間が必要でしょう。赦しの重要さと、どうやって赦しに向き合っていくのか、ということについて本の後半で話していきます。

あなたの怒りは正当なものですか、それとも歪んでいますか？

怒りを正しく対処できるようになる前に、私たちが抱いてしまう怒りは正当なものなのか、それともそうでないのかを自分に問いたすために、正直になる必要があります。自分を怒らせる他人の行動などは、その人が何か間違ったことをしているのではなく、自分の中にある間違った何かが原因である可能性もあるのです。私たちが腹を立てたからと言って、その怒りが正当なものとは限りません。実際に、すぐ怒ってしまう多くの人々が、癒されていない彼らの魂にある傷のせいで怒ってし

赦し - 自分のための決断

まうのです。怒ってしまう人たちは、私たちが来る日も来る日も怒ることなく対処しているようなことに対してよく怒ってしまいます。

かつて、デイヴがすることで、私がとても腹を立ててしまうことがありましたが、今は同じことをされても何の気にもなりません。彼はまだそれをやってしまうときがあります、私が変わったのです。私の怒りは、私の不安定さが原因でした。

人は不安を感じていると、自分の考えや、感情、自分の言っていることに周囲からの同意が得られない場合、怒りをもって反応しようとします。意見の相違などをすべて拒絶として受け止めてしまいます。問題は、怒っている相手にではなく、自分自身にあります。不安定な人たちは、自分自身を認めるために、ポジティブな意見をたくさん必要とします。それが得られないと、たいていの場合怒ってしまうのです。

欲しいものを、欲しい時に、願った方法で手に入れられないと、私たちは怒ってしまうときがあります。今からするお話に、私はとても心を揺り動かされました。これは、短気で、怒りっぽい性格のせいで大きな犠牲を払わなければいけなかった男性のお話です。 - ただ怒りっぽかっただけで… -

父親からの贈り物 - 作者不明

ある青年は、大学卒業を間近に控えていました。ディーラーのショールームに展示されている美しいスポーツカーをみて、何か月もその車に惚れ込んでいました。父親にはその車を買うだけのお金は十分にあると知っていたので、大学卒業の褒美にその車が欲しいことを伝えていたのです。その日が近づくにつれ、青年はいつ父親があつた車を買ったと言ってくれるのか、待ち構えていました。

ついに、卒業の朝、父親が青年を書斎に呼びました。父親は、素晴らしい青年を息子に持っていることをどんなに誇りに思っているか、息子のことをどんなに愛しているのかを彼に伝えました。父親は、きれいに包装された箱を息子に手渡しました。

中身を気にしながら、少々がっかりし、箱を開けてみると、そこには青年の名前が金色に印字された、素敵な革張りの聖書が入っていたのです。彼は怒り、声を荒げて父親にこう言いました。「あんなにお金を持っているのに、くれるのは聖書なの!」彼は聖書を置いたまま、家を飛び出していきました。

何年もの月日が経ち、青年は、ビジネスで大きな成功を治めていました。素敵な家と最高の家族を持っていましたが、気付けば、父親もとても年を取っているので、そろそろ会いに行くべきだろうと感じていました。あの卒業の日以来、父親に会っていませんでした。

第7章 - 助けて:腹が立つ

父親に会いに行く計画を立てようと考えていたある日に、父親が亡くなったという連絡を受け、財産をすべて息子に継ぐ遺言を残していることも知らされました。すぐに家に帰り、身支度をしました。実家に到着した時、突然、悲しみと後悔で彼の心はいっぱいになりました。彼は父親の書類などを探し始め、そして、彼が何年も前に置いていった、まだ使われていない新しい聖書を見つけました。彼は涙を流しながら聖書を開き、ページをめくり始めました。父親は、マタイによる福音書7章11節の箇所丁寧に線を引いていたのです。

「罪深いあなたがたでさえ、自分の子どもには良い物をやりたいと思うのです。だったらなおのこと、あなたがたの天の父が、求める者に良い物を下さらないことがあるでしょうか。」

彼がこの箇所を読んでいた時、聖書の後ろから車の鍵が落ちてきました。その鍵にはディーラーの名前のタグがついていました。彼が欲しがっていたスポーツカーを取り扱っていたあのディーラーです。そのタグには彼の卒業した日付と、「支払済み」の文字が書かれていたのです。

この話を聞いて、とても悲しくなりました。私たちの多くがこのように人生を過ごしてしまっているということを表す、強烈な例です。神様からの贈り物を感謝の気持ちを持って受け取ることを拒み、まるで自分が願ったものは与えられないかのように思い込み、怒って神様との関係を断ってしまうのです。そんなことはしないでください!あなたが想像もつかないくらい、あなたの父である神様はあなたを愛しているということを忘れないでください。あなたが願ったものとは違う見た目かもしれませんが、神様はあなたに良いものしか与えないのです。

怒りから生まれる問題に直面した時、その問題を認めるということがまず必要不可欠です。自分の問題として受け止め、問題に関係がない人たちを激しく非難することはやめましょう。このタイプの問題によって多くの人間関係が崩壊しています。私は長い間、私の父親がしたことに対してデイヴに報いてもらおうと必死でした。私を決して傷つけることがないようにと、デイヴを信用せずに、コントロールしようとしていたのです。一人の男性に傷つけられたせいで、全ての男性に対して実際にひどい態度をとってしまっていました。取り戻すべき借りがあると感じ、私の人生に関わる人たちからそれを収集しようとしていました。神様に感謝すべきことに、最終的に私は自分がしていることに気づき、私の人生に起こったことに対する不正を神様に取り戻してもらおうようお願いしたのです。そして神様は取り戻してくれました。

赦し - 自分のための決断

もしあなたが怒りを抱えているなら、この質問をさせてください。そのあなたの怒りはあなたに、またその他の人々に何か良いことをしてくれますか？それは問題を解決してくれますか？あなたの怒りが相手を変えてくれますか？あなたの怒りは、喜びと平安を増やしてくれますか？

あなたは自分のことをまあまあ賢い人間だと思っていますか？もしそうなら、なぜそんな時間の無駄になるようなことを続けているのですか？なぜ自分のために良い事を選択し、手放さないのですか？すべての状況を祈りの中で神様に委ねてください。心配事を神様に明け渡し、神様があなたの面倒を見てくれるよう、神様にその機会を与えてください。あなたの人生に起こった不当な出来事を神様に対処してもらおうのです。イザヤ書61章には、神様が私たちの困難の2倍の報酬を与えてくれると約束していると書かれています。こういう報酬は最高ですね。そう思いませんか？

「ジョイス、怒らないでいることなんて私にはできないわ。」とあなたは思っているかもしれません。よくわかります。しかし、あなたに始められることは、神様に従い、怒りの対象である人たちのために祈ることです。それはきっと役に立ちます。次にやるべきことは、怒りについての御言葉を真剣に学び始めることです。御言葉には力があり、あなたが正しい事を行えるようにし、魂に癒しをもたらしてくれます。これは傷ついた魂への神様からの薬です。御言葉を信頼してください。期待と信仰を持って取り組んでください。頭が痛い時には痛み止めを手に取り、その薬が痛みを取り除いてくれると期待して飲むでしょう。それと同じように御言葉に取り組み、傷ついた感情への薬としてそれを受け入れてください。

最も重要なことは、あなたが怒りの人生を歩まない決断することです。そう固く決断するなら、あなたの問題は何かかなります。神様があなたにとって最適な道へとあなたを導いてくれるのです。私たちはいつも問題解決の方程式を求めますが、真実は、私たちが神様を信頼し、個人的に神様に導いてもらうべきだということです。聖書は、私たちが怒りを避けられるように助けてくれる知恵であふれています。怒りを素早く見抜き、怒りに素早く対処することは最高の計画です。怒りがあなたの心に根を張って、対処できないような問題にならないようにしてください。

あなたがすぐに怒ってしまうような人で、それを認め、助けを受ける覚悟ができているならば、期待してよいのです。もうあなたは怒りに長い間とどまることはなくなるでしょう。あなたは、豊かな平安と喜びの新たなレベルへの道を歩み始めたのです。神様が願われる方法で人々を愛することができるようになり、それはあなたの人生に大きな力をもたらすのです。

第7章 - 助けて:腹が立つ

柔らかな答えは憤りを静める。しかし激しいことばは怒りを引き起こす。
箴言15章1節(新改訳)

怒っても、罪を犯してはいけません。日が暮れるまであなたの怒り(あなたの激怒、憤慨または憤り)をそのままにしておいてはいけません。悪魔に(そのような)隙や足場を残さないようにしなさい。(機会を与えないようにしなさい)

エペソ人への手紙4章26-27節(A M P 訳の直訳)

(これを)理解してください。愛する皆さん。だれでも聞くには早く(聞く姿勢でいる)、語るには遅く、腹を立てて怒るには遅いようにしなさい。人の怒りは神様(が願われ、そして要求される)義を実現させません。

ヤコブの手紙1章19-20節(A M P 訳からの直訳)

第8章

助けて:怒る人との人間関係

自分の怒りをコントロールする方法を私たちは学ぶことができますが、他人の怒りをコントロールすることはできません。私たちの普段の生活にいる怒りっぽい人たちから自分自身を守るため、またその人たちを助けるために、どういう対応をするべきなのか学ばなければなりません。

初めに、暴力に転じてしまう怒りについて話していきましょう。怒りを持っている人たちによって虐待されるために神様が私たちを召したとは私は信じません。私の母親は、私に対する父親の虐待を容認していました。そしていつの間にか、母親は弟や私を守ることもしなくなったのです。父親は、言葉によって母親を虐待し、彼の言葉はいつも脅迫的でした。汚い罵りの言葉は私たちの家の中で日常的に響いていました。母親を「ぶん殴るぞ。」と脅し、時には彼女の顔をひっぱたき、彼女を殴るのです。父親は頻繁に浮気をし、母親はただじっと耐え続けていました。彼女は、結婚に対して忠実でいるのだと感じていたでしょうが、父親の行動を容認し続け、いろんな意味で自分自身のことを大事にしていなかったのだと思います。彼女は恐れていたのだと私は分かっていますが、私や弟、そして彼女自身のためにも、父親に立ち向かってきていたら、もしくは父親と別れてきていたらと心から思ってしまう。

母親の年代の女性はめったに離婚をせず、どのような扱いを受けようがそれに耐えてきたのです。私たちの世代では、人々は何度も離婚を繰り返し、困難を乗り越えるための努力もしません。これら2つは両極端で、どちらも間違っています。

虐待を受けた女性に関するデータには圧倒させられます。統計局によると、アメリカでは毎年約530万人もの18歳以上の女性が、肉体的に、性的に、もしくは言葉において、虐待を受けているとの結果があります。家庭内暴力が原因で、この国では毎日4人の女性が命を落としています。先にも言いましたが、誰も虐待を容認するべきではありません。私たちが恐れに生きることは、神様が望んでいることではありません。たいていの場合、暴力的な人々は脅し、恐怖という戦略でコントロールしようします。彼らは弱者を相手に威張り散らす臆病者で、そのような人は、自分

赦し - 自分のための決断

自身のためにその問題に向き合う必要があります。

子どもの頃育った家の雰囲気は、恐れで充満していたのを覚えています。たたかれないよう家の外で、父親が酔いつぶれるまで、寒さの中を母親と一緒に待っていたことも覚えています。叫び声、怒鳴り声、罵声、脅迫、いきみ、小競り合い、たたき合い、締め付け合い、そして殴り合いを覚えています。殴られる恐怖におびえる私の顔に向けられた、父親の怒りのこぶしも覚えています。私は恐怖の中に生きていて、その恐怖が私の魂に根を張りました。そこから自由になるために、何年もかけて神様と一緒に取り組みました。

あなたがこの本を読んでいて、自分は虐待的状况に置かれていると思うならば、あなたに懇願します。あなたのため、またあなたの子どもたちのために、助けを求めてください。何をすればよいのか分からないならば、カウンセリングを受けてください。虐待を受けている女性のための電話相談に連絡するなり、保護施設に逃げるなりしてください。単に生きて、その怒る人がまたあなたに怒りをぶつけてくるのを何もしないで待ってはいけません。人を虐待してしまう人も助けが必要です。彼らは、怒りやイライラを正しく処理する方法を知らない病んだ人たちなのです。彼ら自身も傷ついていることが多く、その傷の反動で行動しているのです。もちろん、彼らのために祈る必要はあります。しかし、祈るのならば、私たちは神様が言うことは何でも実行する準備もできていなければいけません。

私にも、父親が私を虐待していた事実について、父親と向き合わなければいけない時がありました。その時私は45歳くらいで、父親にされたことで未だに苦しんでいました。私の中にある恐れのカイクルを打ち破る唯一の方法は、問題について父親と向き合うことだと神様に示されたのです。それは、再度父親の怒りをこの身に受けることだとわかっていたので、実行するにはとても難しい事でした。実際に父親の怒りを買ってしまったのですが、私は神様から言われたことを成し遂げ、それは私が自由になることを助けてくれました。相手がどういう反応を示そうが、いつも私たちは、神様が導いてくれることを実行していかなければいけません。

この本を読んでいる多くの方は、私が話しているような、怒っている人と関わってはいないでしょうが、怒っている人と遭遇することはあるはずです。ある人は怒る人と関わっているかもしれません。

何年もの間、一人の怒る男性が私の人生に影響を及ぼしていたので、私自身が怒りを抱いていて、言葉や態度でその怒りを発散していました。自分の人生に望んだことが実際に起こらないと、たびたび私の怒りは表に現れました。私は間違っていました。そしてこの本でもすでに話したように、私には神様が望む方法で問題に

第8章 - 助けて: 怒る人との人間関係

向き合う必要があったのです。デイヴがしてくれた最高の事の一つは、私が怒っていても、彼は自分自身の人生を不幸にはさせなかったということです。怒る人のためにできる最も良い事の一つは、より良い人生と生き方があるという模範を示すことです。

模範になろう

安定した環境の中で人生を過ごしたことが一度もなかったため、それがどのようなものかわかりませんでした。私にとってデイヴは安定の模範で、とても重要でした。もし彼が私に怒るのをやめるように言い、私の怒りに自分の怒りで反応していたとしたら、私は決して変わることはなかつたろうと思います。「悪に悪で対処しても義にはならない」と言われる通りです。御言葉には、怒りで怒りを、悪で悪を、または侮辱で侮辱を対処するべきではないとあります。

悪に悪で、または侮辱に侮辱(小言、厳しい叱責、非難)で仕返しをしては決していけません。それどころか、祝福しなさい。(彼らの繁栄、幸福、そして安全のために祈り、心から哀れみ、そして愛しなさい)そうすることで、あなたは(神様からの)祝福を受け継ぐのです。(あなたは後継ぎとして祝福を受け、繁栄と幸福と安全とをもたらすようになる)

ペテロの第一の手紙3章9節(A M P 訳からの直訳)

これを読むのは簡単ですが、実践するのはとても難しいとよくわかっています。しかし、神様がそうするようにと言うなら、私たちが神様に忠実になる時に、それを実行する力を与えてくれます。あなたが抱えているどんな問題に対する解決も、神様がすべて持っています。そして、私たちが神様の方法に力を合わせるときに、必ずうまくいきます。

デイヴが見せてくれた模範が、私に変わりたいという願いを起こさせてくれたのだと心から信じています。彼は私に断固とした態度を持っていましたが、わたしのせいで彼の喜びが奪われることは決してありませんでした。もし私が不機嫌になりたければそれは私の自由だ、と彼は私に教えてくれました。私がいかなる気分であろうと、彼は喜んでいることを選んでいたので。彼はいつも矛盾がなく一貫していて、ついに、私は人生で多くのことを逃していること、そして変わる必要があることに気が付きました。その人自身が変わりたいと思うまで、誰もその人を変えることは

赦し - 自分のための決断

できません。だから、たとえあなたが誰かを変えようとしても、それはあなたをイライラさせるだけです。内側から人を変えることができるのは神様だけです。私たちが変わりたいと願う時に神様は私たちを変えてくれます。怒りを持っている人々が神様に変えられることを願うように祈り、私たちが彼らの模範となりましょう！

不幸な人のせいであなたも不幸になっていませんか？

私はカンファレンスなどで話す機会がある時、周りの人の態度によって自分の喜びのレベルが決められるべきではないと言うことが多いのですが、聞いている人々の反応は素晴らしいものです。きっと彼らも知らぬ間に、周りの人の態度を自分たちの喜びのレベルに影響させてしまっていたのだろう、ということを経験したことがあります。自分たちにも選択する権利があると気付くまでは、実際に、私たちは人々のネガティブな感情によってコントロールされやすいのです。

* * *

マリーはオリエント急行に乗ってベネチアからパリまでを旅する、最高な列車の旅をする機会に恵まれました。彼女は姉であるジーンの50歳の誕生日を祝おうと、旅費を出し、彼女をその列車の旅に招待しようと思いました。ジーンはその招待を受け、生涯の記憶に残る旅へと出発しました。ベネチアで数日過ごした後、ジーンは夫や子どもを恋しがり、機嫌が悪くなり始めました。パリ行きへの列車に搭乗したころには、ジーンは怒りを抱きはじめたのです。彼女は家に帰りたくてしようがありませんでした！

言葉も通じず、コーヒー1杯買うのにもなかなか理解してもらえず苦戦する国で、彼女は不安になっていました。

間もなく彼女の怒りはマリーに向けられました。貧乏な自分をこんな贅沢な旅に連れてきて、自慢しているのだと彼女は思い始めました。日が経つにつれ、彼女はマリーにどんどん腹を立て、彼女の態度は明らかにひどいものになっていったのです。

マリーはジーンが自分に腹を立てていることにすぐ気が付きました。旅に慣れていて、新しい環境にも平気な自分が気に食わないのだと思いました。原因が何であれ、マリーは2通りの結果があると心に決めました。ジーンが怒るか、それともジ

第8章 - 助けて:怒る人との人間関係

ーンもマリーも両方怒るか!マリーは、何があっても、ジーンにやさしく接すると決心しました。旅の途中、何度も言いたいことを我慢し、ジーンがどうであろうと、自分はこの一生に一度の旅行を楽しもうと決めたのです。

マリーがジーンのイライラには反応しないと選択したので、ジーンはとても苛立っていました。マリーは旅を振り返り、ジーンの苛立ちをよそに、自分は旅のすべてを満喫することができたことに感謝していました。ジーンがもう少しでも旅を楽しんでくれていたらとも願いますが、最低1人はその旅を楽しんだのだと彼女はわかっています。

* * *

もし私たちが周りの人に自分の喜びのレベルを決めさせてしまうなら、悲しい人生を経験することになるでしょう。中には、幸せになることをあきらめている人もいて、彼らの思いを変えるために私たちにできることは何もないのです。最近このような言葉を聞きました。「自分の子どもが幸せじゃなかったら、同じくらい母親も幸せじゃない。」これは多くの場合に当てはまりますが、そうでなければならないということでもありません。周りの人に合わせて自分も機嫌を悪くしては、その人たちの助けにはならないことに気付かなければいけません。周りの人たちがどのような状況にいたとしても、自分のために良い選択をし、自分は喜ぶことを選べます。主から来る喜びは私たちの力です。その喜びによって、人生において耐えなければいけない状況を乗り越えることを助けてもらいましょう。悲しみは私たちを弱くしますが、喜びは私たちを力づけるのです。

自分の周りにいる人たちが怒っていたり、不機嫌なときに、私たちは本当に喜ぶことができるのでしょうか?もちろんです。私たちがそう決心するならばできるのです。怒っている人に対して私たちが取れる最高の行動はこの決心であると信じています。そのことを、もう一度強調しておきます。彼らがいる前で、落ち着いた喜びを保つのです。彼らを愛し、彼らの幸せを願っていたとしても、彼らの決断によって自分の人生の質を決めさせはしないと言うことを断言してください。他の誰かの行動と共依存しないようにしてください。

私はどのようにその共依存が機能してしまうか分かっています。なぜなら父親の怒りが家族をコントロールしていた事だけではなく、自分の人生で他にもこのような状況を経験していたからです。私にはかつて、たびたび怒り、喜んでもらうのに苦勞をした上司がいました。彼の機嫌が良ければ私も機嫌が良く、彼の機嫌が悪

赦し - 自分のための決断

いと、私も機嫌を悪くしていました。このパターンは私の幼少期に形成されており、怒る人には自然に恐怖を感じ、おびえながら怒っている人に反応していました。神様に感謝するのは、私がそれらから解放されたということです。これと同じ分野で苦しんでいる人にも、神様は同じように解放を与えてくれます。

またかつて、すぐ怒ってしまう友人が近所に住んでいたこともあります。彼女の思っているように私が行動しないとすぐに怒り、私は、父親やかつての上司に対するのと同じような反応をしていました。悪魔に支配権を渡してしまうと、悪魔は、私たちの人生に怒った人たちがちゃんと割り振られているか常に気を配っています。だから私たちは、怒っている人に対してどのような反応をするのか、前もって決めておかなければいけません。

怒っている人に遭遇した時は、自然とその人を助けようとするべきです。しかし、もしその人が助けを拒んだのであれば、私たちの時間とエネルギーをそこに消費する論理的な理由はありません。彼らの和を乱す勝手な行動に巻き込まれることは決して賢い事ではありません。変わることを望んでいない人たちを変えようと、あなたの人生を無駄に使うことをせず、できることをしましょう。

怒っている人たちとの関わりを断つことが最良の選択である時もあるでしょう。もちろん、それがあなたの家族であれば難しい事ですが、怒りっぽい友達と関わり続ける必要はないはずです。

事実、聖書でも怒りっぽい人たちと関わらないようにと教えています。

すぐに腹を立てる人と友達になってはいけません。また、激怒する人と関わってはいけません。

箴言22章24節 (AMP訳からの直訳)

自分を責めないで

あなたが何をしても、怒る人があなたに被せようとする罪悪感や非難を受け入れないでください。和を乱す勝手な行動をするような人々にはほぼいつも、自分の良くない態度を何かのせいにしたり、誰かのせいにしたりしようとする大きな問題があります。何かを非難することで、彼らは自分自身が変わるという責任から逃れているのです。そのような非難を受け入れないでください！全ての人が自分の行動に責任を持つべきです。そして、たとえあなたが間違いを犯したとしても、それに対して嫌な態度をとってもよいという権利を周りに与えることにはなりません。

第8章 - 助けて: 怒る人との人間関係

もしあなたが何か間違っただけをしてしまったら、謝るのです。罪悪感にうずくまって何日も無駄にするようなことはしないでください。

悪魔はどんな手段を使ってでも、私たちに罪悪感や非難を抱かせようとします。悪魔はそれが私たちを弱くし、押しつぶしてしまうことを知っているのです。イエスは私たちの罪を赦し、罪悪感を取り除くために来てくれました。イエスは私たちを強くし、立て上げてくれます。あなたは罪悪感のせいで、悪魔に喜びや力を奪われてはいませんか？もしそうなら、今日、他の人の問題のために自分を責めることはやめると選択しましょう。他の人との関係の中でなにか間違っただとしても、神様に頼れば、神様は関わる全ての人に癒しを与えてくれます。その癒しへの第1歩は赦すことと過去を手放すことです。

祈って、祈って、祈りまくる

怒る人々を見捨てないでください。彼らが真実を見だし、光の中を歩んでいけるよう、祈って、祈り続けてください。どう考えても、彼らは束縛されていて、傷ついていて、または彼らの過去に起きた悪い出来事が彼らに怒りをもたらしているのです。彼らの怒りのはげ口になるつもりはないが、彼らの助けにはなりたくないということを伝えるのです。

祈りの力には驚かされてばかりです。人生を長く生きれば生きるほど、全ての状況において最初にできる守備として、さらに祈りに力を注いでいます。私はこのような愚かな発言をしていたのを思い出します。「思いつくことは全てやり尽したわ。他にできることはもうないから、あとは祈ろう。」祈りは最初にするべきことでした。

スザンナを覚えていますか？彼女は、家族や友人によって、苦しみと孤独という辛い時期を通りました。ここ数年の道のりの中で彼女は、決して私たちを見放したり、見捨てたりすることのない方に頼ることを学びました。問題が起こる以前の彼女と今の彼女では全くの別人であると、スザンナは言うでしょう。彼女を傷つけた人々の為に祈ることを彼女は学びました。最初は気の乗らない祈りでした。元夫、姉、そして娘達に対して怒っていました。自分自身の癒しのために祈り始めた彼女は、彼らの癒しのためにも祈り始めたのです。よくあることですが、彼女が彼らの立場に立ったとき、彼女が耐えてきた傷の一部の原因は彼女自身にあったことに気がきました。彼女は周りにいる人々をコントロールするために富と力を使っていたのです。現在の彼女は、祈りをもって、周りの人を「彼らは彼ら」と受け入れ、自分の思い通りに物事を動かそうとすることをやめようと努力しています。以前よりもシンプルな人

赦し-自分のための決断

生を過ごし、どんな困難の中でも、新しく、より深く神様を頼っているのだ、と彼女は言います。信じられないかも知れませんが、彼女はたとえできたとしても、過去の人生に戻ることはしません。神様は彼女に困難な体験をさせ、彼女は多くの痛みを経験しながらも、それを通してもっと思いやりのある人になりました。彼女にまだ苦しみはあるでしょうか？あります。しかし、スザンナはこう言うでしょう。「お金や人々を頼るよりも、いまは神様を頼っていて、怒りは溶けてなくなったのだ。」

祈りの力によって人々が驚くほど変わっていくのを見てきました。祈りによって人々を操るということではありませんが、祈りによって、人々の人生に神様が熱心に働いてくれる機会が開かれるのです。そして神様は、神様のやり方で、愛に溢れたプレッシャーをその人々にそそぎます。なぜ祈りがすぐに答えられる時と、何年も祈っているのに答えられない時があるのかは説明できませんが、祈り続けることに力を尽くし、結果がまだみえなくても、人生で神様が働いてくれていることを感謝するのです。私たちが祈るときに神様が動いてくれることを信じています！

求め続けなさい。そうすれば与えられるでしょう。探し続けなさい。そうすれば見つかるでしょう。(敬意をもって)たたき続けなさい。そうすれば(扉は)開かれるでしょう。
マタイによる福音書7章7節(AMP訳からの直訳)

正しい人の熱心な(心からの、継続した)祈りは、とてつもなく大きい力を可能にします。(その働きの中でダイナミックに)
ヤコブの手紙5章16b節(AMP訳からの直訳)

神様の権力を超える人は誰もいません。そして人が変わるのに遅すぎることはありません。傷ついている人が、その人自身が変わるためにどうしたらいいのか分からないなら、もしくは神様に助けを求めることを拒むなら、彼らのために祈ってくれる人が必要です。神様と彼らの間に立ち、祈ってくれる誰かが必要なのです。イエスが私たちのためにこの働きを果たしてくれたので、私たちも人々のために同じようにするべきです。決して祈りをやめてはいけません！

第9章

なぜ赦すか？

1979年10月15日。当時16歳だったブルックス・ダグラスはいつもと同じように家族との夕食の席にいました。彼の母親が家族の夕食の支度をしている間、牧師である彼の父親は、その週の日曜日にオクラホマのオカーチにあるパトナム シティバプティスト教会でするための説教の準備をしていました。そのときブルックスの妹のレスリーは食卓に座っていました。彼女は12歳で、美しい美貌を持ち、オクラホマのミス・ティーンに選ばれるほどでした。この若い家族は良い人生を送っていました。

外にいる飼い犬が吠えたので、レスリーが外へ向かうと、この近所である家族を探していると訴える男が立っていました。しかし、ダグラス家には聞き慣れない名前の家族でした。男は電話を貸して欲しいと言われ、ブルックスがその男を家の中に入れました。

数分も経たないうちに、2人目の男が2連式のショットガンを振りかざしながらドアを打ち壊して家の中に乱入してきました。この2人の男は家族全員をリビングルームに集め、レスリーを除いて、全員の両手両足を縛ったのです。彼らはレスリーを隣の部屋へ連れて行き、3時間以上に渡り彼女をレイプしたのです。残された家族はどうすることもできず、ただ彼女の悲痛な叫びを聞いていました。

彼らは終わると、台所へ行き、まだコンロの上に残されていた夕食を食べました。その後2時間以上人質を脅し続け、彼らをどうしてやろうかと話し、そして彼らは1人ずつ撃ったのです。牧師とその妻は、43歳と39歳という若さで亡くなりました。この殺人者たちは現金43ドルと夫婦の結婚指輪を奪って家から出て行きました。

子どもたちは重傷を負い、警察の警護下で、3週間入院していました。しかし、心が癒されるには、それよりも更に長い時間がかかりました。襲撃事件後の何年かの間、ブルックスは下降していく負のスパイラルに落ちてしまいました。彼はオクラホマバプティスト大学へ入学しましたが、その後すぐに退学してしまいました。州から州へと飛び回り、変わった仕事を繰り返しながら、次第とアルコール依存症と鬱に

赦し - 自分のための決断

深く陥ってしまったのです。

その後、ミニストリーののための勉強をするために、ベイラー大学へ入学することになりました。しかし彼は大酒飲みになり、その後すぐ成績の低さと暴力的な行動のために休学させられました。やっとのことで大学を卒業し、不動産の職に就きました。結婚もしましたが、その結婚もうまく行きませんでした。

その後の数年間で、ダグラスは両親を殺した容疑者の処罰を求めたいという願いに突き動かされ、人生を徐々に再び築き始めました。彼は最終的に法学の学位をとり、オクラホマ州議会へ立候補し、議席を勝ち取ったのです。

1995年2月、オクラホマ州刑務所を訪れた時、ダグラスは両親を殺した男の一人であるグレン・アークと対面しました。彼は刑務所長に死刑囚の牢に入れられている囚人と話ができるかどうか頼んでいたのです。ダグラスは一つの疑問をずっと抱いていたのです。

—「なぜあんなことをしたのか？」—

グレン・アークとダグラスは2人だけで1時間以上話しました。アークはとても後悔をしていて、会話している間ずっと泣いていました。その場を立ち去るときにダグラスはアークに言いました。「赦すよ。」この言葉を言った瞬間に彼は、今までに感じたことのないことを体験しました。—「突然自分の足の先から毒が抜け出ていくような感覚を覚えた。今まで感じたことのない感覚で、誰かが僕の胸を締め付けていたものを取ってくれたような感覚だった。15年間で初めて、もう一度息ができるようになったと感じたんだ。」—

ダグラスは「天の雨(Heaven's Rain)」という、彼の通った悲劇と、怒りと荒廃から赦しへの過程を通った彼の体験を描いた映画を作りました。彼の両親が彼に大切に注いだ信仰が、平安への思いに彼を導いてくれたのだと彼は言っていました。

ブルックス・ダグラスが赦すという行動をとらなかったとしたら、彼は怒り、痛み、そして恨みの中で自分の人生を生き続けることになっていたでしょう。

私たちが苦み、恨み、そして赦さない心がどれだけ危険なのかを理解するなら、それらを避けるために出来る限りのことをしようと思えるでしょう。そしてそれは素早く赦すことが出来るように私たちを助けてくれるのです。

怒りの感情はとても強いもので、私たちの行動をコントロールしてしまう傾向にあります。なので、私たちがなぜ赦すべきなのかを理解すればするほど、もっと赦せるようになります。なぜ怒りにとどまるべきではないのか、そしてなぜすぐ赦すべきなのか、その理由を何年にも渡りたくさん学んできました。それを皆さんにも共有させてください。

第9章 - なぜ赦すか？

神様に従う

赦そうと思える理由の一つで最初に来るものは、神様が赦すように教えているということです。神様が私たちにするように言うことの原因を常に理解する必要はないと思います。神様に信頼しきって、それをただ行うべきだと思います。神様の思いの中で生きるときに、私たちの人生は、自分の意志に従って生きる人生よりもっと良いものになります。「Just Do It(とにかくやる)」とプリントされたTシャツを見たことがあると思います。神様の思いに対する私たちの反応はそうであるべきです。神様に従うとき、そこにはいつも平安と喜びと、力が私たちの人生に加えられるので、神様に従うことは私たちが求めるべき最高のものです。神様に従わないとき、私たちは罪悪感を感じ、それは私たちを弱くし、喜びと平安を妨げてしまいます。神様に従っていないという事実を無視し、言い訳をしたとしても、それでもその影響は私たちを悩ませるでしょう。後ろめたさを感じないことほど最高の気分はありません。

あなたは今誰かに腹を立てていますか？もしそうであれば、あなたの人生を平安と喜びと力にあふれたものにするため、シンプルに神様に従い、その人を赦してみてもどうでしょうか？悪魔は、他の何よりも、赦さない心を私たちに対して利用してくると言われています。別れや分裂をもたらすため、私たちを弱くし壊すため、そして神様との関係を邪魔するために悪魔は赦さない心を利用するのです。これらは、赦さない心の破壊的な影響のごく一部です。

赦さない心がどれだけのダメージを人生に及ぼすのかを知ると、それを避けるために出来る限りのことをしようと思わされるでしょう。怒りと苦みにとどまったことで、私は何年もの時間を無駄にしました。しかし、今の私は、「もうそこは通った。体験した。また同じをする気なんて全くないわ」と思うことができます。「誰かに怒って時間を無駄にしてしまうような余裕は私にはないわ。」そんな風に言うことはしゅちゅうあります。

* * *

エヴァ・コーさんは、インディアナ州のテレホートという町で不動産仲介業をしている人で、生き生きとした、とても魅力的な76歳の女性です。彼女が子どもの頃に、アウシュビッツ強制収容所でヨーゼフ・メンゲレ博士により、想像を絶するよう

赦し - 自分のための決断

な拷問に苦しんでいたとは、私たちには知る由もありません。1995年、彼女はある任務を負ってその収容所を再度訪れ、その任務はヨーロッパ中で大きなニュースとなりました。彼女は、純潔と家族を失ったその場所で、このような声明を読み上げました。「50年前にアウシュビッツ強制収容所にてヨーゼフ・メンゲレ師の実験台となった双子の1人の生き残りとして、わたくしエヴァ・モーゼス・コーは、私の家族と何百万人もの人々の殺害に、直接的、また間接的に関わった全てのナチス関係者を赦すことをここに宣言します。」

それから後、コーさんは世界中を飛び回り、アウシュビッツでの体験について語りました。彼女のメッセージはいつも赦しにある癒しの力についてフォーカスしていました。「赦しは、自分自身を癒しに導く行為、自分自身を力づける行為そのものです。瞬時に私の肩から痛みという重荷が取り上げられるように感じました。私はもはやアウシュビッツの犠牲者ではない、もはや過去の悲惨な出来事の囚人ではない、私は自由になったのです。」と彼女は言います。「赦しは、近代の奇跡の薬だと思います。健康保険に加入している必要もないし、自己負担金もかからないし、みんなが利用できます。副作用もありません。もし過去の痛みから解放された感覚が気に入らなかったら、いつだってその痛みを取り戻すことだって出来るのです。」エヴァ・コーさんは時間や健康を無駄にすることはしません。彼女の奇跡の薬が神様からの処方箋であったことは明らかですね。

重要なことを重要なこととしよう

従順は聖書の重要なテーマで、私たちの人生においても、それを重要なものとする必要があります。「みこころが天で行われるように地でも行われますように」と日々心から祈りましょう。私たちの従順は、私たちの考えから始まるべきです。なぜなら、考えが私たちの行動となるからです。

この武器は、神様に逆らう、あらゆる高慢な議論と、人々の目から神様を隠している、あらゆる壁を打ち砕きます。この武器を用いて、私は、反抗する者を捕虜として神様に連れ戻し、回心させて、キリスト様(救い主、油注がれた方)に従わせます。

コリント人への第二の手紙10章5節(リビング訳に一部補足)

使徒パウロは、私たちの考えを捕虜にするようにと駆り立てています。赦さない心は、私たちがどのように人々や状況を見ているかというところに生まれてきます。

第9章 - なぜ赦すか？

状況において、シンプルに人のベストを信じる決断をすることで、怒りや苦みという感情を避けることが出来ると気付いたのです。時には、私たちの気分を害してしまうようなことについては一切考えないという決断をすることも出来ます。一つ確かなことは、誰かが自分にした悪いことを考えれば考えるほど、私たちはもっと怒りと苦みを持つようになります。ですから、神様への従順をまず私たちの考えの中から始めていく決断をしましょう。

聖書の英訳にある、赦すとは、「手放す、振り落とす、振り払う」と言う意味だと書かれています。それをするためには、怒っていることについて考えたり話したりしないということです。自分たちの気分を害するようなものを、私たちの考えや口から取り除きましょう。そうするとあなたの傷や、かき乱された感情は落ち着くでしょう。

彼らは手放した

聖書に登場する男性や女性の中で、彼らの人生を通して神様の力を表していた人たちは、すぐに赦す人たちでした。ヨセフはその中でも最高の模範で、使徒パウロももう一人の模範です。ヨセフについては前でも話しましたが、彼のストーリーは本当に力強く素晴らしく、何度も読む価値があり、読むたびに更に力強い例を書き出すことが出来ます。

ヨセフの兄弟はヨセフを嫌い、無惨に彼を扱ったのですが、ヨセフは赦さなければいけないときに神様に従ったのです。復讐は彼のものではなく、神様のものであることを彼は理解していました。悪い状況の中でも神様は良いことをしてくれるのだと信じ、それがその通りに起こったのです。不運や不公平な状況にいらながらも、彼は神様の祝福を体験しました。神様に従うことを重要なこととする私たちの上に神様の好意があるように、ヨセフの上にも神様の好意があったのです。長い間、何人もの主人に仕える奴隷であっても、犯してもいない罪のために13年間牢獄に入れられてもなお、彼は苦みの態度を持つことを拒みました。最終的には、神様が彼をその国において権力と力のある役職に就かせ、飢饉のときに、兄弟たちが助けを求めに彼のもとへやって来たときにヨセフは兄弟たちにこう言ったのです。

もう恐れる必要はありません。私があなたとあなたの家族のために備え、支えましょう。そう言って彼は兄弟たちを慰め(元氣、希望そして力を与え)、彼らの心に(優しく)語りかけました。

創世記50章21節(AMP訳からの直訳)

赦し - 自分のための決断

この事について考えるとき、私たちはヨセフの態度に圧倒させられ、私たちが人々から不当な扱いを受けたり、人生を不公平に感じるときに、ヨセフと同じような態度をとらなければいけないと思わされます。なぜ、私たちを不当に扱った人たちを赦し、その人たちに優しく接するべきなのでしょう？神様がそうするように言ったからです！私たちに必要な理由はこれなのです。

ヨセフが平安、喜び、そして力にあふれて生きている間、ヨセフの兄弟たちは恐れと苦しみの中で生きていました。ここであなたに質問です。誰が犠牲者で、誰が勝利者だったのでしょうか？初めのうちは、兄弟から奴隷商人に売られてしまったヨセフが犠牲者のように見えたかもしれません。しかし実際には、ヨセフは最悪な状況を通り、より良い人間となってそれを乗り越え、大きな勝利を勝ち取りました。ヨセフの兄弟たちは、自分たちの恨みと妬みの犠牲者となっていたのです。ヨセフは赦す決断をした時、彼は自分にとって良い選択をし、それは彼の残りの人生にも益をもたらしました。

使徒パウロは、福音を人々に伝え、彼らを助けようとしていたときに多くの困難を体験しました。彼は牢屋に入れられ、無実の罪に問われていました。聖書では、彼の最初の裁判の時にみな彼を見捨てたと書いてあります。誰も彼の味方にならず、どんなに孤独を感じたことでしょう。苦みが引き起こされてもおかしくない状況だったはずですが、彼を見捨てた人々を助けるために彼は裁判にかけられていたのですから。

私が初めて、裁判官の前に連れ出された時、(仲裁者として)弁護してくれる人は一人もいませんでした。だれもが見捨てて、逃げてしまったのです。どうかそのことで、彼らが神様から責められませんように。しかし主は共にいて、私を助けてくださいました。神様のことばがあらゆる国の人に伝えられるため、大胆に説教する機会を与えてくださいました。また、あわやライオンのようなユダヤ人のえじきとなることを、助け出してくださいました。

テモテへの第二の手紙4章16-17節(リビング語訳に一部補足)

この箇所を細かく見ていき、私が感じた事をいくつか話させてください。神様は彼と共にいて、彼を力づけていました。しかし、もしパウロが赦さない心と苦みを持ち続けていたとしたら、これは起こらなかったかもしれません。もちろん、神様は決して私たちを見捨てたりはしません。しかし、光は暗闇と交わることはないので、私

第9章 - なぜ赦すか？

たちが赦して苦みを手放さなければ、それは神様の存在を楽しむことを妨げ、邪魔をしてしまうのです。しかしパウロは、神様の存在が彼と共にあることを体験しました。なぜなら彼は神様に従順だったからです。パウロはライオンのようなユダヤ人から助け出されたと言っています。悪魔は、パウロを迫害し、彼を傷つけようと企んでいる悪い人々を通して働いていたのです。

私たちに対抗してくる誰かを赦すために素早く従順になることは、悪魔に対する力と権威を私たちに与えてくれます。悪魔を有利にさせないために、パウロが人々に赦すことを教えていたのを思い出してください。(コリント人への第二の手紙2章10-11節) 赦していないために、あなたや、またあなたの知っている人たちよりも、悪魔が有利になってはいないでしょうか？もしそうであれば、神様に従順になり、赦さなければいけない人を赦すことで、悪魔との立場関係を素早く修正することが出来ます。自分自身に、「恨みを握りしめていないか、恨みが自分を握りしめていないか。」と尋ねてください。

イエスの12人の弟子たちはいつも一緒に旅をしていたので、日常の出来事や、それぞれの思いの中で起こっている事について、お互いに赦し合う必要が多くあったと思います。同じ人たちと多くの時間を過ごす時、イライラさせられたり、そのイライラさせることもわざとしているのではないかと思ったりします。実際には、それぞれが自分らしく行動しているだけなのでしょうが、私たちはそれにも耐えられなくなってしまいます。イエスの12人の弟子たちも3年間もの間、自分の時間はなく、いつも12人で過ごすというのは大変なことだったに違いありません。お互いに異なった性格を持ち、私たちと人々との関係と同じように、彼らも仲間とうまくやっていく方法を学ばなければいけませんでした。

ペテロがイエスに、同じ事に対して何度同じ人を赦す必要があるのかとさえ聞いたほどです。(マタイによる福音書18章21節) 怒った子どものようにふるまっているペテロが、優しい親に兄弟とどのように仲良くするのかを教えられているような情景を想像すると、面白いですね。ペテロが顔を赤くして怒り、膨れっ面して「何回赦さなきゃいけないの？もうたくさんだ！」と言っている姿を想像することが出来ます。

イエスの弟子たちもこのように考え、このような行動を取ったのでしょうか？この12人は私たちと同じ人間でした。ごく普通の人間で、神様に従うことを学びながら、神様の御心を行うにあたって、私たちと同じように精神的に、感情的に反応をしていたのです。反抗したり、頑固になったり、人と対抗するなかで、彼らもイエスと一緒にそれらを乗り越えていく必要があったのです。人を赦すことを難しいと感じ

赦し - 自分のための決断

ていても、失望しないでください。それを簡単だと思っている人には出会った事はありません。しかし、私たちは神様にあってそれが出来るのです。

人々を愛する能力

私たちが怒り続け、赦すことを拒むなら、人々を愛する能力は妨げられてしまいます。人々を愛することの重要性について、私は2冊の本を書きました。愛する能力は、とても注目すべきものだと思います。愛はこの世で一番優れているものです。愛がなくては、私たちの人生は色を失ってしまいます。人生はぼんやりした、平面的で味気のないものになり、私たちは自己中心という牢屋に閉じ込められてしまいます。私たちがこれに気付く前から、もちろん神様は知っていました。そして、そのような恐ろしい人生から私たちを助け出す道を用意してくれたのです。その道がイエスです。

キリスト様は、全人類のために死んでくださいました。それは、キリスト様から永遠のいのちをいただいて生きる人がみな、もはや自分を喜ばせるためではなく、自分のために死んで復活されたキリスト様に喜ばれるように生きるためです。

コリント人への第二の手紙5章15章(リビング訳)

この箇所は私にとって、とても美しい箇所です。イエスが死んだのは、私たちが「自分」という牢屋から自由になるためだったのです。私たちが人を赦せない時、私たちは自分自身で溢れています。私たちの身に何が起こったのか、また、人々が私たちのためにすべきだったのにしなかったことなどについて考えてしまいます。しかし、彼らが神様に従っていない事、そして私たちを不当に扱っている事によって、彼ら自身にどんなことをしてしまっているのか、と考えるとうどうでしょうか？相手の立場になって考えるときに、私たちは多くのものを得、自己中心的な思いから解放されるのです。私たちが怒りや苦みに生きることがないように、イエスが私たちのために死んでくれたのです。これは最高の知らせです！

受け入れがたいことかもしれませんが、赦さない心はその根源に、自己中心的な思いがあります。なぜならいつも、自分がどう感じたか、自分に何が起こったのかばかりに思いが行くからです。傷ついているかもしれません。不当に扱われたかもしれません。しかし内側ばかり見て自分の事しか考えられなくなると、痛みから回復することはありません。神様が私たちに敵を赦し、敵を哀れむようにと教える時、

第9章 - なぜ赦すか？

それはこの世で一番不公平な事であるかのように思えるかもしれませんが、しかし、痛みから解放され、私たちを待っている良い人生へと進んで行くためには、赦しが唯一の方法なのだと言われているのです。

自己中心になることと同時に幸せになることは出来ないのだと気づき、私は幸せになる方を選びました。つまり、自分の事を忘れ、他の人々に手を差し伸べて行く必要があるということです。

聖書は私たちに愛を着るようにと教えています。(コロサイ人への手紙3章14節)「そしてこれらすべての上に、愛を着なさい」と言っています。この箇所からシンプルに分かることは、愛とは、私たちが備えるべきもの、意図的に行うものであるということです。自分を傷つける人を赦す決断を毎日してください。それが起こるまで待ったり、起こってから感情と格闘したりしないでください。その代わりに、心を決め、愛の人生を生きると決断してください。

* * *

マギーは19歳の時にジェームスと結婚しました。彼女は結婚をして家族を持つことを、いつも夢見ていました。彼女は生まれながらの主婦のような女性で、その生活を待ちこがれていました。マギーは家族からたくさんの愛情を注がれ育ちましたが、ジェームスはそのような愛情は受けずに育ち、悲しいことに、愛情をどのように注いだら良いのかも分かりませんでした。マギーは表に現れる愛情表現を恋しく思い、それを必要としていました。ジェームスは心からマギーを愛していましたが、セックスをしたいと思わない限り、彼女にハグやキスをすることはありませんでした。家事も手伝わず、子どもの世話もしませんでした。なぜなら、彼の父親がそういうことをしているのを見た事がなかったからです。ジェームスの父親が椅子に座っている間、母親が父親の身の回りのことをすべてしていたので、ジェームスもマギーに同じ事を求めていました。

マギーは良い妻になることをとても楽しみにしていたので、ジェームスのためにすべてを尽くし、それをし続けることで、ジェームスはそれらを当たり前のように期待するようになっていたのです。

結婚して25年が経ち、4人の子育てをし、自分があまり満たされないまま、家族のために注ぎ続けることに疲れ果てていました。ジェームスから励ましや感謝の言葉を聞く事はめったになく、何度か話し合いを持っても、彼は変わらず、変わる気もなさそうでした。彼は、マギーが感情的になっているだけだと思い、彼女にもそう言

赦し - 自分のための決断

っていたのです！

マギーは年々少しずつ怒りを増していました。彼女は怒りっぽくなり、ジェームスとの間にあった隔たりの壁は高くなっていました。彼女の苦み、恨み、そして赦さない心は本格的になり、時間が経つにつれ、どんどん不幸せになっていきました。そんな中ついに、ジェームスを神様にゆだねて彼のために祈るか、惨めな思いを続けるのか決断しなければならぬという危機的状態に彼女の心は追いつめられていました。ジェームスに全てを尽くしてきたのに何の見返りもなく、彼に利用されていると思ひ込みはじめました。それだけにはとどまらず、自分の子どもたちにも同じような感情を抱きはじめました。良い母親になろうとして、過剰に色々なことをしていました。彼女がしていたことは、何もせず、感謝もしなくてよいという権限を彼らに与えてしまっていたのです。

何かを変えなければいけないと知り、まず、自分のことを惨めに思うことをやめ、代わりに自分の事をもっと大切にすることを決めました。家族の世話をすることは続けましたが、彼らが自分で出来る事や、自分ですべき事に手を出すのをやめました。子どもと座って話し合い、バランスを取るために物事が変化して行く事について説明をしました。彼らにして欲しいことを伝え、もし彼らがそれを怠るとどのような結末になるのかも教えました。

マギーは自分の好きな事もやり始めました。ジェームスや家族が不満を言い始めると、彼女は冷静に、かつ優しく、「私にも人生を楽しむ権利があるわ。」と言ったのです。そして、神様が与えてくれたと感じたことをしたのです。このような過程を踏む事は、感じていた苦みを乗り越えるための大きな助けとなりました。ジェームスにもっと愛情表現が出来るようになってほしいという願いはまだまだありますが、神様だけが彼の中に働いて彼を変えることが出来るのだと気がきました。ジェームスは一家の大黒柱で、色んな点で良い夫だったので、マギーは、彼の欠けているところではなく、彼の良い点にもっと目を留めるようにしたのです。

家事、または子どもの事で何かジェームスにして欲しいことがある場合は、「言わないと何もしない。」と怒るのではなく、して欲しいことを素直にお願いしました。女性は、して欲しいことを男性に気付いてもらい、「やろうか。」と言ってもらえる事を期待しますが、ほとんどの男性は、人の考えを読む事は出来ないと言え、「何かして欲しいなら、なぜそう言わないのか？」と言います。

これらの変化はとてもマギーの助けになりました。ジェームスがしてくれないことばかりを考え、思いを自分中心にしてしまうのではなく、彼のために祈り、彼の家庭では良い模範がなかったのだということを思い出すようにしました。彼女のスト

第9章 - なぜ赦すか？

ーリーはまだ進行中ですが、以前よりももっと幸せになり、ジェームスもここ数ヶ月では、何度か彼女をほめてくれるようにもなりました。彼らが前進し始めていることも、神様の方法が機能することもこれで明らかですね。

信仰が妨げられる

ジェームスのためにちゃんと祈れるようになる前に、マギーは赦さない心を手放す必要がありました。心が赦さない思いで満ちていると、私たちの信仰は働きません。自分の心の中に怒りがある状態で祈ろうとするので、周りの人が変わるようにと祈っても答えられずにいる人がたくさんいるのだらうと感じています。

だが、祈っている時、だれかに恨みをいだいていたら、まずその人を赦してやりなさい。(恨みを置いて行く、恨みを手放す) そうすれば、天におられるあなたがたの父も、あなたがたの罪を赦してくださいませ。」しかし、あなたがたが赦さなければ、天におられるあなたがたの父も、あなたがたの罪を赦してはくれないでしょう。

マルコによる福音書11章25-26節(リビング訳に一部補足)

信仰は愛によって働き、愛によって活気づけられるのです。(ガラテヤ人への手紙5章6節)信仰そのものから力は流れていきません。愛が欠けた状態では、信仰には力がないのです。人々がそれを信じ、苦い思いを憐れみに変え、赦すようになってくれたら良いのに、と思います。人々が間違ったことをするとき、彼らは私たちではなく、彼ら自身を傷つけているのだということを思い起こしましょう。その真理が私たちの心を優しさで辛抱強さで満たしてくれることを願っています。

赦さない心の破壊的影響について、いくつか要点をここにまとめます。

赦すことを拒む時、私たちは…

- ・神様の言葉に従っていません。
- ・人生において色々な問題を引き起こすきっかけの扉を悪魔に開いてしまいます。
- ・人々への愛の流れを妨げてしまいます。
- ・信仰を邪魔され、祈りは妨げられてしまいます。
- ・惨めになり、喜びを失います。
- ・態度が毒づき、会う人々にその毒を吐いてしまいます。

苦みの心にしがみつくと支払うことになる代価には、全く価値がありません。

赦し-自分のための決断

ん。赦さない心には破壊的影響があるので、自分のために良い決断をしてください…赦すのです！

第10章

赦したいけれど、どうすればよいか分からない

傷つけた人を赦すべきだと、人に言うことは簡単ですが、赦す方法を知らなかったとしたらどうでしょうか？敵を赦すことができるように祈ってほしいと、何度も私を訪ねてくる人がいました。彼らは真剣にそう思っていますが、失敗していたのです。私たちが傷つけた人々を赦すという勝利を体験するために、通らなければいけないと思われる過程をまとめました。

祈りは必須ですが、赦すためには祈り以上のことが必要になってきます。私たちが祈る時に、神様が働いてくれますが、私たちが自分の役割を果たしていないことが多くあります。その結果、なぜ私たちの祈りが答えられないのかわからず混乱してしまうのです。例えば、仕事を必要としている人が、神様に仕事を与えてくれるよう祈ったとします。それでも、彼は出て行って、仕事を得るためにいくつもの会社に応募する必要があります。赦しにおいても同じ原則が当てはまるのです。

願う

敵を赦すことへの第1歩は、赦したいという強い願いでなければいけません。ゴールにたどり着くためにどんな過程を通る必要があったとしても、願いがあれば私たちが前進させてくれます。20kg痩せる必要がある人は、その願いを強く持っていなければそれを達成することはできません。なぜでしょう？それは、空腹を感じる時や、他の人が食べている高カロリーの食事を横目に自分はそれを避けなければいけない時、継続するためには強い願いが必要になるからです。私の友人で、最近25kg程の減量をした人がいます。そこにたどり着くまでには、約1年間に渡る自己訓練が必要で、過去の悪い習慣に戻らぬよう、今でも毎日自己訓練をする必要があります。何が彼女をそうさせたのでしょうか？毎日必要以上に自分が食べたいだけ食べることができたらと思うでしょうが、健康で適切な体重を維持するという彼女の願いの方が、食欲よりもまさっていたのです。

目を向けたくない気持ちはわかりますが、もし私たちの願いが十分に強けれ

赦し - 自分のための決断

ば、実際に私たちはみな自分のやりたいことをやっているはずなのです。「できない」はたいていの場合「やりたくない」という意味です。人生の問題に対して、責任を取りたがる人は誰もいません。それよりも、言い訳や不満を言いがちですが、そのどちらも私たちを自由にすることはありません。

定年を迎えた人たちで、財政面で安定のために十分な貯蓄をしていた人たちは、強い意志を持ち、自制をしてきたはずなのです。将来に向けて貯蓄をするために、やりたかったことを我慢したこともあったはずです。

強い願いは私たちの人生における色々なエリアで結果を生み、苦みや恨み、赦さない心から解放されて生きることができます。願いを持っていなければ、神様に与えてもらえるよう祈り始めてください。なぜなら、願いはすべての成功の土台だからです。

神様の言葉を学び始めるまでは、父親が私を虐待したことを赦そうという願いはありませんでした。その願いを持った時から赦しの重要さに気が付き、それが神様の望んでいることなのだとわかりました。神様が私をどれだけ赦してくれたかに気が付き、それと同じことを私にもするように言っているのだと気が付きました。神様の言葉にある力が、この分野で神様に従いたいという願いを私の中に起こしてくれました。同じことがあなたにも起こると信じています。敵を赦したいという願いがないのであれば、赦しについて聖書がどう教えているのかを学んでください。あなたの心は変えられると信じています。赦したいと思うようになって、その願いが起こると、過程が始まっていくのです。

決断する

赦したいという願いを持ったら、それを実行する決断をしなければいけません。その決断は、感情的なものではなく、「質の高い決断」と言われるようなものでなければいけません。このタイプの決断は、感情が変化する時にも変わることはありません。赦しをライフスタイルにしていくことを決心させる固い決断です。この決断がすぐにあなたの考え方を変えるということではないですし、人々を赦すことについて葛藤しなくなるというわけでもありません。ある人々は、同じことについて何度も赦されなければいけないでしょう。それは簡単にはできないことです。私たちがどのように感じるかは考慮に入れず、意識的に行われるべきものなのです。

私の父は何をするにもとても荒い人で、悲しいことに私も彼に似てしまいました。父は、この世で一番似たくない人ですが、いくつかの点で私は彼に似ていまし

第10章 - 赦したいけど、どうすればいいかわからない

た。私の態度や話し口調は荒く、神様が私の固く傷ついた心に働きかけ、柔らかくしてくれている間、デイヴは私のことを何度も赦さなければいけませんでした。私の癒しには時間が必要で、デイヴは忍耐する必要がありました。しかし感謝すべきことに、彼は彼自身の力だけでそれをする必要はありませんでした。私の弱さに耐えられる恵みを神様が彼に与えてくれたのです。そして神様はあなたの人生にいる人々との関係の中にも恵みを与えてくれます。

時に、私が以前とっていたのと同じような態度をする人と関わる必要があり、そういう時には、デイヴが私にしてくれたようにその人たちに接するのだと自分に思い起こさせなければいけません。簡単ではありませんし、たまにはそんな気分になれない時もあります。しかし、私は神様に従い、怒りや苦みのある人生を歩まないという質の高い決断をしました。赦しは、神様が私たちに与えてくれた最高に美しい贈り物の一つです。それを私たちが周りの人に与えたいと願うとき、美しさ、平安、喜びそして力が私たちの人生に加えられるのです。

神様は、聖書が言っている正しい生き方へと私たちを導いてくれますが、私たちを強制するようなことは決してありません。神様は一人ひとりを選択肢を与えます。愛する人々が正しい事をするよう強制できたらと、私は人生で何度も思ったことがあります。神様が私たちに自由意思を与えてくれたことを思い出し、イエスが自分の命を落としてまでも私たちに持ってほしい人生を楽しめるように、私たちに正しい選択をしてほしいと願っているのだということを思い出すようにします。

神様に従うとき、私たちは自分のために良い選択をしているのです。なぜなら、神様が私たちに言うことはすべて、私たちの益のためだからです。神様からするように言われることが難しいと感じる時は、何度もこれを思い出すようにしています。私たちはそれぞれ自分の選択をする必要があります。誰も代わりに選択してはくれません。赦すために質の高い決断をすることを強く勧めます。それができると、赦しの中にある次のステップへ行く準備ができるのです。

頼る

人を赦す過程における次のステップは、質の高い決断をもって、すると決めたことを実践できるように聖霊に頼るということです。決断するだけでは十分ではありません。もちろん必須ですが、それだけでは不十分です。なぜなら意志の力だけではうまくいかないからです。私たちの中に生き、神様の願うことを実践できるように私たちを助けてくれる、神様の霊からくる聖なる力が必要なのです。

赦し - 自分のための決断

神様の国では、自立心というのは魅力的な性質ではなく、うまく機能するものでもありません。私たちは、子どもたちが成長して自立していくように励ましますが、神様の中で成長すればするほど、また、霊的に成熟すればするほど、神様にもっと頼るようになります。神様との歩みの中でこのポイントを逃してしまうと、私たちはいつも失望してしまうでしょう。人間が神様から離れたところで頑張ろうとする「肉の働き」を神様は祝福しません。神様が願っていることをやろうと頑張る時も、成功するために神様を頼らなければいけません。聖書は、あらゆる道において、神様を認めるように私たちを励ましています。(箴言3章6節) 私たちのすべての行動において神様を呼び求め、神様の助けなしでは成功することはできないと神様に伝えるのです。

ゼカリヤ書4章6節で聖書は、私たちの能力や力によってではなく、神様の霊によって戦いを勝ち抜くことができると言っています。神様は、すべきことを成し遂げることができる力である恵みを私たちに与えてくれます。

そうです。わたしがぶどうの木で、あなたがたはその枝なのです。人がわたしのうちに生き、わたしもその人のうちに生きていれば、その人は実をいっぱい結びます。わたしを離れては(わたしとの不可欠なつながりから切り離されては)何もできません。

ヨハネによる福音書15章5節(リビング訳に一部補足)

ヨハネによる福音書15章5節は聖書の中でも極めて重要な箇所です。多くのことが、このシンプルな箇所を理解するかどうかにかかっています。神様が私に何かをするように呼んだとしても、また指示したとしても、神様を頼らない限り、それをするにはできないと、この箇所は教えているのです。良い実を結びたい、良い事をしたいと思いますが、神様に完全に、そして全面的に頼らない限り、それをするにはできません。自分を傷つけた人をすぐに赦すことは、良い実で、神様を喜ばせます。しかし、神様からの助けと力を求めない限り、それをするにはできません。

自分にすべきことがあり、それは神様を喜ばせることだと信じているにも関わらず、それがうまくいかない状態でイライラしていますか? もしかするとそれは、あなたの自立的な、自分の力に頼ってしまっている態度が問題なのかもしれません。なぜ私たちは、誰の手も借りずに物事を進めていくことを好むのでしょうか? それはシンプルに、称賛を得ること、自分のやったことに対する達成感を味わうことを好むからです。しかし、すべての勝利において私たちが神様を称え、神様に感謝す

第10章 - 赦したいけど、どうすればいいかわからない

ることを神様は望んでいて、そして私たちは神様の器とされるのです。

私たちは正しい事をしたいと望みますが、それでも何度も失敗をします。聖書は、私たちの霊がそれを望んでいても、私たちの肉体は弱いと言っています。(マタイによる福音書26章41節)このことを理解することはとても重要な事です。全ての計画の初めに神様に助けを求める祈りができるようになります。何千ものテレビ番組を収録する私たちのオフィスでは、集まって神様に祈り、助けを求めずには決して収録を行いません。肉の働きに頼ってはうまくいかず、神様に頼ることによってのみ物事がうまく機能するのだということを学ぶのに何年もかかりました。

教会へ行き、力強いメッセージを聞き、自分は変わらなければいけないと、霊で確信させられたときのことをよく覚えています。家に帰り、変わろうと努力をし、何度も失敗しました。最終的に、神様をその計画の外に置いてしまっていたと気付くまで、私はとても混乱していました。神様に語られたことを行動していたので、必ず成功するのだと思い込んでいたのです。しかし、神様に頼らなければ、そして、成功した時に神様に栄光を返さなければ、何事もうまくいくことはないということを学ばなければいけませんでした。

神様を心から愛している多くの人々は、この真実を理解しない状態で、「良いクリスチャン」になろうと頑張って、神経質になっています。私は良い人間になろうと頑張って何年も無駄にしました。しかし、良い人間になるために神様に完全に頼ることができていなかったのです。聖書には神様に頼ることの重要性についてたくさん書かれており、神様を頼らなかつたために失敗した人たち、また、神様を頼ったために成功した人たちの例であふれています。

イザヤは、息のようににはかない、弱く、いずれ死んでしまう、そのような人間という存在に信頼を置くことをやめるようにと言いました。(イザヤ書2章22節)神様は、人々に勝利を与えるため、彼らが神様を頼ることを願っていました。預言者イザヤを通して語られた神様のポイントはシンプルに、神様を頼ることができるのに、なぜ弱さでいっぱいの人間を頼ろうとするのか?ということでした。

預言者のエレミヤも、彼が仕えた人々に同じようなメッセージを投げかけていました。彼は私たちが人を信頼し、神様に背を向けるなら、私たちは呪われると言いました。しかし、私たちが神様を信頼するならば、私たちは祝福され、希望と自信を神様の中で持つことができるのです。(エレミヤ書17章5-7節)

使徒パウロは、聖霊との霊的な歩みを始めた後に、肉に頼ることによって完璧さを手に入れられると思うかどうかを、ガラテヤの人々に手紙を書いて聞いています。(ガラテヤ人への手紙3章3節)その答えは明確で、「できない。」ということです。パウロ

赦し - 自分のための決断

は、彼らが霊的に成熟していても、聖霊を頼らなくなれば失敗をすると知っていたのです。私たちも、神様を頼り、力をもらわなければ、敵を赦すことを含め、何をやっても失敗してしまうのです。

赦しの過程を進む上での最初の3つのステップは願うこと、決断すること、そして神様に頼ることです。この3つのステップを踏んだ後は、次のステップに移りましょう。

敵のために祈る

神様は敵のために祈るだけではなく、彼らを祝福し、呪わないよう教えています。すごいことですね!不公平に感じませんか?敵が祝福されることを祈りたいと思える人はいるのでしょうか?神様の言葉ではなく、感情に従っていたら、誰もそんなことをしたいとは思えないはずです。

しかし、わたしは言いましょ。敵を愛し、迫害する人のために祈りなさい。それこそ、天の父の子どもであるあなたがたに、ふさわしいことです。天の父は、悪人にも善人にも太陽の光を注ぎ、正しい人にも正しくない人にもわけ隔てなく雨を降らせてくださいます。

マタイによる福音書5章44-45節(リビング訳)

これは人々に踏み散らされるドアマットのようにならなければならないと言っているのではなく、人々の悪い態度と向き合う必要がないと言っているのでも決してありません。敵を赦すということは、彼らに対する私たちの心の態度や、彼らとどのように接するのかということに関係してくるのです。イエスは、不当に扱われても、人々を不当に扱うことを決してしませんでした。優しさの霊をもって彼らと向き合い、彼らのために祈り、愛し続けたのです。

私たちは、悪に対して悪で報いることをせず、侮辱に対して侮辱で報いることもしません。(ペテロの第一の手紙3章9節)その代わりに、私たちは彼らの繁栄、幸せそして安全のために祈り、心から彼らを憐れみ、愛する必要があります。ここでもまた、彼らが悪い行いによって私たちに何をしているのではなく、彼ら自身に何をしまっているのかを考えるべきだということが示されます。私たちが神様に従い、神様を信頼しているなら、誰にも私たちに真に傷つけることはできないのです。私たちの感情を傷つけることはできるかもしれませんが、しかし、神様は私たちを癒そう

第10章 - 赦したいけど、どうすればいいかわからない

と、待っていてくれています。

傷つける彼ら自身も惑わされていて、実際に何をしているのかちゃんと理解できていないかもしれないので、彼らが自分たちの行動についての真実を神様から受け取ることができるよう祈りましょう。敵のことを良く言うことで彼らを祝福するのです。彼らの罪を覆うのであって、自分も同じことをして彼らに仕返ししたり、彼らについて噂話を広げたりしないことです。

敵のために祈ることを失敗することは、赦しの過程を失敗してしまう要因の一つだと思います。赦そうという思いから始まりますが、神様が行動するよう指示するこの大事なステップを省いてしまうと、成功しません。皆さんも経験があると思いますが、私は友達だと思っていた人たちからとてつもなく傷つくことを言われたことがあります。彼らが祝福されるように祈っていましたが、それが正しい事だと信じながらも、歯を食いしばりながら祈っていたことを認めざるを得ません。赦すことができる人は、神様との力を持っており、神様を素晴らしい方法で表しています。

今日、敵のために祈り始められますか？傷つけられたときの最初の反応が自然と祈りになるように、この原則を実践しますか？もしあなたが始めるなら、神様もあなたも笑顔になるでしょう。神様に従うということは、自分にとっても良い事をしていくということなのです！

赦しの過程における最後のステップは、人を赦すことについてあなたの感情がどういう反応を示すのかを理解することです。簡単に言うと、感情は暴れます。感情は、それ自体に心があり、きちんとコントロールしなければ、私たちが感情にコントロールされてしまいます。『Living Beyond Your Feelings(感情を超えて生きる)』というタイトルの本を書いているので、感情を理解するためにその本を読むことをお勧めします。

私たちの感情は決してなくなりません。私たちはそれをどう管理していくのかを学ばなければいけません。したくなくても、正しいことをすることを学ぶ必要があります。たとえデイヴに対して腹を立てていて、彼を赦す過程の中にいたとしても、彼に優しく話しかけ、優しく接することができるということを、経験を通して学びました。この発見は私にとって、とても大きな発見でした。なぜなら以前の私は、何日も怒ったまま時間を無駄にし、感情がおさまるまで、デイヴを自分の人生から締め出していたからです。感情がおさまるのにどれくらいの時間が必要なのか、私にはわかりませんでした。デイヴが謝ってくれば素早くおさまる時もありました。しかし、彼が謝る必要はないと判断し、謝らなかつたり、何か悪い事をしたと気付いていない時などは、何日も、時には何週間もかかることさえあったのです。謝罪を受け、気分

赦し-自分のための決断

が落ち着いたら、より良く彼に接することができました。これは、自分ではなく、感情にコントロールの権限を与えてしまっていたということで、神様が私たちに望んでいることではありません。

夫や妻が小さな過ちを犯すとき、私たちは怒るでしょう。しかし、それが大きな過ちだった場合はどうでしょうか？赦せないほどの悪質な過ちなどはあるのでしょうか？ここで2つのストーリーをお話します。その上で判断してください。あなただったらどのような反応をするのか、考えながら読んでみてください。

何年前かに、ジョイス・マイヤー・ミニストリーのメディア担当の主任である、ジンジャー・スターシュは結婚生活においてとても大変な時期を通過していました。彼女と夫であるティムは、傷ついた人々を助けたいという思いで、2人のストーリーをこの本で書くことを了承してくれました。ジンジャーの心は、特に結婚において深く傷ついた女性に対して向けられています。彼女自身の言葉による彼女のストーリーです。

* * *

私たちは大学生の時に恋に落ち、現在2人の娘を持ち、結婚15年になります。夫は私の親友で、人生はうまくいっていました。ですから、結婚生活のある時点で夫がポルノ中毒だと発覚した時、私が彼に抱いていたイメージや、私たちの関係のイメージは粉々に砕け散ってしまいました。

幸せで、愛し合っている夫婦だと思っていたのに、そうではなかったのです。教会でも一生懸命仕えていました。私はミニストリーを仕事としていたのですが、全て見せかけだったのでしょうか？私は大きく打撃を受け、裏切られた気持ちになっていました。

私を感じた感情はとても激しく、ショックから嫌悪感、そこから悲しみへと激しく揺れ動き始めました。人生を共にしていた男性が、世界で私が一番理解していると思っていた人が、そんな人がどうしてこんなことを？だまされていたのだろうか？他にも嘘があるのだろうか？このような感情を抱き始め、この気持ちは深く根を張ってしまい、怒りが根付いていました。

私たちの家庭や結婚生活に、こんな汚らしいものを持ち込んできたことに対して激しい怒りを抱いていました。周りの人たちは、別に彼が浮気をしたわけではないと言うことができたかもしれません。そんなことより、私に注がれていると思っ

第10章 - 赦したいけど、どうすればいいかわからない

ていた彼の心と情熱が、他の女性の画と存在してもいない完全に修正された空想に注がれていたのです。どうやったら私は太刀打ちできるのでしょうか？どうやって彼を赦したらよいのでしょうか？そもそも赦す努力をしなければいけないのでしょうか？

彼も修羅場の中にいました。長年暗やみに隠しておいたものが明るみに出されたのです。恥ずかしい思い、恐れ、そしてなぜか安堵を感じていました。必要な助けは何でも求めていくと彼は約束しましたが、彼が何を言おうと私には関係がありませんでした。どうやってまた彼を信頼することができるでしょうか？私は気が強いので、二度もだまされまいという心構えでした。一番安全でいられる場所は、怒りの中にいることだと思い、赦すことを拒みました。それは再度傷つくことから自分を守ってくれるものだったのです。

そして、私の怒りは妥当なものでした。一般に、ポルノに関する二通りの考え方を見ることができます。損害を与えない、犠牲者もない、怒ることは何もないものとしての見方がある一方で、直面できないほど卑劣なもの、変態だけが抱える問題、そしてクリスチャンがするには卑劣すぎるものとしての見方があります。

この醜い問題が私の人生に激突してきた時、この2通りの見方はどちらも間違っていることを知りました。私は犠牲者で、私と同じ経験をしている人が他にもいることを知ることとなったのです。このような恥ずべき問題に向き合うなんて思いもしていなかった多くのクリスチャンが静かに苦しんでいました。私は目を背けるつもりも、ただ黙っているつもりもありませんでした。

私は決断しなければいけなかったのです。私たちの結婚はこれ乗り越えるのか？私はそれを望むのか？これが私たちの子ども達にどのような影響を与えるのか？子ども達のことは私の大きな悩みでした。

多くの人が気付いているかどうかはわかりませんが、怒りを外側に滲み出すこともなく、また残りの人生に悪影響を与えずに、怒りを自分だけに留めておくことはできません。娘達にとっての良い母親という役割や、私の人生における神様からの使命に対して、自分の痛みが影響を及ぼす事を容認することはできませんでした。

キリストはいつも私の避難場所だったので、怒りが鎮まるよう待って、キリストに私をかくまってもらう必要がありました。心の痛みの中でキリストを求め、そこで与えられた指示は明確なものでした。神様が私に求めた事は、私の怒りやプライドよりも重要なものでした。たった1つの答えでした。それは、赦すという事だったので、

赦し - 自分のための決断

それをする能力が自分にはなかったのですが、ティムを赦す事が、癒しのために私が植えなければいけない種だったのです。それは感情ではなく決断で、神様がその過程と一緒に歩んでくれると約束してくれました。神様は、夫を信頼するようにとは言いませんでした。神様を信頼するようにと言ったのです。私の事をたくさん赦してくれた神様からの指示をどうやって拒む事が出来るでしょうか？

とはいえ、これは毎日の選択であり、とても難しいものでした。しかし神様は私たちが誠実でいられない時もとても誠実でした。神様が私たちをクリスチャンのカウンセラーや、この問題についてオープンに助けてくれる仲間へと導き、私が植えた赦しの種は癒しの開花に向けて少しずつ成長していきました。

それから10年以上が経った今、私たちは、神様を愛する2人の娘を持った、25年以上も結婚している大学生カップルのような夫婦です。夫は私の親友で、人生はうまくいっています。私たちの愛は完璧とはほど遠いですが、今までにないくらい強くなっています。コミュニケーションを取り、神様を信頼し、日々赦し合う事を一緒に努力しています。

* * *

ジョナス・ベイラーは他の子どもたちと変わらず育てられました。—アーミッシュの環境で生まれ、神様と家族を愛し、よく働き、アーミッシュの生活共同体の特徴とも言われる、赦しの力を支持している環境で育ちました。

ある日、ジョナスは、自分の機械工場を持つという夢を追いかけるために、アーミッシュの生活を離れました。機械など少ないアーミッシュの生活で育った彼はこんな名言を残しています。「馬よりも馬力の方に強い関心を持っている。」

また、彼はアンという素敵な女性と結婚しました。世界規模で有名なプレッツェルのお店、"Auntie Anne's"で彼女を知っている人がいるかもしれません。

ジョナスとアンはアンの家族が運営していた農場でシンプルな生活をし、幸せの絶頂でした。ジョナスは整備士で、アンは幼い2人の娘、ラウオナとアンジーの子育てで忙しくしていました。そんな夫婦の空き時間は、ジョナスの親友でもある牧師との働きに使われていて、成長盛りの教会の創立メンバーとして働いていました。ジョナスの親友の牧師は若者のための牧師という役割の上で、とてもジョナスを頼っていました。しかし、そんな楽しい日々から一転、彼らの充実感と喜びは深く恐ろしい暗闇へ陥ってしまう事態になってしまいました。

アンとジョナスは生まれてたった19ヶ月の子どもを亡くし、それがきっかけでお

第10章 - 赦したいけど、どうすればいいかわからない

互い話さなくなり、しまいにはお互いから離れていました。アンは絶望のどん底に達していました。ある日曜日、アンジーの死の失望を抱えていたアンのために、ジョナスの牧師が彼女と祈っていました。祈りの後、牧師はアンに自分に会いに来るようにと言いました。アンはジョナスにその事を伝え、ジョナスもアンが牧師と会うことは良い事だとすぐに承しました。ジョナスは、自分にはアンを助けられないが、牧師である友人なら彼女を助けられるかもしれないと思ったのです。

アンは当初から牧師との面会について、何かがおかしいと感じていました。彼女が書いた本である『信仰のゆがみ(Twist of Faith)』の中に、牧師との面会のうちの1つを記録しています。

—「アンジーについて、また彼女が亡くなった日について、そのとき私が何を思っていたかについて話すとき、こんなにも心が安らぐとは信じられませんでした…面会を終え去ろうとした時は…牧師は長いハグをしてくれていましたが、この時は、私が顔を上げた瞬間…彼は私にキスをしました…ようやく離し、彼はこう言いました。『アン、私には分かっているよ。ジョナスには満たすことの出来ない必要を君は抱えている。でも私にはそれが満たせる。』私は走って車へ逃げましたが、頭の中で決断していました。ジョナスには絶対言えない…彼は絶対私を信じてはくれない。」—

その出来事を隠したことは重大な間違いであったことが分かります。他の誰もいない、牧師がアンの人生に語りかけている状態で、彼はアンを簡単に操ることが出来たのです。6年に及ぶこの出来事の間、ジョナスは親友の裏切りや、まさか自分の妻を彼に取られているなど、一度も疑ったことはありませんでした。

アナがその関係をようやく断ち切った時、彼女はジョナスに何が起こっていたのかを伝えなければならぬと分かっていました。ジョナスはこう言っています。「彼女が去った後、私は壁をじっと見つめていました…自分の思いがどこか真っ暗な所へ行っているのを感じ、神様に明日が来ないようにと祈っていました。」

翌日、ジョナスは教会で話しをしていたカウンセラーに連絡をし、何が起こったのかを伝えました。その電話が、彼だけではなく家族全体を癒す、赦しの道へと彼を導いていったのです。そのカウンセラーは、ジョナスの人生をすっかり変えてしまうようなことを彼に言いました。彼はジョナスに、「あなたの結婚を救う唯一のチャンスは、キリストがあなたの妻を愛しているようにあなたが妻を愛せるかどうかにかかっている。」と言いました。

ある人たちにとっては、裏切りから生まれた怒りを沈めるためには、これらの言葉は十分ではないかもしれませんが。しかし、ジョナスにとっては十分でした。赦しの

赦し - 自分のための決断

プロセスを始めるための能力は、彼のこのような考えのおかげだと思います。「私の深い信仰と、私が育った豊かな信仰の文化のおかげで、今までにないほどに私は自分の魂の奥底にたどり着き、神様が与えてくれた自分には不可能だと思えることを実行する恵みを見つけた。それは自分が持てる唯一の希望で、キリストがどれだけ自分を愛してくれているかに気づき、同じように妻を愛することが出来るということ。」

神様はジョナスに神様の愛を理解させてくれたのです。そのおかげでジョナスはアンに対してその愛を示し、キリストが私たちすべての人間に与えるために死んだ、その赦しをもって彼女を赦すことが出来ました。しかしながら、ジョナスも言うように、結婚の回復は一晚では起こりませんでした。彼はこう言います。「すべての痛みの中にどこか、混乱と失望があり、自分がどう感じているかが、自分の最善を尽くして結婚を回復し続けるという決断をしました…良い結末を迎えているので、素晴らしい話のように聞こえるかもしれませんが、しかし…不安な気持ちが突然現れることが時々あります。このような出来事から回復するということは、痛みのない結婚を取り戻せたということではありません。しかし回復は可能です。妻を紹介する機会がある時はいつでも、彼女のことを…親友、妻、私の子ども達の母親、そして私の孫達のおばあちゃんとして紹介します。あの暗闇を通過していた時にいつも夢に見ていたのは、こう言えるようになることでした。」

『キリストの愛のおかげで私の夢が叶った』

* * *

上記の2つのストーリーのどちらにおいても、最悪な状況にそれぞれが直面し、それは当然とも言える心の痛みと傷を引き起こしました。あきらめて、それぞれの結婚から離れることも出来たはずですが、感謝すべきことに、神様の恵みと憐れみによって彼らは赦すことを選びそれを可能にしたのです。素晴らしい話ですが、忘れてはいけないことは、私たちは素晴らしい神様に仕えているということです！私たちが今読んだストーリーにあるような痛みに対する感情的な反応を乗り越えて行くすべを神様が私たちに与えてくれることに、神様に感謝しましょう。間違いなく、すべては神様にあって可能なのです。

もし私たちが自分の感情にコントロールされているのであれば、悪魔が私たちをコントロールします。悪魔が私たちに嫌な気持ちを放り込むだけで、私たちはその感情によって行動してしまうのです。もちろん、こんなことが決して起きてはいけ

第10章 - 赦したいけど、どうすればいいかわからない

ないと分かっていると思います。私たちは感情を超えて生きることを学ばなければいけません。願うならば、私たちを傷つける人を赦すことが出来ます。したいと思うかどうかは関係なく、敵のために祈ることが出来ます。普通に会話することも、彼らについて悪く言わないことも出来ます。私たちがどう感じていようと、神様が願っていることを行うことが出来るのです。

私たちの感情は魂の一部であり、良いもので良い感情を生み出すことが出来ます。しかし、真逆のことを生み出すことも可能です。それらは神様に従うことも、悪魔に従うことも出来ます。どちらに従うのか、私たちは選択をしなければいけません。誰かが私の感情を傷つけ、その傷ついた感情が自分の行動をコントロールしているように感じたら、悪魔の思うつぼです。しかし、私の感情がどうであれ、神様の命令に従うならば、自分の感情に対してだけではなく悪魔に対しても権威を使っていることになります。私を傷つける人を赦し、その人のために素早く祈ることが出来る時に、力と満足感を体験することが出来ます。心の中でどう感じていようが、自分がしていることは正しいことなのだを知り、正しいことをすることが、内側の深い所に霊的な満足感を与えてくれます。

あなたの感情は本当のあなたではありません。たとえ感情が動き、動揺していたとしても、神様の思いによってエネルギーを得ているあなたの思いが、決断をする際の「上司」なのです。感情が沈んでも、私たちは安定していられます。私たちがどう感じていようと正しいことをしようと決断するならば、最終的には感情が決断に追いついてきます。言い換えると、正しいことをしようとという正しい感情を待つ必要はないということです。正しいことをすれば、私たちの感情はついて来るのです。感情はまだ動揺しているかもしれません。しかし、神様の願いに従うことを貫く中で、感情も良くなってきます。神様にするように言われたことをやっている間に、神様が傷ついた感情を癒してくれるのだと信頼しましょう。

決断をしようとしている時に、感情に助けを求めることは良いプランではありません。神様の霊と神様の知恵によって導かれるべきであって、自分の感情によって導かれてはいけません。

人のすることや彼らが私たちをどう扱うかをコントロールすることは出来ませんが、それらに対する私たち自身の反応はコントロールすることが出来ます。他の人の態度によってコントロールされないでください。彼らに喜びを奪われてはいけません。あなたの怒りは彼らを変えることは出来ませんが、祈りにはそれが可能です。

赦し - 自分のための決断

敵の為に祈るには

友達であれ、知らない人であれ、またそれが自分の愛している人であれ、自分を傷つける人のために祈ることは、思っている以上に難しいということは否定できません。しかしそれらは可能で、それだけでなく、その他のことと同じように、練習を重ねることでより簡単になっていくのです。

* * *

テレスは何十年も金融の分野で勤めていた、とてもよく働く人でした。彼女が40代前半だった時、業界でもトップクラスの会社から、とても良い給料と福利厚生が提示された、ハイレベルな仕事の話をもらいました。当時の会社には20年間勤めており、彼女は社員や同僚からとても尊敬されている存在でした。経済が不安定な中、それでも彼女の会社はとても安定していると感じていました。リスクを負ってまで、「新入り」となる新しい仕事を彼女は本当に求めていたのでしょうか？

彼女に新しい役職を提示していた会社の最高経営責任者である、スティーブさんは何年も前に一緒に仕事をしたことがある人でした。彼はとても良い上司で、公正な人であると知っていました。彼は、彼女が不当な扱いを受けることがないようにすると約束したのです。たくさん祈り考えた結果、テレスと彼女の夫は、この話を受けるべきだと決断しました。

新しい仕事は最高なものでした。彼女が任されたことは、彼女の能力にふさわしく、会社の中で彼女は成長していきました。彼女のことをあまり良く思っていない1人の同僚がいましたが、その女性、ジャッキーは誰に対しても優しくありませんでした。彼女の人事資料は、彼女が不当に接していた同僚や部下からの不満で溢れており、上司も含め、全員から問題視されている人でした。テレスはジャッキーと仲良くなろうと最善を尽くし、心配しませんでした。

時が経つにつれ、ジャッキーのテレスに対する態度は、より意地悪に、より横柄になっていき、ジャッキーは自分にこの会社において欲しくないのではないかと、テレスが感じるようになっていました。ある日の社内会議にて、ジャッキーはたくさんの重役の前でテレスに恥をかかせようと、大口取引が失われたことについて嘘をつき、すべての失態はテレスにあると非難しました

その2日後、テレスの上司が彼女を部屋に呼び、彼女は解雇されてしまいました。ジャッキーはその上司にも同じ嘘をつき、上司はその嘘を信じ、テレスに弁明さ

第10章 - 赦したいけど、どうすればいいかわからない

せる余裕も与えませんでした。テレスはジャッキーに怒っているのか、スティーブに怒っているのか、分からなくなっていました。51歳にしてテレスは仕事を失い、その業界で彼女を雇ってくれる所はありませんでした。

テレスはその晩、非常にショックで悲しい状態で家に帰りました。寝る時間になった頃、彼女の夫が大きな声で祈り始め、彼女も同じように祈るようにと待っていました。実は、彼らは毎晩声に出して祈ることをしていたのです。彼女はジャッキーとスティーブのために祈るべきだと分かっていました。彼女自身、彼らのことを嫌っていることも分かっていました。彼女に言わせれば、彼らは2人とも彼女を裏切ったのです。彼女は解雇された一方で、彼らの人生は変わりなく進んでいる状況なのです。果たして彼女は彼らのために祈るべきだったのでしょうか？

彼女は祈り始めました。「神様、敵のために祈らなければいけないと分かっています。何の理由もなしに私たちの将来を危機に陥れた、ジャッキーとスティーブです。彼らにとっても腹が立っています。彼らのためになんか祈りたくないということも告白します。でも祈らなければいけません。彼らが私に何をしたのか、気付きますように。イエスの名によって祈ります。アーメン。」

直接テレスが私に教えてくれたのですが、彼女はジャッキーとスティーブの為に毎晩祈り、何ヶ月も時間をかけるうちに、彼女の祈りは変わり始めたのです。そのうち、彼女はジャッキーのひどい喘息が癒されるように祈り始めました。そして、ジャッキーの、同僚や社員に対する態度が和らぎ、優しく接することができるように祈っている自分に気付いたのです。テレスはスティーブが彼女の代わりになる良い人を見つけられるように、そして、彼女の下で働いていた人たちが、新しい上司とうまくやっていけるようにと祈りました。そして、誰もが知っていたスティーブの性格の問題についても祈りました。

少しずつ、ジャッキーとスティーブに対するテレスの感情が変わり始めました。彼らから受けた傷は残っていたけれども、時が経つにつれ、痛みが減っていき、彼らが祝福されるように神様に心から祈ることができる自分になっていたと彼女は教えてくれました! その数年後、ジャッキーは解雇され、テレスはジャッキーをかわいそうに思い、彼女に連絡を取ろうとしました。自分のその優しさにテレス自身が一番驚いていました。神様が少しずつ、でも確実に彼女の中で働いていたのです。

さあ、どうやって敵のために祈りますか? ただ祈るのです。初めはそんな気分になりません。しかしテレスのように、感情ではなく神様に従いたいと思った時に、自分自身の魂の癒しを体験するのです。

第11章

隠れた赦していない心を探る

約25年前、ある火曜日の夜、教会へ行ったとき、自分たちを傷つけた人たちを赦すことについてこれから語ります、と牧師が言いました。私は得意げに、「赦していないことなんてないわ。」とっていました。落ち着いた状態で説教を聞き、自分にはあまり必要ないはずだと思っていました。しかしその夜、自分の心の中にはまだ赦していないことがあり、それはずっと隠れていたのだということに気付かされたのです。おそらく、もっと正確にそれを表現するならば、私自身がその事実から隠れていたということでしょう。罪と向き合い、それがどんな罪であるのかを認めることは、心地の良いことではありません。内側に押し込みすぎて、それらが私たちに不利な影響を及ぼしているにも関わらず、その存在にさえ気付かないことがあります。私たちは実際の自分よりも高く自分のことを評価します。他の人の失敗を批判することは出来ても、自分の罪を認めることを拒むのです。

神様はその夜、私の人生に起きた2つの出来事を思い出させ、まだ赦さない態度があることを私に示してくれました。

聖書に、失われた2人の兄弟についてのストーリーが書かれています。1人は自分の罪のために迷い、もう1人は自分の宗教的価値観のために迷っていました。彼らはそれぞれ違う形で神様から遠ざかっていました。一般的にこの話は、放蕩息子の話として使われ、自分が引き継ぐ遺産を要求し、すぐに家を飛び出し、罪深い生活の為に財産を使い果たした弟に焦点が当てられています。ほとんどの罪人が通るように、彼も大きな混乱の中にいました。お金は使い果たし、養豚場で働き、彼は豚の餌を食べていたのです。そのような悲しい状況を振り返り、彼は父の元に帰り、赦しを請い、召使いの一人として受け入れてもらえないか尋ねようと決断をしました。(ルカによる福音書15章11-21節)

この話の中で神様を表している父親は、息子の帰りを大喜びし、大きなお祝いを準備しました。しかしながら、お兄さんはとても不機嫌で、その祝いの席には出席しないと決心したのです。彼は自分が正しく生きてきたことや、今までやってきた良い働きについて父親に主張し、それでも自分のためにはお祝いをしてくれたことな

赦し-自分のための決断

んで一度もないと訴えたのです。宗教的に正しいお兄さんが、弟の帰りを不機嫌に思い、恨んで怒っていることを簡単に読み取ることが出来ます。彼は自分のことを正しいとする思いの中でさまよっていたのです。彼は自分の、いわゆる良い働きに誇りを持ち、弟がもてなされていることは、ふさわしいことではないと決めつけていました。お兄さんは、自分の態度が、弟の悪い行動よりも悪いものであることに気付くことが出来ずにいました。

もし誰かが彼に向かって、「君には赦さない心があるね。」と言ったとしても、彼は信じなかったでしょう。自分の考えていることは正しいと思うことによって、彼は自分の罪に対して盲目になっていたのです。実際に彼は良い息子で、すべての規則に従っていましたが、神様の目からは彼の心が正しくなかったため、喜んではいませんでした。彼が自分の態度を見つめ直していたら、自分も赦しが必要なのだと気付いたかもしれません。

赦さない心を表す6つの態度

赦さない心はいつも点数をつけている

正しい行いのリストを父親に列挙し、お兄さんは「長年の間、私はお父さんに仕えてきました」と言いました。彼は自分の良い行いを数え、彼の信用度に何年間の良い行いが積み重なっているのかを正確に把握していました。彼はこのような得点をつけていましたが、私たちにも同じような傾向があるのです。私たちは自分の立派な行いや他の人の間違いの記録を残したがります。私たちは比較し合い、頭の中で、他の人よりも上のクラスに自分を置こうとします。イエスはそのようなクラス分けを壊すために来ました。もし私たちが罪を犯すなら、私たちの助けは、神様にしかありません。そして、私たちが良い行いをするなら、それは神様がそう出来るようにしてくれたからです。私たちが出来る良いことのすべての賞賛は神様が受けるのです。神様なしでは私たちはむなしく、私たちがどんな人であれ、神様の中にあるのみ存在できるのです。従ってすべてのクラス分けは壊され、私たちはみな、キリストにあって一つなのです。

お兄さんは、自分のした良い行いと、弟が犯した罪を数えていました。これは私たちの心の中に赦さない心が存在している印です。ペテロは何度彼の兄弟を赦さなければいけないのかとイエスに聞きました。(マタイによる福音書18章21-22節)彼は傷ついた回数を実際に記録していたのです。愛は悪さを数えません。(コリント人への第一の手紙13章5節)私たちがイエスに従い、イエスが示したような愛に歩むなら

第11章 - 隠れた赦していない心を探る

ば、傷ついたことを数えるべきではありません。赦すならば、完全に赦さなければならず、それを手放し、思い出さないということです。思い出そうと思えば思い出せるでしょう。しかし、思い出す必要はないのです。私たちは赦すことができ、その出来事から離れて歩み、もはや、そのことについて考えたり話したりすることもないので。

デイヴが何をして私を怒らせたのか、全部を列挙することができた時期もあります。彼のすべての間違いを覚えていて、まさかとは思いますが、彼が変わるようにと、高慢にも定期的に祈っていたのです。彼のために祈ってはいましたが、自分の悪い態度には盲目になっていたのです！今となっては、デイヴが一番最近私を怒らせたたりイライラさせたことが何だったのか、思い出すことが出来ません。自分のために良い選択をし、彼の間違いを記録することをやめたのです。今の私は以前よりも幸せで、悪魔は不機嫌でしょう。なぜなら、悪魔は私の人生に持っていた活動拠点を失ったからです。

誰かが自分にしたことや、自分が誰かのためにしてあげたことについて記録をし続けていないかどうか、今自分に問いただしてみてください。もししているのであれば、その人間関係における問題へと向かっているのであって、悔い改めるべき赦さない思いが心にあるのです。

赦さない心は良い行いを誇る

お兄さんは、父親の命令に背いたことは一度もないと父親に言いました…彼は弟の罪を事細かに説明しながら、自分の良い行いを誇っていたのです。人を決めつける批判的な判断は常に「あなたは間違っていて、私は正しい。」と言います。聖書には、他の人に対する批判的な判断に潜む危険について、たくさんの教えがあります。私たちは自分で蒔いたものを刈り取り、自分が人を判断する方法で、自分も判断されると教えています。恵みを蒔けば、恵みを刈り取りますが、さばきを蒔けば、さばきを刈り取るのです。(マタイによる福音書5章7節、7章1-2節)

お兄さんは恵みを持っていませんでした。これは自分を正しいと思っている人にありがちなことです。イエスは当時の宗教的なパリサイ人に対し、衝撃的なほど正直にいくつかのことを言っています。イエスは、パリサイ人達は、正しいことを説教するが、彼らはそれを行わないと言いました。彼らは偽善者でした。なぜなら、彼らは律法には精通していましたが、人々を助けるためには指一本も貸さなかったからです。彼らはカップの内側の汚れはそのままにして、外側だけ綺麗にしようとしていたのです。言い換えると、彼らの行動は良いものに見えたかもしれませんが、彼らの心は悪に満ちていたのです。(マタイによる福音書23章) 宗教的に自分を正しい

赦し - 自分のための決断

者だと思っていた人々は、この世で最も意地の悪い人々であったかもしれませんが。私たちが宗教を持てるようにイエスは死んだわけではありません。私たちがイエスを通して神様と深い関係を築くことができるように、イエスは私たちのために死んだのです。神様との本物の関係が私たちの心を柔らかくし、人々に対しても優しく恵み深くなるようにしてくれます。

私の心には赦していないことはないと思いながら教会に座っていたあの夜、私は毎週何時間祈っていたか、聖書を何章読んだか、正確に答えることができたでしょう。しかし、神様が望まない心の態度には気付いていなかったのです。私はあのお兄さんそのものでした。感謝すべきことに神様は私を変えてくれました。しかし、今でも時間を取って心を探り、神様が私を通して行ってくれた素晴らしいことを、自分の手柄のようにしていないか確認をするようにしています。聖書では、良い行いをする時には、右手が何をやっているのか左手には分からないようにしなさいと言っています。その意味は、私たちが行う良いことを考える必要はないということです。神様の栄光のために神様が私たちを使ってくれるようにし、次に神様が示してくれることを行動するのです。

自分がどれだけ素晴らしくて、他の人がどれだけ劣っているか、比較することはありますか？「そんなことするなんて信じられない。私だったら絶対しないわ。」なんてことを言ったりしますか？もしそうなら、あなたは問題へと向かっています。自分のことを高く思えば思うほど、他の人のことを更に低く見てしまいます。本物の謙遜は自分のことを考えたりはしません…自分本位ではないのです。

もし、自分が他の人より優れていると考えているなら、彼らを赦すことは難しくなるでしょう。神様の前に謙遜になり、心の中にある自分の良い行いについての記録をすべて消しましょう。

赦さない心は不平を言う

お兄さんは父親にこう言いました。「友達と宴会を開いて楽しむために、(子)やぎ一匹(さえ)も私に与えてはくれないじゃないか。」(ルカによる福音書15章29節 AMP訳からの直訳)

彼は「殉教者シンドローム」に陥っていたのでしょう。「他のみんなが遊んで楽しく過ごしている間に、自分はすべての仕事をやり遂げた。」そう言う人はおそらく仕事中毒で、人生を楽しむ方法を知らない人です。従って、人生を楽しんでいる人を見ると嫉妬してしまうのです。自分が受けている扱いについて、不平を言って、不平を言って、不平を言うのです。

第11章 - 隠れた赦していない心を探る

自分には必要がないと思っていた赦さない心についての説教を聞いていたあの夜、神様は私の長男に対して赦していないことがあると示してくれました。なぜなら、私が願っていたほど彼は霊的ではなかったからです。

特定の人について頻繁に不平を言っていることに気付いたら、その人に対して赦さない心を持っている可能性があります。ある特定の事、またはその人があなたに対してしたことかもしれません。または、その人の性格があなたをイライラさせてしまっているだけかもしれません。私の息子の場合だと、彼が下す色々な選択について私は腹を立てていたのですが、自分が彼の年頃だった時にはもっと愚かな選択をしていたことを忘れていました。

腹を立てている相手を赦し、その人について思いめぐらして、その人と良い会話をするためのポジティブなことを探し出し、神様があなたやあなたの愛する人々に働いてくれるよう祈り、見守るのです。

赦さない心は遠ざけ、分裂させ、バラバラにしてしまう

お兄さんは弟のことを「あなたの息子」と呼びました。彼は分裂の壁を立ててしまっていたので、「弟」とは呼ばなかったのです。他のみんなと祝宴で祝うことを辞退し拒否しました。彼は弟から自分を引き離していただけではなく、弟と一緒に喜びを分かち合っていた人々からも自分を引き離したのです。

ある人に腹を立てて、その人に腹を立てていない人たちに対しても腹を立てたことはありませんか？ある人が自分に対して不親切であったことを不満げにデイヴに話したとしても、結局はデイヴがその人をかばう結果になってしまうことが今までに何回もありました。彼は、その人たちがあまり良い1日を送れていなかっただけかもしれないと言い、彼らの良い点を話し始めるのです。

デイヴは私が一方向からだけで状況を判断しないように助けようとしてくれていました。しかし、腹を立てている人をかばうので、私はデイヴにも腹を立てていたのです。腹を立てていた人から自分を引き離すだけでなく、その人のことを良く思っている人々からも自分を引き離していたのです。傷つき、苦みに満ちた人々は孤独の中で生き、ほとんどの場面で自分を引き離しながら生きているのではないかと思います。自分が抱えている恨みのために慌ただしく、その他のことをする余裕がないのです。

お兄さんは祝宴に来ようとしませんでした。もし来ていたら、一緒に楽しむことができたかもしれません。しかし、彼は不平を言い、惨めな思いをする方を選びました。不一致が引き起こす悲劇の問題はとても深刻です。それについては後ろの章

赦し - 自分のための決断

でも更に話していきます。

赦さない心は、傷のことを持ち出し続ける

赦していなければ、人々が私たちにしたことについて話すためのきっかけを探し続けてしまいます。可能な限り何度もそのことについて会話の中に持ち出そうとするのです。聞いてくれる人には誰にでも話します。このような行動は、神様に従っていないという証拠であるべきで、傷ついたことを手放すために神様の助けをすぐに求める必要があります。心にあることが口から出てくるのです。自分が何を話しているのかを聞くことによって、本当の自分を知ることが出来ます。

お兄さんは父親の好意を受ける価値がない弟に対し、父親がその好意を与えていることを気付かせようとし、弟が犯した罪について話し始めるのです。(ルカによる福音書15章30節)彼は怒っていて、彼の会話がその証拠です。私たちは腹を立てたとしても、それを手放すべきであるとイエスは言い、それは話を持ち出すことをやめるということです。傷つけられて、それを赦したはずなのに、その人がまた自分をイライラさせると、前にあったことを持ち出してしまったということはありませんか?みんなあると思います。それは完全に赦せていない証拠で、神様に助けを求める必要があります。

赦さない心は、傷つける人が受ける祝福を不愉快に思ってしまう

お兄さんは妬み、そして怒っていました。父親が弟を祝福していることを不愉快に感じていたのです。彼は何もかもを浪費してきた弟に祝宴が行われ、肥えた牛が料理されること、新しい服、靴、そして美しい指輪が彼のために用意されることを全く望んでいませんでした。彼は心から不愉快に感じていたのです。

他の人々の祝福に対して抱いてしまう恨みは、自分の性格にとっても大きく関係していることを表しています。神様は私たちが、喜ぶ人と共に喜び、悲しむ人と共に悲しむことを望んでいます。一人ひとりにとって神様が最善を行うということを信頼して欲しいと望んでいるのです。弟は間違ったことをしました。しかし彼に必要なだったのは赦してもらうこと、受け入れてもらうこと、そして癒いだったのでしょ。父親は弟の犯した間違いについて、後で話そうと思っていたかもしれませんが、しかし、今の彼には愛が必要でした。父親の優しさと哀れみを実感する必要があったのです。神様はすべての人にとって最善を行ってくれます。そして、神様がどんな方法でどんなことをするのか、なぜするのかにはすべて理由があります。私たちがそれに同意できないとしても、私たちには不公平に思えたとしても、何も変わることはありません

第11章 - 隠れた赦していない心を探る

せん。怒り続けているならば、苦しむのは自分なのです。

弟のために用意した祝宴に、お兄さん以外のみんが参加しましたが、お兄さんは一緒にお祝いすることを拒んだのです。彼の悪い態度のせいで、祝宴を楽しめなくなってしまったのです。彼は自分のために良い選択をし、赦す必要がありました。

自分の中に隠れた、赦していない心がないか確認するために、上記に挙げたリストを読み返し、心をオープンにして対処してください。心の中に、苦み、恨み、赦さない心、または傷がないか示してもらおうよう神様に願ってください。赦さない心の症状についてチェックし、もし何かが見つかったら、医者であるイエスの所へ行き、癒してもらおうのです。

第12章

一致の力と祝福

一致、同意、そして調和、これらは聖書の至る所で励まされ、命令されています。それらを維持する唯一の方法は、私たちが素早く赦すこと、そして憐れみを寛大に与えることを願うかどうかにかかっています。この世の中は不一致で満ちています。戦争、憎しみ、そして政治、教派、企業組織における混乱などについて日常的に耳にします。それらすべての中であって、神様は平安を私たちに与えてくれます。私たちはどの方向に人生を歩んで行くか選択できるのです。

兄弟たちが一つになって仲良く暮らす様子は、なんと楽しげで、すばらしいことでしょう。

詩篇133篇1節(リビング訳)

詩篇の作者は、一致がある所に神様が祝福と永遠の命を与えていると言っています。調和の中で生きる努力をする人々に神様は賞賛を与えてくれます。イエスは、平和を作り、それを保つ人々は神様の子どもであると言いました。そういう人は霊的に成熟していると言えます。自分たちの感情を超えた生き方を持っており、神様の力強い手の下で自分を謙遜にし、神様に従うことを願っている人たちのことです。彼らは率先して行動し、積極的に一致を保とうとします。

自分の生活空間や職場の雰囲気について考えてみてください。そこには平和がありますか？人々は仲良くしていますか？もしそうでなければ、それについてあなたは何ができますか？祈ることが出来ます。仲良くしようと人々を励ますことも出来ます。そこに平和がない原因が自分にあるならば、自分を変えましょう。そんなに重要でないことをぐだぐだ討論することをやめましょう。他の人と不一致が起こったならば、あなたが一番初めに謝りましょう。知恵が生み出す最初の良い実の一つは平和なのです。知恵の中を歩めば、あなたの人生は祝福されます。

しかし天からの知恵は、第一に純粹であり、おだやかなやさしさに満ちていま

赦し - 自分のための決断

す。そして、平和を愛し、だれにも礼儀正しくふるまいます。独善的でなく、人のことばに喜んで耳を傾けます。また、思いやりと善意にあふれた態度をとります。それには真心がこもっており、単純率直で、誠実さにあふれています。

ヤコブの手紙3章17節(リビングツ記)

一致を選ぶ

先にも書いたように、混乱は至る所に存在します。ですから私たちは一致と、そこから来る平和を願い、それを意図的に選んで行く必要があります。神様の方法を知り、聖霊と共に、平和を働きかけていかなければいけません。

結婚している人のほとんどが理解できることだと思いますが、一致できないことは結婚生活の中にたくさん存在しています。一般的に、自分とは反対の性格の人と結婚することが多く、お互いが全く似ていないということが多いです。同意できないことは起こります。しかし、敬意を払いながら、心地よく同意できないことを対処していく方法を習得していくことはできます。

デイヴと私はとても違います。そして、私たちは衝突の危険性と一致の力強さを学ぶまでに、多くの年月を無駄にしました。私たちの関係、家庭、またミニストリーにおいて平和を持つことを誓い合いました。私たちの中に分裂がある限り、神様が望む方法で、私たちは祝福を受けることが出来ないと確信しています。このような言葉を聞いたことがあるでしょう。「団結すれば立ち、分裂すれば倒れる。」これは真実です。聖書は1人が1,000人を敗走させ、2人が10,000人を敗走させることが出来ると言っています。この箇所から、同意して生きることを選ぶ時に、力がどのように増していくかを見ることが出来ます。

私たちの口論のほとんどの原因は私でした。デイヴはいつも穏やかな人で、口論し、怒ったままでいる時に生まれるストレスを嫌います。私は一致のない家庭で育ち、平和がどのようなものであるかを学ばなければいけませんでした。神様の言葉を学び、平和を得るために何を変えなければいけないのかを探しました。謙遜がなくては、平和はないということを見ました。謙遜は追求されるべき最も重要な美德で、おそらく手に入れるのも維持するのも一番難しいものです。

本当に謙遜な人は、中身のない(無駄な、役に立たない、無意味な)話をすべて避けます。なぜならそれらが神様に喜ばれない方向へと更に私たちを連れて行ってしまふからです。衝突を助長し、引き起こしてしまうことを知っているので、無知な質問に関する愚かな論争に対し、彼らは思いを閉ざします。

第12章 - 一致の力と祝福

とても小さな、話にならないようなことについて最近誰かと口論したのはいつだったか思い出せますか？おそらく、嫌な1日をすごして、言うべきではなかったことを言ってしまったことで口論になってしまったのでしょう。すぐに謝ることが出来たはずですが、あなたのプライドが愚かな会話を続けさせ、自分が正しいことを証明しようとしているのかもしれない。あなたはその日を無駄にし、ストレスを感じ、頭痛に悩まされ、胃が締め付けられ、祈る気持ちも起こりません。心の中では、自分の態度が悪かったことに気付いていました。そして本当に言いたかったことは、「ごめんね。私が悪かったから赦して欲しい。」と言うことでした。もう一方で、あなたの肉の思いが断固としてそうするのを拒むのです。

同じような経験を何度も通ったことを確実に覚えていますが、感謝すべきことに、もうそのような歩みはしていません。衝突、混乱、不調和、そして不一致は嫌いです。正しくいることが良いことのように思えるかもしれませんがそうではありません。同意できない中で自分が正しいと証明する目的のためだけに他の人々と対抗しようとはしますが、それをしたとしても、うぬぼれと高慢な感情の他に何か得られるものがあるのでしょうか？私たちが謙遜になり、神様に立証者となってもらった方がよっぽど良いことだと思います。神様の最善のプランなのであれば、神様が私たちを正しいと明らかにすることだって出来るのです。聖書には、愛は自分の義を主張しないと書いています。(コリント人への第一の手紙3章5節)愛は、義の権利さえも主張しないのです！口論を始めるのではなく、たとえあなたがそう思わなかったとしても、ある人が「自分が正しい」と思っていることを喜んで受け入れることができますか？それができれば、平和を作り、一致を保つ人になるために1歩近づくこととなります。

最近、家族約11人で旅行をしました。デイヴと、2人の子どもとその配偶者、そして何人かの孫で、そのうちの何人かはティーンエイジャーでした。全員が同じ宿に泊まり、不一致と感情が傷つく体験をしました。全員が同じことをしたいとは限らず、また同じテレビ番組を観たいとも限らず、同じゲームをしたいとも、同じものを食べたいとも限りませんでした。ティーンエイジャーはイライラさせるような態度をよく取りますが、私たちがティーンエイジャーだった頃は、彼らより悪い態度を取っていたことを忘れないようにしなければいけません。

私が言いたいポイントは、たとえこの旅にいた私たち全員が、神様に従って平和に生きたいと思っているクリスチャンだとしても、実行するためには努力が必要で、あなたの願いが一致だったとしても、努力しなければいけないことは同じです。全員が謙遜になり、憐れみと赦しに寛大になれなければ、このような雰囲気の状態

赦し - 自分のための決断

の中で平和を保つことは不可能なのです。神様が聖書で私たちにすぐ赦すようにと教えていた時、何をしているのか神様自身は完全に理解していました。悪魔は問題を引き起こそうと周りにうろろう潜んでいるのです。しかし、神様が彼に勝つ方法を私たちに与えてくれました。憐れみに寛大になり、辛抱強く、忍耐を持って、理解をして、自分自身の罪を認めること、それが他の人をすぐ非難してしまわないよう助けてくれ、悪魔の衝突の罠にかからないよう、完全に素早く赦せるように助けてくれます。

私たちみんなにとって人間関係はとても大切なものです。悪い人間関係は悩みの種ですが、良い人間関係はこの世の中で一番、有益で祝福に囲まれたものなのです。悪魔は一致の力を知っているのだから、人間関係を壊そうと機会を狙っています。悪魔は私たちの性格の違いがお互いに対立するようにします。悪魔は私たちが人に言われたことの中から、文脈を無視して引用し、傷ついた感情、怒り、そして反抗的な態度などを引き起こし、赦すことを拒むように仕向けます。しかし私たちは悪魔に対し権威が与えられています。家や、職場、学校や教会、その他どんな場所でも、分裂を引き起こそうとする悪魔や悪魔の策略に対抗することが出来ます。

混乱がもたらす益は何か考えてみてください。何か良いことを起こし、状況に変化を与えますか？たいていの場合衝突は私たちを惨めにし、何も良いものを生み出しません。努力して平和を作っていく決断をしましょう。世の中にあるすべての混乱を解決することは出来ません。しかし、私たち一人ひとりが自分の人生と人間関係に責任を持つことは出来ます。自分の人生でもっと平和を促進していくために変えなければいけない所がないか、神様に尋ね、祈り始めてください。

柔軟でいる

ほとんどの人が、物事を自分のやり方で進めたいと思います。しかし、一致を持つためには、適応することや柔軟でいることを学ばなければいけません。この聖書箇所を考えてみてください。

互いに心をつにし、楽しく働きなさい。お高くとまってははいけません。偉い人に取り入ろうとせず、かえって、平凡な普通の人々と喜んで交際しなさい。何でも知っているなどと、思い上がってははいけません。悪いことをされても、決して仕返しをしてはいけません。だれが見ても、あなたがたの正直さを認めるように行動しなさい。だれとも争ってははいけません。できる限りあらゆる人と仲よくしなさい。

第12章 - 一致の力と祝福

ローマ人への手紙12章16-18節(リビング訳)

この箇所を注意深く読むと、私たちの態度が正しくなければ、人と調和を保って生きることはできないと示していることが分かります。つまり、謙遜な態度が必要で、他の人や状況に喜んで合わせて順応していく態度が必要なのです。正しいと信じていることに立つべきですが、たいてい重要でないことや、他の人に合わせられることについては、そうするように努力するべきです。

いつも自分のやり方を通すことは良くないことです。私たちには、謙遜と愛の中でお互いに服従する経験が必要です。他の人に服従し、その人やその人の願いをその時に選ぶことが必要です。それを良い態度で行う必要があります。

私たちの結婚生活のほとんどで、外食の時はいつも、デイヴはどこで食べるか私に選ばせてくれました。性格がのんびりしている彼にはあまり気になることではなかったようです。しかし、私にとっては大切なことなのです。過去数年の間に、なぜかデイヴはどこで何を食べるのかについて気にし始めるようになり、突然私が食べたいと思うものをほとんど食べたがらなくなったのです。彼はニンニクを嫌うようになったのですが、イタリアン料理は私の大好物です。ここで間違いなく問題が起こっているのに気付きますね。また、中華料理も好きで、彼も時々喜んで食べてくれますが、脂っぽいものや、後味が残るものは食べません。悪い予感がしますが、いわば、順応していく必要があるということに気付いたということです。今までは私がいつもどこで食べるのか、こだわって決めていましたが、今度は彼がこだわりたい時にこだわれる順番なのでしょう。

私にとってこれは少し難しい問題だったことを認めます。長い間自分のやりたい方法で物事を進めていると、何かに変化する時に困難に陥ります。しかし、デイヴは44年間も食べに行くお店を私に決めさせてくれたのだし、これからは彼の番なのだということを自分に思い起こさせました。感情的に反応せず、時間をとって自分に言って聞かせるならば、もっと簡単に順応することが出来るようになります。

先に読んだ聖書箇所、自分のことで思い上がってはいけなとも教えています。自分が願っていることが、他の人が願っているものよりも重要であるとは決して思っていないのです。私たちには平等な価値があり、平等な権利があります。これを忘れずにいることで、他の人の願いに柔軟でいることが出来ます。

赦し - 自分のための決断

祈りの力を増し加える

祈りは私たちに与えられている最高の特権で、私たちや他の人々の人生において、とてつもない力と祝福への扉を開いてくれるものです。神様は私たちの祈りを聞き、答えてくれますが、怒りを除いた、同意の中で祈らなければならないと教えています。

そこで勧めます。男は、罪を犯したり、怒ったり、恨みをいだいたりせずに、どこでも、きよい手を上げて祈りなさい。

テモテへの第一の手紙2章8節(リビング訳)

この箇所は、私たちが怒らずに祈るべきであると、率直に語っています。マルコによる福音書11章では、私たちが祈る時には、怒りを抱いている相手をまず赦すようにと教えています。他の箇所では、私たちの心が怒りと衝突で満ちていると、祈ることが出来ず、祈りが答えられると期待することも出来ないことと立証しています。

今日の世界には、怒っている人はとてもたくさんいます。そのうちの多数が、より良い方法を知っているはずのクリスチャンなのです。彼らは祈りますが、彼らの怒りは関係ないと、間違った考え方をしています。怒りの中で自分を正当化しますが、神様はそれが罪であると示し、祈る前に手放すようにと言うのです。祈りによって神様に近づく上でのベストな方法は、まず自分の罪を悔い改め、心の中でまだ赦していない人がいないかどうかを確認することです。他の人を赦すことを拒んでいては、どうやって神様に赦してもらうことを期待できるでしょう？私は神様に対する私たちの過ちの方が、他の人の私たちに対する過ちより、もっと深刻であると確信しています。

同意の中で生きるために全力を捧げるなら、夫婦や家族の一致は、祈りの中でとんでもない力を発揮します。

このことも言うておきましょう。もし、あなたがたのうち二人の者が、何であれ(全てのことについて)、この地上で心をつにして願い求めるなら(共に調和するなら、シンフォニーを奏できるように一致するなら)、天におられるわたしの父は、その願い事をかなえてくださいます。

マタイによる福音書18章19節(リビング訳に一部補足)

第12章 - 一致の力と祝福

この箇所は本当に素晴らしく、ここに書いてあることを信じる人がいるなら、一致と調和の中で生きるために全力を捧げるべきです。私たちの愚かなプライドは、祈りの力を失うことよりも価値のあるものではありません。

人生の中で1度、自分の思う存分にデイズと口論をしても、人生で突破口が必要だと感じた時には共に心を合わせ、一般的にも言われる「一致した祈り」を祈れば良いのではないかと愚かな考えを持ったことがあります。しかしマタイによる福音書18章19節で、そのような祈りは機能しないということが分かります。神様がここで言おうとしている祈りは、平和を作りそれを保つことに最大限に努力する人々にもみ適応されるものだという事です。これをする人を神様はとても喜び、特別な形でその人の祈りを称賛するのです。この箇所のすぐ後で、ペテロが兄弟を何度赦すべきなのかと、イエスに聞きました。ペテロもこのような力を祈りに求めていたのですが、弟子のうちの1人もしくはそれ以上と問題を抱えていることに気付かされたのでしょう。平和を保つためにどの程度までイエスが求めるのかを聞いていたのです。イエスが出した答えは、一致にとどまるためには、基本的にペテロは必要なだけ何回も赦す必要があるということでした。

その時、ペテロが、イエスのそばに来て尋ねました。「先生。友達が私に罪を犯した場合、何回ぐらいまで赦してやればいいでしょうか。七回でしょうか。」

マタイによる福音書18章21節(リビング訳)

ペテロは寛大になったつもりでいたと思うので、イエスの答えは衝撃的だったに違いありません。

イエスはお答えになりました。「いや、七回を七十倍するまでです。」

マタイによる福音書18章22節(リビング訳)

これは490回ということですが、「必要があるだけ何度も赦し、制限を設けてはいけません」ということをイエスの方法で言っていたのでしょう。

祈りはとても大切な贈り物で、とても力強い特権であり、不一致に生きることによって台無しにしてはいけないものです。祈る前に心を探るための時間を取り、誰かと何かを正す必要があるならば、平和をもたらすことにおいて積極的になってください。

聖書は、祭壇に捧げものを持ってくる時、もし兄弟に恨まれていることを思い出

赦し - 自分のための決断

したのなら、捧げものをおいて、その兄弟と和解をするようにと教えています。(マタイによる福音書5章24節)平和を作るために積極的であるべきだということを確実に教えている箇所です。

仕えることの方

神様に仕えるために私たちの人生を捧げる時、素晴らしい力を得ることが出来ます。イエスは弟子たちを2人ずつ送り出し、福音を伝え、病気を癒すようにと仰いました。また、平安にとどまることが出来る家を見つけ、滞在するようには仰いました。(ルカによる福音書10章1-9節)イエスは、彼らの霊に混乱がある状態では、イエスの力が彼らから流れて行くことは出来ないと分かっていたのです。イエスが彼らに与えた約束は、調和にとどまるためにしなければいけない努力に値するものでした。

あなたがたには、敵のあらゆる力に打ち勝ち、蛇やさそりを踏みつづす権威を与えてあります。だから、あなたがたに危害を加えるものなど、一つもないのです。

ルカによる福音書10章19節(リビング訳)

私はこの約束が人生で実現していくことを願っていて、みなさんも同じように願っていると思います。一致、調和、そして同意にとどまるために全力を捧げていきましょう。それは、他の人のようにいつも考えていなければならないということではなく、彼らの選択全てに同意するということでもありません。しかし、そのことについて争わないということに同意するということなのです。衝突のほとんどは、自分の問題以外に干渉しないということだけで避けることが出来ます。覚えておいて良いことは、もしある事柄について何も責任を持っていないとしたら、意見を言う必要はないということです。

誰も聞いていないし、誰も求めていない時にも、私たちは良く自分の意見を言おうとします。そしてそれが口論や、傷の原因となっていくのです。私自身、自分の意見を全く惜しまないタイプの人間なので、言われぬ限りそれらの意見を自分でとどめておくことが出来ませんでした。なので、余計なことを言わないよう聖霊に知恵と助けを求めていました。この分野では、まだ完璧な状態へ達してはいませんが、それがどれだけ大切であるかは、学び続けています。

使徒パウロは、ユウオデヤとセントケという2人の女性にお互いに仲良くするよ

第12章 - 一致の力と祝福

う、励まし、ピリピの教会へ手紙を書きました。また、この2人が仲良くし、福音を広める努力をする上で協力することが出来るように、他の人々にも彼女たちを助けるようにと励ましました。(ピリピ人への手紙4章2-3節)彼女たちの衝突が何だったのかは分かりませんが、おそらく彼女たちの問題の一部は、お互いの選択に対する過度な意見の言い合いだったかもしれません。パウロはこの2人がうまくやれていないことを聞いたに違いありません。そしてそれが彼女たちのミニストリーを弱めていると分かっていたのです。そこで、彼は時間を取って、この問題に対する特別な指示を含めた手紙を書きました。この2人の女性にパウロが書いたことは、私たちのために書かれたものでもあります。神様のための奉仕に力が欲しいならば、私たちは周りの人とうまくやっていく必要があります。一致を持つ必要があるのです!

使徒パウロはピリピの人々へ書いた手紙でこう言っています。

もしそうなら、互いに愛し合い、心からうちとけ合い、心と思いと目的とを一つにして共に働き、私を心から喜ばせてください。

ピリピ人への手紙2章2節(リビング訳)

聖書に出てくる素晴らしい男性や女性は、全員一致のために全力を捧げた人たちでした。彼らの神様への働きは、一致がなくては力をなくしてしまうことを彼ら知っていたのです。私たちがミニストリーを始めた当初、デイヴと私は衝突の危険性について神様から啓示を受けました。衝突は小さな問題ではなく、危険なものなのです。それは留まることを知らず、伝染病のように拡散していきます。私は衝突と、それが人々の人生に及ぼす影響が嫌で、それが人生に入り込まないように熱心に努めています。

争いは努めて避け、きよい生活を追い求めなさい。きよくない人は主を見ることができないからです。あなたがたのうちのだれも、神様の最高の祝福(身に余る好意と霊的祝福)を見失わないように、互いに注意し合いなさい。あなたがたの間に、苦々しい思い(憎しみ、苦み、嫌悪)の根がはびこらないように、十分に警戒しなさい。その根から出た芽は悩みの花を咲かせ、大ぜいの人の信仰生活に、害を及ぼすからです。

へブル人への手紙12章14-15節(リビング訳に一部補足)

赦し - 自分のための決断

この箇所は、私たちは衝突を人生に入れないように努力する(熱心に努める)必要があると教えています。先にも言ったように、それをするには謙遜さと平和を作る人になるために積極的でいるという意欲が要求されます。自分を正当化する権利を捨て、やすやすと他人の問題に干渉せず、何か言いたくても、問題を引き起こすだけだと分かっているなら発言を控えることが必要になるということです。

人々の間での一致が促進されるトピックだけでなく、衝突を人生に入れさせないというトピックについても多くの時間を割いて教えてきました。平和がなくては、私たちの人生は惨めで、平和がなければ、力もないというのが真実なのです。

衝突を避けられるように、私たちはお互い助け合うべきです。私たちのスタッフに、素晴らしい能力をたくさん持った牧師がいるのですが、その中でも彼が特に優れているのは、「問題解決」の能力です。もし1つの部署や、2人のスタッフなどが、その人間関係に衝突を引き起こしていたら、彼はその人々と関わり、衝突や不一致に解決をもたらす助けをします。一致がなければ、私たちが神様のためにやっていることは衰弱すると分かっています。

このような衝突はたいいていの場合、適切なコミュニケーションが取れていないことから起こります。このために多くの人間関係が崩壊しているのです。学ぼうと思えば良いコミュニケーション能力は学べることなので、その能力がないために人間関係が崩壊しているのは悲しいことです。私たちの牧師は、問題を理解し合うという点で人々を助け、それがほとんどの問題を解決してしまうのです。もし問題が解決されず、当事者の1人もしくはそれ以上の人が、衝突を巻き起こし続けるという決断に関わり続けるならば、ジョイス・マイヤー・ミニストリーはその人が働く場所としては正しい場所ではないことが分かります。神様のために効果的に働いていくために私たちは一致を保たなければいけません。

アブラハムとロトという聖書に出てくる2人の男性の羊飼いが、家畜のための牧草地を巡って衝突を引き起こしました。アブラハムはとても知恵のある人で、すぐにロトを訪ね、「私たちの間に衝突がないようにしましょう。」と言ったのです。そしてロトが願うだけの土地を彼に与えることにし、その残りを自分の土地にすることにしました。この状況でアブラハムが謙遜になり、将来に起こりうる不一致の扉を閉じたということを見ることができます。ロトは彼にとってベストな土地を選びましたが、神様はアブラハムの平和を保とうとした意欲のために、以前にも増して彼を祝福しました。(創世記13章)

私は自分の人生から衝突を締め出しておくことを忘れないためにこの箇所を使っていました。そして、教えの中にもこのストーリーをよく使いました。謙遜になり、

第12章 - 一致の力と祝福

人生から衝突を避けるならば、神様は素晴らしい祝福を与え、平和を楽しむだけでなく、祈りにも奉仕にも力を与えてくれるのです。

一致に留まることができる唯一の方法は、憐れみと赦しに寛大になれるかどうかにかかっているということ再度思い返してもらい、この章を終わりたいと思います。私たちが傷つけた人を赦すという教えの中で、神様は私たちに平和への鍵を与えてくれました。そして、必要な時には神様が私たちの人生に正義と弁護をもたらしてくれると信頼することができます。私たちの役割は赦すことで、神様の役割は正義をもたらすことです。あなたはあなたの役割を果たし、神様に神様の役割を果たしてもらうのです。

平和の結末にある、聖霊の(聖霊によって生み出される)調和と一致を守り、維持するために、熱心に、そして本気で努力しなさい。

エペソ人への手紙4章3節(AMP訳からの直訳)

第13章

神様、私を憐れんでください

私たちが自分の罪や欠点に本当に気付いているのならば、人を赦すことはもっと簡単です。神様が私たちのためにしてもいないことを、神様が私たちにするようにとは決して言いません。人々を赦すことが必要であると私たちに教える前に、最初に神様自身が私たちに赦しを示してくれました。神様は私たちと関係を築きたいと、思っていて、一致と調和を私たちと持ちたいと思っています。そのために、神様は私たちを赦さなければいけなかったのです。

神様の素晴らしい恵みと憐れみは赦しの前にきます。憐れみは神様の最も美しい性質の1つです。憐れみは素晴らしいもので、私たちはそれに驚かされるはずで、この地上で私たちは多かれ少なかれ憐れみを求めますが、おそらく天国では、天使たちが神様の憐れみの深さに圧倒されているはずで、クリスチャン作家で牧師でもあるアンドリュー・マーリーは「神様の全知は驚くべきもの。神様の全能は驚くべきもの。神様のしみのない聖さは驚くべきもの。しかし、最も驚くべきものは神様の憐れみである」と言っています。

神様は最も悲惨な罪人との関係を修復するために、その罪人を完全に赦します。神様は全く受けるに値しない人たちへ優しく接してくれます。私たちが考えたり、言ったり、やってしまったことに対し、1日に何度神様が私たちを赦してくれているのかに気付くならば、私たちに罪を犯す人々を赦すことなど、何も難しいことではないと分かるでしょう。私たちは毎日何度も神様に声を上げて、「神様、私を憐れんでください。そして、人々を憐れむことができるように助けてください。」と言うべきです。

神様は私たちが準備できていない状態で、何かをしるとは決して言いません。神様が私たちにまだ与えていないものを、誰かに与えるようにとも決して言いません。神様は無条件の愛を私たちに与え、人々を無条件に愛するようにと私たちに言います。神様は私たちを赦し、人々を赦すようにと私たちに言います。無理なことを言われているようですか？私はそうは思いません。

聖書では、多く与えられている人は多くを要求されると教えています。(ルカによ

赦し - 自分のための決断

る福音書12章48節)神様は多くのものを与えてくれるので、私たちから多くを期待する権利があります。時間を取って自分の人生を振り返り、どんなに神様が自分のことを赦してくれたか、思い出してみてください。何度も同じ間違いを犯して罪悪感にかられていましたか?あなたが正しいことを出来るようになるまで、憐れみがあるあなたの上にあり、神様は赦し続けてくれましたか?答えはもちろん、はい、です。私たち全てに当てはまることです。

キリストによって神様が私たちのためにしてくれたことは?

イエス・キリストの犠牲を通して、神様は暗闇から光へと私たちを神様の方へと導いてくれました。私たちが自分の罪や悲惨な状態に陥っているのを見つけ、全く新しい人生を与えてくれたのです。私たちが単純に「はい。」と言うなら、神様は私たちの全ての罪を完全に赦し、神様の恵みと憐れみによって、神様の右側に立たせてくれるのです。神様は私たちの罪を赦すだけではなく、東が西から離れているのと同じように私たちから罪を引き離し、その罪を決して思い出しません。(ヘブル人への手紙10章17節、詩篇103篇12節)失望の底から私たちを引き上げ、私たちの人生を意味のあるものとしてくれます。(ヤコブの手紙4章10節)そしてその驚くべき美しさというのは、私たちは、そのどれを受け取るにも値しないということです。神様の恵みを受け取るために何か価値あることができたわけではありません。それを受け取るに値するようなことが私たちにできるわけでもないのです。赦しは完全にギフトです。私たちが受け取り、私たちもそれを喜んで与えるべきものなのです。私たちが人々に与える贈り物というだけでなく、私たち自身に与えることができる贈り物でもあります。人を赦す時、私たちに心の平安が与えられ、エネルギーが新たにされ、イライラして、怒りにとどまることよりも前向きなことをする時間が与えられます。

神様の憐れみは、なんで自分が優しくされるか分からなくなるぐらいの親切心のことを言います。言い換えると、神様の優しさに理由はないということです。神様は優しく、私たちはその優しさを受け取ることができる、祝福された人々なのです。

キリストにある神様が私たちを罪から救い、義とし、聖い者とし、そしてどんな時にも私たちを回復させてくれます。神様の憐れみにいつも感謝できる人になりましょう。今日も、そして毎日、憐れみが必要です。私は神様の寛大さに圧倒されています。そして、時間をかけて神様がしてくれたことを考えれば考えるほど、この思いは大きくなっていきます。

第13章 - 神様、私を憐れんでください

自分に間違ったことをした人、または自分を傷つけた人を赦せずに苦しんでいますか？もしそうであれば、15分でも良いので時間を取り、神様が自分をどれだけ赦してくれたのかを真剣に考えてみることをお勧めします。それをするだけで謙遜になり、自分に間違いを犯した人を簡単に赦せるようになると信じています。

みなさん、どうか赦してください！すでに起こってしまっただけで変えることのできないことに対して、苦みと怒りを持った日々を過ごし続けなくてください。人生を逆方向に生きなくてください。苦しむのではなく、より良くなっていけるように神様に願ってください。どんな間違いが起こったとしても、神様がそこから良いことをすると信頼してください。忘れないで下さい。あなたの役割は神様に従い、赦すことです。そして神様の役割は私たちを回復して、正しいことを証明することです。赦さない心を持ったままにして、大切な1日をまた無駄に過ごさないでください。神様が持っている同じ態度—憐れみ深く、赦す態度—を自分も得られるように求めてください。

イエスは厳しく冷たい人ではありません。情け深く、怒りに遅く、赦す準備、そして助ける準備ができています。(マタイによる福音書11章28-30節)イエスは憐れみを願い、犠牲は願わないと教えています。(マタイによる福音書12章7節)2つの方面からこの聖書箇所を見ていくことができます。1つ目は、神様は私たちに憐れみを与えたいと思っていて、私たちが払う犠牲には興味がないということです。イエスは私たちが必要とする唯一で最後の犠牲です。新しい契約の下では、私たちの犠牲は役に立たないものです。私たちが罪を犯したときは、イエスに駆け寄り、憐れみを請うだけなのです。そして、イエスはいつもそれを与えてくれます。神様が赦す準備をしてくれているという考え方が好きです。神様が赦してくれるのを待つ必要はありません。神様を赦してくれるように説得する必要もありません。神様には赦す準備ができています。いつも情け深くいること、そしていつも赦すことを神様はすでに決心してくれています。私たちに同じことができます。私たちが事前に思いを固めていれば、傷つけられたとしても、赦す準備ができています！

この聖書箇所の2つ目の見方は、私たちが人々からの犠牲を要求することなく憐れみを与えることを、神様は望んでいるということです。侮辱されてもぐっところえる人は信用を得ます。(箴言19章11節)他の人が自分を傷つけるためにしたことを見ないふりするという特権を私たちは持っています。神様がそうできるように私たちを整えてくれたのです。傷つけられることはあります。しかしそれを受け取る必要はないのです。

誰かが私たちを傷つける時、相手を不愉快な思いにさせたり、くどくど問題について言い続けたりすることで、相手に仕返しをしようとします。または、自分の人生

赦し-自分のための決断

から彼らを締め出し、彼らと関わることを拒むこともできます。これが自分の犯した間違いに対して相手から犠牲を求める、私たち人間のやり方です。しかし私たちに違う考え方があります。私たちは憐れみ深くになれるということです。

神様が私たちに求めていることは？

神様は、私たちが罪を犯す前からどういう罪を犯すのか全て知っています。神様は私たちの最初からの姿を知っていて、何からできているのか、どんな風に来ているのか知っていて、私たちに決して罪を犯さないようにとは求めています。神様が私の心に「ジョイス、あなたのことで驚いたりはしないよ。」って言ってくれたことは、私にとって大きな慰めでした。神様は決して私たちの困難によって驚くことはなく、私たちが問題にぶつかる前にすでに私たちを救い出す方法を計画してくれているのです。神様は決して私たちの間違いや肉的な考え方に驚くことはありません。神様はすでに憐れみ深くいることを決断しています。神様が要求することは、私たちが神様を愛し、神様の願いを求めることです。神様は私たちがすぐに悔い改めること、そして霊的な成長のために聖霊と取り組むことを願っているのです。まだ到達できていないことについて神様は腹を立てることはありませんが、完璧という目標に私たちが向かっていることを要求しているのです。

使徒パウロの最終的なゴールの一つは、過去を手放して、完璧という目標に向かって前進することでした。(ピリピ人への手紙3章13節)神様からの言葉を受け取り、新約聖書の3分の1を書いたパウロでさえ前に進もうとしていたことを想像してみてください。神様がこのパウロの例を聖書に加えてくれたことを感謝しています。とても励まされたのは、神様が私のことを完全に理解してくれている事に気付かせてくれたのです。さらに、私は霊が新しくされ生まれ変わった存在ですが、神様が私の霊にしてくれた素晴らしい働きに、今私の魂と体は追いつこうとしている状況である事に気付かせてくれたのです。

真実は、神様は私たちに決して間違いを犯さないようにとは要求しないということです。罪を犯すことなく生きられるとしたら、私たちにイエスは必要ないでしょう。しかし、私たちには毎日いつでもイエスが必要です。イエスは、神様の右の座に着き、私たちのために祈ってくれています。(ローマ人への手紙8章34節)私たちが罪を認め、悔い改めるならば、イエスは私たちの罪を赦し続けてくれます。(ヨハネの第一の手紙1章9節)神様は私たちの失敗のために確実に対策を整えてくれて、私たちがまだ全ての面で完璧ではないにも関わらず、神様の素晴らしい憐れみに

第13章 - 神様、私を憐れんでください

よって、私たちは神様との関係を保つことができます。

あなたが人々に求めていることは？

私たちは他の人に憐れみを与えることを求めていくべきです。人々は完璧ではなく間違いも犯します。彼らが私たちを傷つけ、失望させるでしょう。しかし、私たちも彼らに同じことをしているということが事実です。私たちが他の人を傷つけていることにはたいていの場合、気が付いていません。しかし、自分が傷つけられたことはよく気付くのです。

私は完璧ではありません。だとしたら、どうして周りの人たちから完璧を求めることができるでしょうか？私たちの不完全さが、神様が素早く赦すようにと私たちに教える理由だと心から思っています。神様は私たちの全ての間違いのために対策を用意してくれていて、私たちを赦し、私たちが喜んで赦したいと思うなら、他の人を赦す能力を与えてくれるのです。デイヴと私は、この本を書いている時点ですでに44年間結婚しています。その間、何千回もお互いを赦し合ってきました。そして、これからの残りの人生でも何度も何度もお互いに赦しが必要になるでしょう。

相手のどういう行動が自分を苛立たせたのかを相手に伝えることなく、お互いに憐れみを示すことを学んできました。お互いの間違いを見渡し、大目に見てあげることができるのです。それは素晴らしい考え方だと思います。

「私たちはみな、お互いが間違いを犯すことを容認することができます。」

自分を完全に低く考え（謙遜になり）、柔和に（自分中心ではなく、優しく、温厚に）なり、生活しなさい。忍耐をもってお互いを耐え、大目に見るのです。なぜならお互いに愛し合っているからです。

エペソ人への手紙4章2節（AMP訳からの直訳）

何年も前に、デイヴと私は「失敗しないように。」と相手にプレッシャーをかけることをやめました。神様がどれだけ私たちに憐れみを示してくれているかに気が付き、私たちもお互いのために同じことをしようと決断しました。お互いを大目に見るということは、長く続く良い結婚生活を送るための大きな助けとなりました。心をチェックしてください。あなたは夫や妻、家族、または友達に完璧になるようプレッシャーをかけていませんか。もしくは、自分を完璧に扱うようにプレッシャーをかけていませんか？あなたは厳しく、冷たく、要求が多い人ですか？人々の弱みを大目に

赦し - 自分のための決断

見てあげていますか？憐れみに寛大ですか？時々このような良い質問を自分自身に聞いてみることは良いことです。正直に答え、もし自分の態度がイエスの態度のようではなかったら、変わるようにイエスに助けてもらおうのです。

私たちは思いと態度を毎日新しくする必要があります。私たちが自動的に良い態度を常に持っているということはありません。時に私たちは物事を成り行きに任せ、神様の方法で物事を進めるという決心を新たにする必要があります。そのような状況にあなたがいるならば、恥ずかしがることは何もありません。神様の助けがあることを喜び、あなたを自由にする真理を見ているのだと喜んでください。

神様が弟子たちに求めることは？

イエスは、一緒に働くため、また働きのために用いるために、意図的に弱くて愚かな人を選びました。それによって、神様にだけ捧げられる称賛を彼らが受けることがないようにするためでした。ペテロはおしゃべりで、とてもプライドの高い人でした。プレッシャーを感じた時には、イエスの知り合いであることを3回も否定したことさえありました。しかしイエスは彼に憐れみと優しさを示しました。イエスは彼を赦し、ペテロは素晴らしい使徒となったのです。

トマスはイエスが言った多くのことを疑いました。しかしイエスはトマスに憐れみを示し、彼に働きかけ続けました。イエスは、トマスが疑いと不信仰にはまっていた時に彼と会い、死から復活した後の釘にさされた手を彼に見せました。トマスは見るまで信じないと言い、イエスは彼の疑いの態度を非難する代わりに、トマスが見る必要があったものを彼に見せたのです。

弟子たちは、イエスと共に旅をしていたグループとしてはおかしい行動を時に見せていました。誰が一番優れているか口論をしたこともありました。イエスが弟子たちを必要とし、1時間一緒に祈って欲しいとイエスに頼まれた時、眠ってしまったこともありました。

彼らは不完全でしたが、イエスは彼らを選んだ時にそれを知っていました。イエスは彼の死と復活の後に福音を当時の世界に伝える12人の弟子を選ぶ前、一晩中かけて祈りました。不完全で、知恵が欠けていて、疑い深く、プライドが高く、いつもお互い口論していて、お互いのことを何度赦さなければいけないのか知りたがっている12人の弟子たちを想像してみてください。まるで私たちのような人たちですよ。

第13章 - 神様、私を憐れんでください

憐れみを受け取ることを知る

私のように、あなたも自分がとても不完全で、たくさんの憐れみが必要であることを分かっていると思います。神様は憐れみを与える準備をしています。しかしそれをどのように受け取ったらよいのか知っていますか？自分の罪を赦してくれるよう神様に求めるかもしれませんが、自分たち自身を赦すことによって神様からの赦しを受け取っていますか？自分に対して、過去の罪を持ち続けてはいませんか？私は何年もそのような状態でした。そのために、他の人に憐れみを示すことができずにいました。よく言うのですが、「私たちは持っていないものをあげることはできないのです。」

憐れみを受け取ったことはありますか？この本を読みながら、心から悔い改めたことに対してまだ罪悪感を持っていることがありますか？神様に憐れみを求めるために時間を取り、それと同じくらい大切である、神様から憐れみを受け取る時間を取っていますか？憐れみはギフトです。私たちが受け取らない限りその贈り物には価値がありません。イエスは、「求めなさい。そうすれば受けるのです。それはあなたがたの喜びが満ち満ちたものとなるためです。」(ヨハネによる福音書16章24節 新改訳)と言いました。たくさん求めている、少ししか受け取っていないのではないのでしょうか？もしそうであれば、変える時です。神様はキリストにあって私たちに必要な全てのことを果たしてくれました。それを信仰によって受け取るかどうかは私たち次第なのです。神様のとてつもなく素晴らしい憐れみを受け取ることを学ぶなら、私たちはそれを他の人に与えることができるようになるのです。

憐れみ深い姿勢のクリスチャン

憐れみは理解する

イエスは、私たちの弱さや欠点を理解してくれる憐れみ深い大祭司です。なぜなら、イエスは私たちと同じように全ての面で試されましたが、罪を決して犯さなかったからです。(ヘブル人への手紙4章15節)イエスが私を理解してくれるという事実が大好きです。私たちはみなそれぞれに弱さがあり、他の人々も間違いを犯し、憐れみと赦しが必要であるということも理解しなければいけません。理解する心を持つということは、憐れみが持っている美しい性質の一つです。あなたを不当に扱う人がいたら、理解する人になろうとしてください。もしかしたらその人は体調が悪いか、職場であまりうまくいかなかったのかもしれませんが。不法な行為はもちろん正

赦し - 自分のための決断

しいことではありません。しかし、優しい言葉は怒りを寄せ付けないということを忘れないでください。優しさには怒りをそらす力があります。なぜなら善はいつも悪に打ち勝つからです。(ローマ人への手紙12章21節)

私が子どもの頃に受けた性的虐待からの回復を通して、デイブは私に対してとても理解を示してくれていました。もし彼が憐れみを示してくれていなかったら、私たちの結婚はおそらく続いてはおらず、神様が私たちに用意した最高の計画も逃していたことでしょう。あなたの人生において、もう少し理解することを努力してみようと思える人はいますか？彼らの話を聞いてみてください。たいてい、反社会的な行動をしてしまう人は、人生で傷つき、そこから癒されていないということです。

人々の人生の背景を知れば知るほど、彼らがとる望ましくない行動についてもっと簡単に理解することができるようになります。

憐れみは人々の過ちを暴露しない

聖霊によって導かれていない人は、悪い情報を拡散するという病的な好みがあり、特に他の人がやってしまった間違っただけのことを言いふらすのです。聖書では、愛は多くの罪を覆うと言っています。(ペテロの第一の手紙4章8節)

憎しみは争いをひき起こし、愛はすべてのそむきの罪をおお。

箴言10章12節(新改訳)

私たちが心を留めるならば、聖書の箴言は人生をより良いものにしてくれる知恵の核心です。この箴言は、罪を暴露するのではなく罪を覆うべきであるということについて新約聖書でペテロが言ったことを裏付けてくれるものです。

ヨセフが、兄弟から受けた不当な扱いについて対応する機会がやっと与えられた時、彼は人目のつかない所でこれをしました。(創世記45章1節)兄弟たちが訪れた時、他の人々に部屋を出るように言いました。なぜなら、彼らがヨセフにしたことを誰にも知られたくなかったからです。ヨセフは、兄弟たちを完全に赦す準備ができていただけでなく、人々が彼らを気に入り、敬意を払うことができるように、彼らの罪を隠してあげたのです。彼らを辱めることはしたくなかったのです。ヨセフが持っていたこのような素晴らしい性質を見ると、神様がなぜ彼をこのように大いに用いることができたのかを理解することができます。神様に本当に用いてもらいたいならば、憐れみ深い姿勢を持つ必要があります。

第13章 - 神様、私を憐れんでください

私たちを傷つけた人に対して、私たちが何かを抱えているならば、話し合うためにその人の所へ個人的に行く必要があります。(マタイによる福音書18章15節)その人が聞く耳を持たないなら、他の人を一緒に連れて行くように教えており、相手の思いと心が正しく改善するように希望を持って話に行くのです。

自分がしてもらいたいことを他の人にもしましょう。もしあなたが間違いを犯したとしたら、そのことを広めてもらいたいのですか、それとも広めずに留めておいて欲しいのですか?私は自分がどうして欲しいのか分かっているのです、既に答えがあります。自分の罪が覆われることを願っていますし、みなさんも同じだと思います。

憐れみは裁かない

間違いを犯す人々を裁いて批判することは簡単ですが、賢いことではありません。私たちは、人々を裁くためではなく、助けるために呼ばれているのです。この本でも先に話しましたが、私たちはその罪が何であるのかを判断します。しかしそれを犯した人を裁くべきではありません。なぜなら、私たちには彼らの心や、彼らが人生でどのような状況を通っているのか分からないからです。

憐れみは裁きより遥かに素晴らしいものです。

あわれみを示したことの無い者に対するさばきは、あわれみのないさばきです。(喜びの自信に溢れた)あわれみは、さばきに向かって勝ち誇るのです。

ヤコブの手紙2章13節(新改訳一部補足)

裁くことは人間的ですが、憐れみを与えることは神様が喜ぶことです。憐れみ深い態度を向上させていくことができるように、神様に助けを求めてください。そして自分の人生に憐れみの特性を取り入れていきましょう。裁くことは、自分を神様のように仕立てるといことです。神様だけが人々を裁く権利を持っています。なぜなら神様だけが全ての真相を知っている唯一の存在だからです。他の人の人生において神になろうとすることで罪に定められたくないのです、裁くことを避けるために必死に努力します。実を言えば、いつもそのように考えてきた訳ではありませんでした。私は長い間ずっと批判的な人でしたが、素晴らしいニュースは、神様の助けによって私たちはみな変わることができるということです。

憐れみはベストを信じる

愛は、全ての人のベストを信じ、憐れみは愛の性質です。憐れみは、公平な裁き

赦し - 自分のための決断

なしには意見を述べたりはしません。憐れみは、ただの噂ではなく真実を求めます。ある人が他の人の悪口を言ってくるのは好きではありません。特に、それが事実とも分からないただの噂であるならなおさらです。最悪な話を聞いた後でも、最善を信じるようにしようと努力します。誰かに対する非難がはっきりするまで、私たちは最善を信じるべきなのです。

私は自分のしたことではない事に対し、公然に非難されたことがあります。そんな中、「ジョイスがそんな事をするなんて、私は信じない。」と言ってくれた人々に心から感謝しました。聞いた事をそのまま真に受け、それに付け加え、醜い噂を他の人に広めた人々の事は快く思いませんでした。

疑い深くなって、誰かの悪い話を全て信じてしまうより、人々の最善を信じる方がより幸せでいる事ができます。

憐れみは全ての人のためにある

自分が愛している人や、良い人間関係が築けている人に対して憐れみを示すことはより簡単であると気付きました。憐れみ深く接する必要がある人が特に自分が気にかけている人でなかった時、憐れみを示す事はより難しくなります。しかし、本物の憐れみは全ての人に憐れみ深いのです。憐れみ深い態度とは、スイッチを入れたり消したりできるようなものではなく、私たちの性質の一部…私たちそのものなのです。「私は憐れみを行う」とは決して言わず、「私は憐れみ深い」と言います。

平等は神様にとって重要なことです。神様はえこひいきをする方ではないですし、私たちがえこひいきをする事も望んでいません。全ての人が平等に神様にとって重要なのです。全ての人が神様の子どもで、全ての人に憐れみを与えます。この地上で神様を表す者として、私たちは同じ事をするよう努力するべきなのです。あなたがどのように「感じる」かによって行動するのではなく、憐れみ深くなりましょう。そうすれば、あなたの人生はより豊かになるのです。

聖書には、良いサマリア人と一般的に呼ばれている話を見ることができます。怪我をし、道ばたに横たわっている人を助けるために足を止めた人の話です。全く知らない人でしたが、その人は、自分の時間とお金を使ってその傷ついた人を助けました。(ルカによる福音書10章27-37節)本当に、憐れみ深い人は、知っている人や、好きな人、好印象を与えたい人のためだけではなく、全ての人に憐れみを示します。この「良いサマリア人」は単純に、気付き、立ち止まり、会ったこともない、またどこで会うかも分からない人に憐れみを示したことで、神様の目に素晴らしい人とされたのです。この良いサマリア人は、怪我をした人を助けるために、時間とお金を

第13章 - 神様、私を憐れんでください

費やしましたが、その行為に対し、彼は何も受け取りませんでした。それでも彼は正しいことをしたのです。正しいことをする時はいつでも、内側に平安が与えられ、正しい時に報酬を受け取ります。もっと多くの人々を助けましょう。神様の憐れみと、私たちが受けるに値しなかった素晴らしい神様の優しさを示していきましょう。この世にはもっと多くの「良いサマリア人」が必要であると、みんなが賛同すると思います。まず私たちから始めましょう。

第14章

あなたの重荷を軽くする

最近観た映画の話ですが、ある秘密を持っている男性のストーリーで、もしその秘密を明かすならば、無実の罪で終身刑を言い渡されている男性を解放することができるというものでした。しかし、秘密を持っている彼自身にも逮捕状が出ている状態だったので、もし彼がその秘密を明かしたならば、大きな困難に巻き込まれる可能性があります。彼は、なぜ自分に全く関係のない人を自由にするために、表に出て自分を危険にさらさなければいけないのか聞きました。彼に正直になるように促していた弁護士は、「君がもし真実を言うなら、自分から重荷を取ることができて、人生をかけて背負わなければいけない重荷を減らすことができるからだ。」と言いました。彼が言っていたことは、「自分のために正しいことをしよう。」と言うことだったのです。

人生の中で起こるあらゆる状況に対して、私たちはどのように反応するのか、私たちは選び続けるのです。神様は、私たちが正しい選択をするように聖書の中で嘆願していますが、それでもその選択権は私たちに任せているのです。私たちが自分たちの「敵」として分類する人々を赦すかどうかは、私たちが人生で頻繁に直面する選択の一つです。正しい選択をするならば、私たちは重荷を軽くしますが、間違った選択をするならば、私たちは重荷を増やし、自分自身を苦しめてしまうのです。

怒った王は、借金を免除してやった男を呼びつけて、言いました。『この人でなしめっ！おまえがあんなに頼んだからこそ、あれほど多額の借金も全部免除してやったのだ。自分があわれんでもらったように、ほかの人をあわれんであげるべきではなかったのかっ！』そして、借金を全額返済し終えるまで、男を牢に放り込んでおきました。あなたがたも、心から友達を赦さないなら、天の父も、あなたがたに同じようになさるのです。

マタイによる福音書18章32-35節(リビング訳)

聖書でこの話が書かれている章は、ペテロがイエスに、兄弟が自分に罪を犯し

赦し - 自分のための決断

た時に何度まで赦す必要があるのかと聞いた場面が書かれている章です。今日に置き換えれば合計で100万円ほどのお金を王から借りていた男の話を、イエスがペテロにしたのです。王がお金の精算を行おうとしていましたが、この男は返済することができず、憐れみを願いました。王の心は深い同情で動かされ、その借金を赦して(無効にして)あげました。借金を赦されたばかりのその男は出て行き、自分に2,000円ほどの借りがある人を見つけ、手でその人の首を絞め、お金を返すように要求したのです。

男に借金をしていた人は倒れ、憐れみを求め始めましたが、男は自分が赦してもらったようには赦さず、彼を牢に入れてしまいました。それを見ていた男の主人は、王から受けた憐れみを思い出すよう男に言い、男が赦す心を持っていなかったので、拷問にかけられるだろうと言いました。

イエスが伝えたこのストーリーから私たちは熱心に学ぶべきです。このストーリーは、私がこの本で言おうとしていることを要約しています。人が私たちに対してどれだけ多くの借りがあったとしても、神様はそれ以上に私たちの借りを赦してくれているのです。従って、私たちは神様のように、憐れみ深く赦してあげられる人になることを学ばなければいけません。私たちを傷つけたことに対して、「賠償」を払わせようとするべきではありません。イエスは私たちの借りを全て支払い、私たちを惜しみなく赦してくれました。そして、人々に対し、私たちが同じようにふるまうことを神様は願っておられるのです。私たちがそれを行わないならば、イエスがマタイによる福音書18章で言っているように、私たちは魂において苦しみを受けます。正しいことをすることと赦すことによって私たちは、重荷を軽くすることができるのです。

ラルフ・ウォルド・エマーソンは、このように言っています。「あなたが腹を立てている1分間で、60秒分の幸せを逃している。」怒りにしがみつくと私たちが喜びを放棄していることは事実で、自分の実体験からも、そんなことは価値がないことだと私も言えます。マルクス・アウレリウスは、「怒りの原因よりも、怒りの結果の方がより痛ましい。」と言いました。最初は大したことのない出来事に腹を立てるかもしれませんが、腹を立てた相手についてネガティブな考えをもってその怒りの火花に燃料を注いしまうと、怒りの結果は、最初の原因よりも確実により痛ましいものになってしまいます。「一瞬の怒りを耐えるならば、百日の悲しみを免れるだろう。」という中国のことわざのように生きるべきなのかもしれません。

何世紀にも渡り、多くの男性、女性が赦さないことの苦しみと、赦すことの喜びを体験してきました。ここに彼らが言い残したことをいくつか挙げます。

第14章 - あなたの重荷を軽くする

「自分の怒りを間違いだと分かっている怒る人は決していません。」

—フランシスコ・サレジオ

「腹を立てたり悲しんだ出来事よりも、持ち続ける怒りや悲しみの方がもっとあなたを苦しめます。」

—マルクス・アントニウス

「抑制しなければ、怒りを引き起こす傷よりも、怒りそのものの方が私たちを傷つけます。」

—セネカ

「怒りがきっかけで始まったことは、恥に終わります。」

—ベンジャミン・フランクリン

「かっとなる人は良い結果にはたどり着けません。」—ウィル・ロジャーズ

「赦しに過去を変える力はありませんが、赦しは将来を広げます。」

—ポール・ペーゼ

「結婚の3割は愛、7割は赦しです。」

—老子

「赦すことは、最も優れた、最も美しい愛の形です。その見返りに計り知れない平安と幸せを受け取ります。」

—ロバート・ミュラー

「あなたを傷つけた相手を思い出し、その人の幸福を願う力を感じた時、赦しが始まったと分かります。」

—ルイス・スメズ

怒りが上昇中

怒りについての統計を調べると、怒りは私たちの周りにたくさんあるものなのだと思います。怒りについての調査に参加したほぼ3割(32%)の人が、怒りをうまくコントロールできない友達や家族がいると答えました。5人に1人(20%)は、腹を立てたときの行動のせいで、人間関係や友人関係を失ったことがあると答えました。もしあなたが怒りっぽい人なのであれば、あなたが愛している人々があなたとは付き合いたくないと思っているかもしれないということ、そして、あなたの短気に耐えたいとは思っていないかもしれないということに気付くべきなのです。悲しいことに、私たちは一番愛している人たちに対し、不機嫌な態度をよく取ってしまうのです。彼らが赦し続けて、理解し続けてくれると勘違いしてしまうのでしょうか。

赦し - 自分のための決断

し、それは長くは続かないかもしれません。全ての人に限界があり、その限界を超えてしまうと、そのダメージは多くの場合、取り返しのつかないものとなります。

現代では、人々が腹を立ててしまういくつかの理由はとても馬鹿げています。自分の携帯電話がうまく機能しないと人々は怒り、部屋の向こう側へ携帯を投げつけたり、池に投げ入れたりします。運転している時に電話をかけたいなら、道路脇にある公衆電話を見つけなければいけない時代があったのを覚えています。車を停めて、車から降りて、小銭を持っていなければいけなかったのです。気候が暑かったり、悪かったりすると、その不快な空間を我慢しなければいけませんでした。外出中に電話をかけたい時はそうするのが当たり前だったので、そのことについて特に気にもしませんでした。現代では、運転していて、電波が届かない地域に入ってしまうと、電話がかけられるまで数分待たなければいけないだけで怒るのです。

現代では、「運転中の割り込みや追い抜きに激怒する人」「インターネット利用時に問題が発生し激怒する人」「職場で激怒する人」などがあります。イエスが神様に喜ばれない行為と呼んでいたようなことは、現代では感情障害と呼び、カウンセリングが必要になります。自制が欠けていることへ、ただ言い訳をしているのでしょうか？常に全てのことが自分の思う通りになるべきであると思うくらい、私たちは完全な自己中心的な人間になってしまったのでしょうか？

多くの人は不幸せなために怒り、怒っているために不幸せになります。それはさらなる怒りを引き起こす、たちの悪い循環になっていきます。唯一の答えは、正しい（聖書的な）考え方で、人生で私たちがイライラさせる物事や人々を赦すという意欲にあると心から信じています。

2006年7月16日のサンデータイムマガジンによれば、45%の人が定期的に職場でカッと激怒してしまうのだそうです。彼らは人々に腹を立てるのです！一緒に働く人、職場の上司、就業規則を作る人たちに腹を立てるのです。もしあなたが怒りっぽい人なら、あなたと一緒に怒ってくれる人を見つけるのは難しいことはありません。

オフィスで仕事をするイギリス人の64%が、職場で激怒してしまうそうです。このような問題はおそらく裕福な国々でよく起こっているように思えます。私はインドの貧困を抱えている地域やアフリカに何度か訪れたことがあります。祝福なことに仕事を持っているインドの人は1日1ドル以下の賃金で働いていることが多いのです。女性は静かに来る日も来る日も暑い太陽の下で店主のために道を掃く仕事をします。そんな彼女は「道を掃きながら激怒する人」ではありません。物があればあるほど、もっと怒りっぽくなっているように思えるのです。40年前は携帯電話やパソ

第14章 - あなたの重荷を軽くする

コンに腹を立てることなんてありませんでした。それらを持っていなかったからです。人生はそんなにストレスの多いものではありませんでした。人々もそこまで怒りっぽくはなかったのです。私たちは本当に前進してきたのでしょうか？ある面では前進したでしょう。しかし他の面では無惨にもそれてしまいました。

現在のインターネットユーザーの71%がインターネットの利用時に激怒してしまうことに苦しんでいることを認め、50%がパソコンのトラブル時にパソコンを叩いたり、周辺機器を投げたり、同僚をいじめたりして反応したことがあると認めました。これがそんなに悲しいことでないならば、面白いコメディになるでしょう。イギリス人の最低でも33%の人が近所と話をする仲ではなく、そのパーセンテージはアメリカやその他、いわゆる世界的にも文明国と言われる地域でも同じでしょう。

運転する人の80%以上が、運転中に激怒しそうになってしまったことがあると言ひ、25%の人が運転中に激怒したことがあると言ひました。誰もわざと運転中の車線変更時に方向指示器を使い忘れたり、わざと隣の車線に割り込んでしまったりというミスを行おうとしている訳ではありません。欠点のある運転手のせいで自分が不便さや不快さを感じてしまうと、激怒してしまうような人がいるのです。

世界はこのままで進んでいきます。良い方向に変わっていくようにも思えます。しかし、私たちが直面する問題にたいして答えがないまま放置されているではありません。この世が変わらなくても、私たちは変わることができます。外から来る刺激に対してどのような反応をするのか、それぞれが責任を持ち、平和と調和の人生を生きる選択をすることができます。毎日、100回赦さなければいけないかもしれません。しかし、内側で怒りが煮えくり返ったり、結局は恥をかいしてしまうような方法で怒りを表すよりは100回赦す方がより良いことなのです。

そっちに行ってはダメ

狭い門を通らなければ、天国に入れません。人を滅びに導く道は広く、大ぜいの人がある楽な道を進み、広い門から入って行きます。しかし、いのちに至る門は小さく、その道は狭いので、ほんのわずかな人しか見つけることができません。

マタイによる福音書7章13-14節(リビング訳)

この聖書箇所からもわかるように、私たちの人生において2通りの道があります。そのうちの1つの道は広くて通りやすい道です。その道にはすべての感情をさらけ出す余裕があり、多くの人々もそこを歩んでいるので、寂しい思いをすることはあ

赦し - 自分のための決断

りません。この広い道では、すべての怒り、苦み、恨み、そして赦さない心を持ちこむことができ、滅びへと導かれるのです。さあ、もう一度この聖書箇所を読んでみましょう。そうです、この道は滅びに導くのです。もう1つ別の道を選ぶこともできます…その道はイエスが歩んだ道です。

歴史の中には、狭い道を選んだ男性や女性の歩みが点在しています。みな多くの人知っていて、自分たちの人生の模範にしたいと思う人々です。あなたはどうかわかりませんが、私は決してヒトラーや、ボストンであった連続絞殺事件の犯人のようにになりたいとは思いません。彼らは色々な苦しみを抱えた怒った人々で、それによって人々を苦しめる人となったのです。間違った道を選んでしまった結果、彼らの人生が滅びへ向かって行ってしまったということ、私たちは容易に見ることができます。決して彼らのようにになりたいとは思いません。私はルツ、エステル、ヨセフ、またはパウロのようにになりたいと思いました。ヨセフのストーリーを読み、何年もの間、何度も読み返し、彼が現した赦しの態度を学びました。ヨセフは狭い道を選んで、彼が生きている間に神様は彼を大いに祝福し、彼の子孫も祝福したのです。

私たちが今日味わっている祝福は誰かの犠牲と痛みをもって支払われたものです。私を性的に虐待した父親を赦すために神様から恵みを受け取ったので、私の子ども、孫、そしてひ孫はより良い人生を歩むと信じています。広い道を通ることもできました。その道は私の目の前で私を見据え、「こっちを通りなよ。あんなにつらい経験をしたんだから、簡単な道を選ぶ権利があるよ」と呼びかけていました。しかし、その道は私をだまそうとしていたのです。初めは楽な道に見えるのですが、その終わりは悲惨な状態に悲惨さを増すだけなのです。

この本の最終章で、神様がどのように私を導き、父親を赦すように教えてくれたのかについて、全てをお話したいと思っていますが、この時点では、私はいのちへ導く狭い道を選んだとだけ言うておきましょう。その道は、孤独に感じる事が多く、楽な道のりではありませんでした。しかし、もうこれ以上先には進めないと思う時に、前でイエスが、「私についてきなさい。平安のある場所へあなたを導いているのだ。」と言っているのを見ていました。

現状の人生に腹を立て、苦みに留まりたいという思いに駆られる時、(たいていの場合声に出して)自分にこう語りかけるのです。「ジョイス、そっちに行つてはダメ。」私たちは、苦い思いの暗い水に自分自身が落ちていくように感じる事があられるでしょう。ある程度深い所まで行ってしまうと、淀んだ水が私たちの頭を覆うまでになり、私たちを下へ、下へと押し込んでいきます。鬱、自己憐憫、そしてその他のネ

第14章 - あなたの重荷を軽くする

ガティブな感情達が私たちの仲間となるのです。

「そっち」という場所

「そっち」という場所を、私は通ってきました。もしかすると、ある人はまだ「そっち」で生きている人もいるでしょう。そこは広大な場所ですが、なぜかそこでの自分の人生はとても小さく縛られているように感じているでしょう。「そっち」には巨大な山があり、その山が場所のほとんどを占めています。あなたはその山の周りを何度も回って時間を費やしますが、何の前進をすることもできずにいます。「そっち」で生きていくためにしなければいけないことは、感情に従うということだけです。自分の思い通りにいかなければ怒って、人々が自分を不当に扱ったら怒って、彼らを赦しません。憐れみ深くはなりません。そうすることで、「そっち」で重要な場所を手に入れることができるのです。

イスラエル人は「そっち」で40年間も過ごしていました。彼らはそこを荒野と呼びましたが、私は「そっち」と呼びます。「そっち」は私たちが何度もいたことのある場所で、私たちを惨めにし、イエスが私たちに歩んでほしいと願っている質の高い人生を奪ってしまう場所です。それは、自己憐憫、自己中心、貪欲、怒り、恨み、嫌悪、復讐、嫉妬というようなものです。「そっち」に当てはまる名前ももっとたくさんありますが、「そっち」に生きる結果はすべて同じで、惨めさ、苦難、失望、そして虚無感などがこの広い場所の雰囲気を満たし、滅びへと導くのです。

先ほど言った通り、「そっち」から抜け出し、「そっち」を遠ざける決断をするまで、私は「そっち」に長い間生きていました。私の感情がそこへ私を戻そうとする時、神様からの恵みと力に助けを求めながら、それらの感情に対抗しなければいけませんでした。もう「そっち」で1日を無駄にすることなどできなかつたのです。

「そっち」は他のせいにする!

イスラエルの人々は敵を非難しました。彼らが不幸せであること、惨めであることを、いつも何かの敵のせいにしたのです。彼らにあった本当の唯一の敵は、彼らの悪い態度だったのです。彼らは不信仰で、不満を言い、欲張りで、嫉妬深く、感謝の心がなく、心配性で、自己憐憫で、怒りっぽく、忍耐ができない人々でした。自分のすべての問題を誰かのせいに行きたら自分は楽かもしれません。「誰か」に問題がある限り、私たちは自分を見直す必要も、自分の行動に対する責任を取る必要も

赦し-自分のための決断

ないのです。

長い間、私は、父親の行動に対する自分の反応よりも、父親が私にしたことばかりに目を留めていました。神様は私に答えをくれましたが、神様の方法は、私が「そっち」から抜け出し、「誰か」が悪いのだという考えをやめるということの意味していました。父親が私をひどい目に遭わせ傷つけたことは確かですが、神様は私に癒しと回復を与えようとしていました…その選択権は私にあったのです!あなたも今同じような人生の岐路に立っているのでしょうか?もしそうであれば、その滅びへと続く広い道を降りて、いのちへと続く狭い道に入るようにと心から願います。

私たち自身の問題の責任を、私たちが押し付けてしまう「彼ら」とは誰なのでしょう?自分や他の人が話しているのを聞くと、「彼ら」が私たちの人生をめちゃくちゃにし、「彼ら」がそれを元通りにすべきであるように聞こえるでしょう。「彼ら」がやって、「彼ら」が言って、「彼ら」がどうするか、「彼ら」が何をしないのか、不安になるのです。しかし、「彼ら」とは誰ですか?「彼ら」はいつでも、どこでも、誰にでも可能性があります。もし私たちが正しい道にいつづけ、イエスに従い続けるならば、「彼ら」に私たちを傷つける力などないということが事実です。イエスこそが、言い表せないほどの喜び、理解を超えた平安、言葉では説明できないくらい素晴らしい人生への道なのです。自分の惨めな状態を「彼ら」のせいにしながら「そっち」で生きていた時のことを考えると、イエスを通して神様が私たちに与えてくれるものについて、何冊も本を書きたいと思えるほどです。あなたに真理を知ってもらいたいです。なぜならその真理があなたを自由にするからです。真理は、誰かがあなたを傷つけたとしても、怒って苦みや恨みで心をいっぱいにする必要はないということです。あなたには別の選択肢があります。赦せるのです!今度あなたの感情が爆発し、「赦さない心」と呼ばれる場所へ招かれたとしても、「そっち」には行かないと決心しててください。

人生で何が起こったとしても、良い態度を保ってください。パウロは貧しさのなかにあっても、豊かさの中にあっても、満たされることを学んだと言いました。(ペリピ人への手紙4章11節)パウロも私たちと同じ方法で学んだのだと確信しています。正しい選択をする知恵を見つけるまで、間違った選択をした惨めさを彼も何度も経験したでしょう。良い選択をしたときに、彼は満たされたのです。

傷つくことはある

人々や状況によって傷つけられる機会がありますが、私たちは「そっち」へ行く

第14章 - あなたの重荷を軽くする

必要はありません。ではどのように反応しますか?「彼ら」を責めますか?それとも自分の態度に責任を持ちますか?聖書は私たちに、用心して心を守るようにと教えています。(箴言4章23節)神様や人々に対する怒りから自分の心を守るために、聖霊と一緒に取り組む責任が私たちにはあります。勝者は傷から目を背けます。ダビデ王も人生の中で何度もそれを実行しました。

神様の前に立ち、なぜ「そっち」で生きることで人生を無駄にしたのかという質問に答える準備はできていますか?「彼ら」が私にそうさせたと言って、神様にそれを受け入れてもらえenと思いますか?それよりも良い方法を知っているはずです。それぞれの人生で行動を起こし、怒りや苦みに生きないという決断をする時なのです。

「そっち」に導く道は広い道で、入って行くまでは広くて楽に進める道だとしても、その先はとても狭い場所のように感じるでしょう。そこには巨大な山があり、「そっち」でしていくことは惨めになることだけなのです!

「そっち」にいたことがある、今「そっち」にいるという人は、その状況がどれだけ自分を惨めにしているかわかるでしょう。「そっち」から抜け出しましょう。そして、「もう二度と戻らない!」と言って出てくるのです。

第15章

神様からの報酬

聖書によると、信仰がなければ私たちは神様を喜ばせることはできません。神様のもとへ来る人は、神様がいて信じなければいけません。また、神様を探し求める人に神様は報いてくれる神様なのだ信じなければいけません。(ヘブル人への手紙11章6節)

神様は報いてくれる方です!この考え方は素晴らしいですよ!私たちは一所懸命やったことに、報酬を期待します。赦す人生を生きることは大変な事であると認めます。赦す人生とは、何回か正しく対応できても、その後ずっと大丈夫というわけではありません。そして、それは人生を通してずっと対応していかなければいけないことで、自分たちが思っている以上に人生で赦さなければいけない状況は起るのです。私は何か難しいことに対応している時は、この痛みの向こう側には報酬が待っているということを思い起こします。

週に3回ジムで体を鍛えている人は、たとえそれがつらくて筋肉痛になったとしても、たるんだ体の代わりに筋肉質の健康な体を手に入れられる、という報酬を楽しみにしているのです。

私たちは給料という報酬のために働きます。家で食事をするという報酬のために買い物へ行きます。報酬の約束がなければ、私たちは人生で努力することなどあまりないと思うのです。善い行いであろうと悪い行いであろうと、人生で行ったことに対してすべての人が報いを得ると神様は言っています。(黙示録22章12節)神様は、アブラハムに家族と故郷を置いて、神様が示す地に行くようにと命じました。アブラハムの従順さに、神様が報いと約束をしたのです。(創世記12章1-2節、15章1節)

子どもが学校ですべてのテストに合格すれば、報いとして卒業することができます。私たちもこの人生のテストに合格しなければいけません。赦しは、そのうちの1つのテストで、とても重要なテストです。そのテストに合格する時、神様からの報酬を受け取ります。報酬は色んな形で現れるでしょう。平安と喜びという形で来ることもあれば、人生における何らかの前進という形で来ることもあるでしょう。ヨセフ

赦し-自分のための決断

は、エジプトでの力と権威の役職に昇進させられる前に、赦しのテストに合格する必要がありました。人生での昇進を求めているのに、まだ怒ったままですか？もしそうならば、報酬を逃してしまいます。

私たちにはそれぞれ違うストーリーがありますが、この本では、私自身のストーリーをお伝えし、それが何かの役に立つことを祈っています。

* * *

私は1943年6月3日に生まれました。私が生まれた日、父親は第二次世界大戦の兵士として海外へ向けて船に乗っていました。3歳になるまで、父親とはもう二度と会えないと言われていました。父親に対していつも恐怖感を抱いていたのを感じています。どんなことにも怒り、いつも叫んでいる人のようでした。もちろん、母や私は、自分たちのしたことが彼の怒りを買っていると思い込んでいましたが、私たちが何をやろうと関係なく、何かにつけて怒っていたようにも思えました。私が9歳になるまでは、母親と私が、老いた父親と家に住んでいる状況でしたが、その後、弟が加わりました。

そのころには父親はすでに定期的に私にみだらなことをしていました。母親が出産を迎えた時、心の中で赤ちゃんが女の子であるようにと願っていたのを感じています。幼い愚かさの中で、もし赤ちゃんが女の子だったら、父親が私よりも妹を気に入り、気持ちが悪くて自分を汚く感じてしまうような行為を父親がやめてくれるのではないかと思ったのです。

赤ちゃんは男の子で、女の子ではありませんでした。しばらくの間、そのせいで私は弟を恨んでいたと思います。しかしその後仲良くなり、デイビッドと名付けられた弟は家族の中で唯一の友達だと思ようになりました。弟は、父親が私に何をしていたのかは知りませんでしたが、彼も彼なりに戦っていることがありました。彼は父親の怒りの矛先になり、若いころから酒を飲み始め、薬物をやり始めていました。彼は17歳の時、海兵隊へ入隊し、ベトナム戦争で戦い、そのあと彼は全くの別人になっていました。(これを今書きながらとても悲しくなりました。後に弟は57歳の時にカリフォルニアのホームレス避難所で死んでいるのが発見されたのです。)

ある人は、「ジョイスは、ミニストリーを通して世界中の人を助ける働きをしているのに、なぜ、自分の弟はホームレス避難所で暮らしていたのだらう？」と考えているでしょう。弟は命に導く狭い道を歩くことを拒んだので、ホームレス避難所にいることになったのです。彼の人生の要所で何度も彼を助けました。何年か彼を私たちの家

第15章 - 神様からの報酬

に住ませたこともあります。しかし、結果はいつも同じでした。彼はある時、私にこう言いました。「お姉ちゃん、俺は別に悪い人間じゃないけど、ただ馬鹿なんだよ。」

彼は自分が間違っただけの選択をしていることをわかっていましたが、私には彼がなぜそれをし続けるのか、理解ができませんでした。弟の人生と私の人生は面白いくらい対照的であると思います。神様の恵みによって、私は狭い道を選び、今の私の人生は神様からの報酬で満たされています。私は幸せですし、満たされていて、祝福され、神様の愛と赦し、そして神様からの報酬を人々が知るようになる手助けができる特権を与えられています。弟は広い道を選び、それは滅びへとつながり、神様からの報酬を完全に体験することはなく、57歳で生涯を閉じました。彼は人生を無駄にし、誰も彼を止めることはできなかったのだと、心底思います。私たちと住んでいた何年間かは、良い時期を過ごしていましたが、一人で人生を歩み始めた時から、悪い選択と悪い結果に後戻りしてしまったのです。

私たちは2人とも子どもの頃に傷つき、神様は私たち両方に助けと回復を与えたのです。しかし、それぞれの決断によって、私たちは全く異なった場所にたどり着きました。神様は私たちを両方とも愛していました。そして、今も愛してくれています。しかし、デビッドが多くの良いものを逃してしまったことを神様は悲しんでいると、私は分かっています。私も同じように悲しいのです。しかし、これが人々に真実を伝え続けるという、より固い決心をさせてくれます。私たちは善をもって悪に打ち勝ちます。(ローマ人への手紙12章21節)そして、弟の死に対する私の反応は、「できる限り多くの人々を助けるために私はもっと前進して行く」というものしかありません。もしあなたが無気力になってしまうような失望を体験したのならば、それを拒否し、以前よりも強くなってその心の痛みから出てくる決断をしてください。失望によって苦々しい心になったりしないでください。そうではなく、それを通してより良い自分になっていくのです。

私の父親は、記憶がある頃から18歳で家を出るまでの長い間、私を性的に虐待していました。13歳から18歳の間で、控えめに数えても最低200回は私をレイプしたのです。それ以前にも私にみだらな事をしていました。父親は肉体的に私を強制することはありませんでした。恐れと脅しで私を強制し、その影響は残忍なほどでした。

母親に助けを求めましたが、彼女は私が言っていることをどのように対処しているのか分からず、私のことを信じず何もしないということを選んだのです。彼女は私に謝りましたが、それをするのに30年もかかり、私はすでに神様の助けによって回復していました。私には、私を虐待した父親と、私を見捨てた母親がいました。そ

赦し-自分のための決断

して、彼らを完全に赦さなければいけないと示す神様と私は出会ってしまったのです。残りのストーリーに行く前に、一度止まって、少し考えてみるのもいいかもしれませんね。

神様は犠牲ではなく従順を求めている

私は「自分の敵を赦します。」と祈り、ある程度までは赦していました。神様は「傷ついた人は、人は傷つける」ということを私に教えました。私の父親は彼自身が傷ついた、惨めな人で、自分の家系にあった性的不品行からくる、性欲の霊で満ちていました。私は自分にたくさん言い聞かせ、たくさん祈り、父親を嫌うことをやめました。さらに長い道のりが待っているということに、何年も時が経つまで気が付いていませんでした。神様に犠牲を払いました。しかし神様が求めていたのは完全な従順だったのです。

家を出られる年になってから、両親と過ごす時間を極力少なくしました。彼らが年を取っていく中で、彼らの健康も低下していました。時々彼らにお金を送り、休日に短く彼らを訪ねに行きました。彼らはセントルイスから、彼らの元々の出身地であるミズーリ州の南東部へ引っ越し、私はワクワクしていました。320km以上も離れたところに彼らが住むのであれば、彼らとあまり過ごさなくてもよいという言い訳ができたのです。

一方で、私たちのミニストリーは成長し、人々を助けることに興奮していました。神様は私たちをテレビ業界へ導き、人々を助けるために私が自分のストーリーをテレビで話すと言うことを、両親と向き合い、話さなければいけないとわかっていました。どのようにになってしまうのかわかりませんでした。しかしうまくいくとは期待していませんでした。うれしい驚きではありましたが、父親は私がするべきだと思ったことをするようにとってくれたのです。父親は、彼が犯した虐待がどれだけ私を傷つけることだったのか、全く分からなかったと言いました。しかしそれでも彼は謝ることもなく、悔い改める気もなく、神様との関係を捜し求めることもなかったのです。

それから数年がたった頃、ミニストリーは成長し続けていましたが、私と両親の間では何も変わっていませんでした。彼らは年を取り、健康状態も悪化していました。ちゃんとした生活を送るための十分なお金を持っていなかったのに、定期的にお金を送っていました。それをするだけでも結構寛大になっていると感じていたのに、神様がそれ以上を期待しているとわかった時はとてもショックを受けました。

第15章 - 神様からの報酬

敵を祝福することの本当の意味

敵を愛しなさい。よくしてあげるのです(誰かが彼らから得ることができるように良い事をしなさい)。返してもらうことなど当てにせず、気前よく貸してあげなさい。そうすれば、天から、すばらしい(豊かな、力強い、強烈な、そして、十分な)ごほうびがいただけます。神の子どもになれるのです。神は、恩知らずの者や極悪人にも、あわれみ深い方だからです。

ルカによる福音書6章35節(リビング訳に一部追加)

もし上の聖書箇所をさらっと読んでしまったのなら、もう一度戻って、何といているのか注意深く読んでください。報いはいつやって来ますか?私たちが良い態度で敵に良い事をした後、報いはやって来るのです。

ある朝祈っていると、神様が私の心にささやいたような気がしました。神様は、両親をセントルイスに呼び戻し、彼らのために近くに家を買って、彼らが死ぬまで面倒を見るようにと私たちに望んでいました。すぐさま、悪魔が私を困らせようとしているのだと思い込み、必死でそれを拒み、忘れようとしていました。しかし、神様が私たちに何か語りかけようとしている時は、私たちが聞くまで、何度も繰り返して語ろうとします。あの考えが何度も私に戻って来て、特に祈ろうとすると戻ってくるのです。私が祈っている時に神様が私に何かを伝えようとしているのを想像してみてください!私は自分の必要や願っていることを全て神様に言おうと一生懸命で、神様は、神様が私に求めていることを伝えようと、長い間待っていたのです。

ついにデイヴにこの話をしようと思い、彼がその考えを馬鹿げていると思ってくればそれで終わりだと考えていました。夫である彼に従おうと完全に準備をしたのがその時でした。「ノー」と言ってほしかったのですが、彼はそうは言いませんでした。彼は、「もし神様がそうするよう導いていると感じるのであれば、私たちは従うべきだよ。」と言ったのです。

デイヴと私はそこまでの貯蓄はありませんでしたし、神様が言っていることを行うのであれば、全部でなくとも、ほとんどの貯蓄を使うという状態でした。両親は家が必要だっただけでなく、車や家具も必要でした。彼らが持っていたものは使えないものばかりだったのです。神様は両親の「良い」世話をするよう、また、彼らが世界で最高の両親であるかのように彼らに接するよう、私たちに望んでいると明確にしていました。私の本心は叫び続けていました!どうして神様はこんなことを私に求め

赦し - 自分のための決断

るのか？彼らが私のためにしてくれたことは何もなかったことを神様は忘れたのでしょうか？彼らは私を傷つけ、私が彼らを必要としていた時に味方してくれなかったことを、神様は気にしなかったのでしょうか？私がどう感じているかは、神様は知らず、気にもしなかったのでしょうか？

ポジティブな感情が私を駆り立てることもなく、私はただ神様が言うことを全て実行しました。両親はセントルイスに戻り、私たちの家から8分の所に住み、彼らの必要の全てを世話しました。彼らが年を取るほど、彼らの必要は増えていきました。父親は多少の感謝を口にすることもありましたが、今までと変わらず、意地の悪い不機嫌な人でした。

彼らの世話を始めて3年がたった頃、感謝祭の日の朝に母親から電話があり、父親がその週ずっと泣いていて、あることについて私と話がしたいと言っていることを聞かされました。デイヴと私は彼らの家に行き、父は、私が子どもの頃に彼が私にしたことについて赦しを求めたのです。彼は泣きに泣いて、デイヴにも赦してくれるよう求めました。「多くの男性は私のことを嫌っていた。しかしデイヴ、お前は私をただ愛してくれた。」と言いました。私たちは、彼を赦したことを断言し彼に信じてもらいました。そして、神様にも赦してもらい、イエスを救い主として受け入れたらどうかと尋ねました。彼は受け取りたいと断言し、私たちは祈り、私の父はその瞬間その場所で生まれ変わったのです。父は、私に洗礼を授けてほしいと言い、10日後、セントルイスの中心街にある教会で洗礼を授けました。そこからの4年間は、父の中に本物の変化を見たと言えます。父は86歳で亡くなったのですが、彼は天国にいるとわかっています。

彼らに家を買うようにと神様に言われた時は、結果として後で見ることになる実に気付いていませんでした。私たちを通して神様が私の父に示した恵みの愛は、彼の固い心を溶かし、光を見るための道を彼に開いてくれたのです。この本を書いている現在、私の母はまだ生きています。彼女は87歳で、私たちが払っている介護施設で暮らしています。彼女も神様の子どもです。彼女の健康はあまりよくありませんが、人生の毎日を楽しんでいるように見えます。弟の死について聞かされなければいけない彼女に、心が痛みましたが、神様は彼女にたくさんの恵みを与え、その知らせを聞いた後も彼女は大丈夫そうでした。

先に書いた聖書箇所は、私たちは、敵のために良い事をし、優しく接する必要がある…そうすれば私たちの報いは素晴らしいものだと言っています！神様に犠牲を捧げながら何年も過ごしましたが、本当の従順はできていませんでした。両親のためにしなければいけないことは全部やりました。少し腹を立てながらやっ

第15章 - 神様からの報酬

した。しかし神様はもっと大きな計画を描いていたのです。私がしなければいけないこと、私が受け取るべきものについて、神様はもっと多くのものを描いていました。私自身の霊は、神様に完全に従ったと知り、最高な解放を受け取りました。私を200回以上もレイプした父を神様の元へ導き、洗礼を授けるといふ喜びを体験しました。神様に完全に従った後、神様が何百万人もの人々を助けるための扉を私たちのために開いてくれたことも心から信じています。私たちのテレビ番組は他の言語に通訳され始め、40か国以上の言語で、世界の3分の2の国と地域で放送されています。何千という多くの人々がイエスを彼らの救い主として受け入れ、テレビ放送を通して神様の言葉を学んでいるのです。

神様は本当に素晴らしい方です！自分の力ではできない、しようとも思わないことを、神様は恵みを与え、私たちにさせてくれるのです。私の苦しみの原因だった人をどうやって愛せるでしょうか？助けを求めたのに私を見捨て何もしてくれなかった母親をどうやって愛せるでしょうか？神様の計画は私たちの計画とは全く異なり、私たちを間違っただけで、虐待した人々を赦すというような、自分では決してできないと思うようなことも神様ができるようにしてくれるのです。神様は良い神様で、私たちが神様を頼るなら、神様は、神様の素晴らしいさを私たちを通して、人々へ流したいと願っています。

ここでは私のストーリーの早送りバージョンを伝えました。ほとんどの人がそれぞれ違うストーリーを持っているのは分かっています。もしかしたらあなたのストーリーは私のよりもっと衝撃的かもしれません。神様はあなたの過去の苦しみに変わる2倍の祝福を与えたいと思っています。神様の豊かな報いの中であなたに生きてほしいと望んでいるのです。何にも邪魔させてはいけません。自分のために良い決断をするのです…赦しましょう！！

新たな人生を体験する

もし、あなたがまだ一度もイエスを自分の神様、そして救い主として迎え入れたことがなかったら、ぜひ今迎え入れてみてください。この祈りを心から祈ったとき、あなたはキリストの中で新たな人生(命)を体験するでしょう。

父なる神様、私はイエス・キリストがあなたの息子であり、この世の救い主だと信じます。イエスが私のために十字架にかかって死んでくれたこと、そして私のすべての罪に耐え忍んでくれたことを信じます。イエスは、私が負うべきだった罰を負ってくれました。イエスが亡くなった後に死から復活し、いま、あなたの右の座に着いていることを信じます。イエス、あなたがが必要です。私の罪を赦し、救ってください。そして私の内に住んでください。私は生まれ変わりたいです。

いま、イエスがあなたの心のうちに住んでいることを信じてください。あなたは赦され、正しい者とされました。そしてイエスが再びやって来るとき、あなたは天国へ行くのです。

どうか、神様のことばと、キリストの中で成長することを教えてくれる良い教会を見つけてください。神様のことばを知ることなしに、あなたの人生は変わりません。ヨハネ8章31－32節(新改訳)ではこのように書いています。「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」

最愛のあなたへ、

ヨハネ8章31－32節(新改訳)ではこのように書いています。

「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」

どうか、神様のことばを握りしめ、心にしっかりと植えてください。
そうすることで、2コリント3章18節の神様のことばにあるように、あ
なたはイエス・キリストに似た者へと変えられていくでしょう。

愛をこめて、
ジョイス

ジョイス・マイヤーについて

ジョイス・マイヤーは、聖書の教えを分かりやすく実践的に語る、世界でも有数のメッセンジャーです。ニューヨークタイムズのベストセラー作家でもあり、著書は100冊を超えます。「あなたの人生をシンプルにする100の方法」、「決して諦めないで!」、「思考という名の戦場」など、インスピレーションに溢れた代表作に加え、小説も執筆しています。また、数多くのメッセージをオーディオやビデオで幅広く提供しています。ジョイスのテレビ/ラジオ番組、「人生を毎日楽しむコツ」は世界中で放送されており、ジョイス自身も、カンファレンス講演のため、世界中を飛びまわっています。ジョイスと夫のデイヴは、4人の子どもを育て、現在は米国ミズリー州、セントルイスを拠点としています。

ジョイス・マイヤーへお問い合わせ

ジョイス・マイヤー ミニストリー - ジャパン

(+81) 0120-05-3922

contact@jmmjapan.jp

www.jmmjapan.jp

Joyce Meyer Ministries - USA

(+1) 636-349-0303

www.joycemeyer.org

救いの祈り

神様はあなたを愛していて、あなたと個人的な関係を持ちたいと願っています。もし、あなたが今までイエス・キリストをあなたの救い主として受け入れたことがないのなら、今受け入れることができます。ただ心をイエスに開いて、この祈りを祈ってください。

「天のお父さん、私はあなたに罪を犯してしまっていたことを認めます。私を赦してください。私をきれいさっぱり洗ってください。あなたの息子であるイエスに信頼することを約束します。イエスが私のために死んでくれたことを信じます。十字架上で彼が死んだ時、彼が私の罪を背負ってくれたことを信じます。そして、イエスが死から復活したことを信じます。今、私の人生をイエスに委ねます。

天のお父さん、赦しと永遠のいのちという贈り物を与えてくれてありがとう。あなたのために生きることができるように助けてください。イエスの名によって、アーメン。」

心からこの祈りを祈ったなら、神様はあなたを受け入れました。あなたを清めて、あなたを霊的な死の縛りから解放してくれました。時間をとって以下の聖書箇所を読んでみてください。そして、これからの新しい人生の旅を神様と一緒に歩んでいく中で、神様が語ってくれるように祈ってください。

ヨハネによる福音書 3:16

コリント人への第一の手紙 15:3-4

エペソ人への手紙 1:4

エペソ人への手紙 2:8-9

ヨハネの第一の手紙 1:9

ヨハネの第一の手紙 4:14-15

ヨハネの第一の手紙 5:1

ヨハネの第一の手紙 5:12-13

イエス・キリストとの関係の中で成長することを励まされるような、聖書に基づいた良い教会を見つけることができるように神様に祈り求めてください。神様はいつもあなたと一緒にいてくれます。1日1日、どんな時も神様はあなたを導いてくれます。そして、あなたに用意されている、いのちに溢れた豊かな人生を生きる方法を示してくれるでしょう!

「自分を傷つけた人に対して怒りを抱き続けるということは、その相手が死ぬようにと願いながら実際には自分が毒を飲んでいるようなことなのです。赦さない心は、他の誰でもない、自分自身を一番傷つけてしまっているのです。」

- ジョイス・マイヤー

ジョイスの特徴的なメッセージの土台は、考え方を新たにして人生の困難な問題に打ち勝っていくことです。今回、彼女は人生のあらゆる問題の中でも最も破壊的で陰険な問題に焦点を当てました。それが怒りです。人間関係の崩壊や不眠症、高血圧や胃潰瘍、その他色々な病気の要因は怒りにあるのです。怒りは友人関係や結婚、また家族を崩壊させ、言うまでもなく心の安定をも奪い去ります。特に、「良いクリスチャンは怒らない。」と子供の頃から教えられてきた多くのクリスチャンにとって、怒りはコントロールすることが難しい問題です。適切に対処されるならば、怒りは「何かが間違っていて、それは改善されるべきである」ことを気付かせてくれる健全な警告になるとジョイスは説明しています。

この本の中で彼女は、問題や怒りの根源を見つけること、怒りの現れ方、怒りの人生からくる悲惨な結末、そして最終的には赦しのプロセスについて掘り下げて考えていきます。

なぜ赦すのか？ なぜなら赦しは、怒りが毎日の生活の全てに引き起こす恐ろしい混乱から、私たちが自由にする鍵だからです。

どうやって赦すのか？ 信じがたいかもしれませんが、赦すことは可能です。ジョイスは、怒りを対処するために必要なステップを以下のように記しています。これが本当の癒しをもたらす鍵となるでしょう。

- 自分でも気付いていない怒りの正体を暴くこと
- 怒りっぽい人たちの付き合い方
- 怒りを前向きに利用する方法
- 神様の方法で向き合うことの力
- 自分を赦すことの重要性
- 赦しにおける神様の役割を理解すること
- 手放して、そして神様に頼る方法

人生は不公平であることをジョイスは理解しています。しかし、人生が不公平だとしても、怒りによって私たちの幸せや健康が壊される必要はないのです。

人生の中にある怒りに向き合い、それを解決していくためにこのガイドを利用するならば、神様の助けによって、あなたは真実の平安を得ることが出来るのだと分かるでしょう。